

CA SYSVIEW® Performance Management

インストール ガイド

リリース 13.5



このドキュメント(組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中止、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルでは、以下の CA 製品を参照します。

- CA Datacom®/DB (CA Datacom/DB)
- CA Insight™ Database Performance Monitor for DB2 for z/OS (CA Insight for DB2)
- CA Roscoe® Interactive Environment (CA Roscoe)
- CA 1® Tape Management (CA 1)
- CA TLMS® Tape Management (CA TLMS)
- CA Common Services™ (CCS)
- CA ACF2™ for z/OS
- CA Top Secret® for z/OS (CA Top Secret for z/OS)
- CA Easytrieve® Report Generator (CA Easytrieve RG)
- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW PM)
- CA SYSVIEW® Performance Management CA Datacom® Option (CA SYSVIEW PM CA Datacom Option)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for CICS (CA SYSVIEW PM Option for CICS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for IMS (CA SYSVIEW PM Option for IMS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for TCP/IP (CA SYSVIEW PM Option for TCP/IP)
- CA SYSVIEW® Performance Management for CA Application Performance Management (CA SYSVIEW for CA APM)
- CA MIM™ Resource Sharing (CA MIM RS)
- Unicenter NSM
- CA Service Desk (CA SD)
- CA SymDump® System (CA SymDump)

CAへの連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

以下のマニュアルの更新は、本書の前回のリリース以降に行われたものです。

- 「[CA SYSVIEW の概要 \(P. 13\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[ソフトウェア要件 \(P. 17\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[CA Insight DPM for DB2 \(P. 19\)](#)」セクションを追加しました。
- 「[使用可能なコンポーネント \(P. 25\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[KEYS メンバ - 実行キーの追加 \(P. 29\)](#)」セクションを追加しました。
- 「[ランタイム \(INST0005\) の追加 \(P. 82\)](#)」セクションを追加しました。
- 「[CA MSM を使用しない展開方法 \(P. 111\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 \(P. 116\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[INSTALL による出力 \(P. 128\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[システム環境設定のシステム PARMLIB \(INST0011\) への追加 \(P. 132\)](#)」セクションを追加しました。
- 「[IMOD データセットの定義およびロード \(INST0031 - INST00321\) \(P. 153\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[SSID モジュールのアセンブルおよびリンク \(USRM0001\) \(P. 191\)](#)」セクションを追加しました。

目次

| | |
|---|-----------|
| 第 1 章: 概要 | 13 |
| CA SYSVIEW の概要 | 13 |
| CA SYSVIEW サーバの概要 | 14 |
| 対象読者 | 14 |
| インストール処理の実行 | 15 |
| 他の CA 製品との統合 | 15 |
| 第 2 章: インストールの準備 | 17 |
| ソフトウェア要件 | 17 |
| CA Common Services の要件 | 18 |
| CA Insight for DB2 | 19 |
| GMI ソフトウェア要件 | 19 |
| IBM REXX ライブラリの要件 | 20 |
| セキュリティ要件 | 20 |
| ストレージ要件 | 20 |
| メモリ要件 | 21 |
| リリースの同時使用 | 21 |
| インストールの準備 | 22 |
| 使用可能なオプション | 23 |
| 使用可能なコンポーネント | 25 |
| IBM RMF | 26 |
| MVS/QuickRef インターフェースへのアクセス | 26 |
| CA Common Services for z/OS コンポーネント | 26 |
| 製品のライセンス | 29 |
| KEYS メンバ - 実行キーの追加 | 29 |
| コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 | 33 |
| 第 3 章: CA MSM を使用した製品のインストール | 35 |
| CA MSM を使用する方法: シナリオ | 35 |
| 製品の取得方法 | 36 |
| 製品のインストール方法 | 37 |

| | |
|--|-----------|
| 既存製品の保守方法 | 38 |
| 製品を展開する方法 | 38 |
| 製品を構成する方法 | 39 |
| Web ベース インターフェースを使用した CA MSM へのアクセス | 41 |
| | |
| 第 4 章: Pax-Enhanced ESD からの製品のインストール | 43 |
| Pax-Enhanced ESD を使用して製品をインストールする方法 | 43 |
| Pax-Enhanced ESD ダウンロードの仕組み | 45 |
| ESD 製品のダウンロード ウィンドウ | 46 |
| USS 環境のセットアップ | 49 |
| ファイル システムの割り当ておよびマウント | 50 |
| 製品 pax ファイルの USS ディレクトリへのコピー | 52 |
| バッチ JCL を使用したダウンロード | 53 |
| PC を経由したファイルのメインフレームへのダウンロード | 56 |
| pax ファイルからの製品ディレクトリの作成 | 58 |
| Pax コマンド (Unpackage.txt) を実行するジョブの例 | 59 |
| z/OS データ セットへのインストール ファイルのコピー | 59 |
| インストール ライブラリのアンロード | 61 |
| INSTALL ジョブの変更および実行 | 63 |
| GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 | 65 |
| ESD インストールによる出力 | 78 |
| ライブラリの削除、割り当て、初期化 (INST0001) | 78 |
| z/FS ベース データ セットの割り当ておよびマウント (INST0002) | 79 |
| z/FS リリース 依存 データ セットの割り当ておよびマウント (INST0003) | 80 |
| SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能 (INST0004) | 81 |
| ランタイム ライブラリの作成 (INST0005) | 82 |
| USS ディレクトリのクリーンアップ | 82 |
| メンテナンスの APPLY | 83 |
| HOLDDATA | 84 |
| | |
| 第 5 章: テープからの製品のインストール | 87 |
| テープからのインストール ライブラリのコピー | 87 |
| INSTALL ジョブの変更および実行 | 89 |
| GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 | 91 |
| テープ インストールによる出力 | 104 |
| ライブラリの削除、割り当て、初期化 (INST0001) | 104 |

| | |
|---|-----|
| z/FS ベース データセットの割り当ておよびマウント(INST0002) | 105 |
| z/FS リリース依存データセットの割り当ておよびマウント(INST0003) | 106 |
| SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能(INST0004) | 107 |
| ランタイム ライブラリの作成(INST0005) | 108 |
| メンテナンスの APPLY | 108 |
| HOLDDATA | 109 |

第 6 章: 製品の開始準備 111

| | |
|--|-----|
| CA MSM による展開の完了方法..... | 111 |
| CA MSM を使用しない展開方法..... | 111 |
| CA MSM を使用して設定を完了する方法..... | 113 |
| CA MSM なしで設定する方法..... | 113 |
| 製品設定用のサンプル JCL | 114 |
| INSTALL ジョブの変更および実行 | 115 |
| ランタイム ライブラリの作成(INST0005) | 130 |
| システム情報ユーティリティ GSVCUTIL の実行(INST0010) | 131 |
| システム PARMLIB へのシステム環境設定オプションのコピー(INST0011) | 132 |
| MVS 制御ブロックマップのアセンブル(INST0013) | 145 |
| JES 構成名テーブルの更新 | 146 |
| JES 構成モジュールのアセンブルおよびリンク(INST0020) | 150 |
| JES 制御ブロックマップのアセンブル(INST0021) | 151 |
| Event Capture インデックスデータセットの初期化(INST0030) | 152 |
| IMOD データセットの定義およびロード(INST0031 - INST00321) | 153 |
| ログストリームの定義(INST0040 - INST0046) | 153 |
| セキュリティデータセットの変換(INST0050) | 176 |
| プロファイルデータセットの変換(INST0051) | 179 |
| CICS テーブルの更新(INST0060) | 181 |
| CICS オブジェクトメンバのリンクエディット(INST0061) | 188 |
| CICS JCL の更新 | 189 |
| 動的なインストールユーティリティを実行します(INST0100) | 190 |
| サンプルライブラリへのインストールメンバのコピー(INST0110) | 191 |
| デフォルト SSID のアセンブルおよびリンク(USRM0001) | 191 |
| 製品の開始準備..... | 191 |
| ASID の増加(オプション) | 192 |
| SVC および LPA モジュールのシステムへの追加(オプション) | 194 |
| ロードライブラリに対する APF 許可 | 195 |

| | |
|--|------------|
| LOGR EXIT および Linklist のセットアップ | 195 |
| システムプロシージャライブラリへのスタートアップ手順の追加 | 196 |
| 製品の起動 | 197 |
| インストール後の考慮事項 | 197 |
| 第 7 章: データ移行の情報 | 199 |
| 製品システム設定オプション | 199 |
| SYSVIEW サブシステム | 200 |
| サーバアドレス空間 | 200 |
| テンプレートデータセット | 201 |
| ユーザ異常終了および理由コード | 201 |
| WTO コンソール メッセージ | 202 |
| 外部セキュリティ SAF EXIT | 204 |
| MQSERIES Parmlib | 204 |
| 時間またはインターバルの値の形式 | 205 |
| 付録 A: CCS for z/OS コンポーネントの要件 | 207 |
| FMID | 207 |
| CA LMP(ライセンス管理プログラム) | 207 |
| IBM Health Checker へのインターフェース | 208 |
| CA zIIP 有効化サービス | 208 |
| 付録 B: インターフェース オプション | 211 |
| TSO および CA Roscoe/ETSO インターフェースのサポート | 211 |
| CA Roscoe/ETSO からの CA SYSVIEW へのアクセス | 211 |
| ISPF インターフェースのサポート | 212 |
| ISPF サポートの永続的なインストール | 212 |
| ISPF サポートの動的なインストール | 213 |
| VTAM インターフェースのサポート | 214 |
| VTAM サポートのインストール | 214 |
| CICS インターフェースのサポート | 215 |
| CICS ユーザ ID EXIT ルーチン | 216 |
| セキュリティシステムを使用するための EXIT の変更 | 216 |
| CICS トランザクション終了 EXIT ルーチン | 216 |
| トランザクション終了 EXIT の変更 | 217 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| コンソールインターフェースのサポート..... | 217 |
| CA GSS が CA SYSVIEW と通信を行う仕組み | 217 |
| コンソールインターフェースの有効化 | 218 |
| コンソールインターフェースのカスタマイズ | 218 |
| ローカル 3270 デバイスインターフェースのサポート..... | 219 |
| バッチインターフェースのサポート..... | 219 |

索引

221

第1章：概要

このガイドでは、CA SYSVIEW をインストールおよび実装する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [CA SYSVIEW の概要 \(P. 13\)](#)
- [CA SYSVIEW サーバの概要 \(P. 14\)](#)
- [対象読者 \(P. 14\)](#)
- [インストール処理の実行 \(P. 15\)](#)
- [他の CA 製品との統合 \(P. 15\)](#)

CA SYSVIEW の概要

CA SYSVIEW は、z/OS システム環境でパフォーマンスの監視および管理を行うツールです。オペレータ、システム プログラマ、パフォーマンス アナリストおよびエンドユーザーは、以下のリソースを監視および管理することができます。

- z/OS
- JES2
- JES3
- DB2
- CICS
- IMS
- CA Datacom/DB
- TCP/IP
- WebSphere MQ

注: 製品コンポーネントとオプションの詳細については、CA SYSVIEW オンラインヘルプを参照してください。他の疑問点についての情報を取得するには、<http://ca.com> にアクセスして「SYSVIEW」で検索するか、または Solutions、Product Solutions、Enterprise Systems Management、Server Management、Systems Management for z/OS の順で目的のページに移動してください。

CA SYSVIEW サーバの概要

CA SYSVIEW Server は、他の CA ソフトウェア製品へのデータプロバイダーとなるように設計されています。すべてのユーザが CA SYSVIEW Server を実行できます。

SYSVIEW 3270 インターフェースは、CA SYSVIEW Server のユーザのみが使用できます。機能は限定されています。

ライセンス取得済みオプションのいずれかで CA SYSVIEW を実行中の場合、CA SYSVIEW のサーバ機能は自動的に利用可能になります。CA SYSVIEW の複数のコピーは必要ありません。

ライセンス オプション：

- CA SYSVIEW CA Datacom Option
- CA SYSVIEW Option for CICS
- CA SYSVIEW Option for IMS
- CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- CA SYSVIEW for CA APM
- Event Capture
- WebSphere MQ
- z/OS

対象読者

このガイドは、以下の分野について知識のある読者を対象としています。

- JCL
- TSO/ISPF
- z/OS 環境、この環境へのソフトウェアのインストール
- 自社の IT 環境、エンタープライズ構造、領域構造

以下の担当者との共同作業が必要となる場合があります。

- システム プログラマ(z/OS および VTAM 定義のため)
- ストレージ管理者(DASD 割り当てのため)

インストール処理の実行

インストールプロセスの手順は以下のとおりです。

1. インストールの準備を行い、お使いのサイトがインストール要件をすべて満たしていることを確認します。
2. 以下のいずれかの方法で製品を取得します。
 - CA MSM

注: CA MSM が存在しない場合、CA Support Online の Download Center からダウンロードできます。インストール手順については、「*CA Mainframe Software Manager Product Guide*」を参照してください。これは、<https://support.ca.com/> の Documentation ページで提供されています。
 - Pax-Enhanced ESD (Electronic Software Delivery)
 - テープ
3. 取得方法に基づいて製品をインストールします。
4. サイトで必要な CA Common Services が含まれている pax ファイルを使用して、CA Common Services をインストールします。すべてのサイトで、Required CA Common Service バンドル内に含まれている CA Common Services をすべてインストールする必要があります。
5. 該当する場合、保守を適用します。
6. 製品を設定します。

他の CA 製品との統合

以下の CA 製品が CA SYSVIEW と統合されます。

- CA NSM

CA NSM とのインターフェースを通じて、CA SYSVIEW のデータ収集機能を用可能です。このインターフェースは TCP/IP 通信テクノロジを使用しています。

- CA Service Desk

CA Service Desk がインストールされている場合、製品の予期しない異常終了時に CA SYSVIEW が CA Service Desk リクエストを開始するように許可することができます。この機能により、確認された問題が組織内で迅速に記録および通知されます。その結果、組織のシステムパフォーマンスの監視に影響する可能性のあるより深刻な問題が発生する前に、そうした状況に対処できます。

注: インストールの詳細については、CA Service Desk のマニュアルを参照してください。

- CA OPS/MVS

CA OPS/MVS がインストールされている場合、CA SYSVIEW は CA OPS/MVS にイベント通知を送ることができます。

- CA SymDump System

CA SymDump System は、ダンプキャプチャ中の診断のレポートの生成に CA SYSVIEW テクノロジを使用します。任意の CA SYSVIEW コマンドからの出力をキャプチャして、ダンプデータセットに書き込み、後で参照することができます。CA SymDump System ライブラリのレポート制御文を使用すると、各タイプのダンプについてどのレポートを作成するかを詳細にコントロールできます。CA SymDump System は、CA Common Services for z/OS の GSS コンポーネントを使用して CA SYSVIEW と通信します。ダンプのキャプチャおよび表示を行う前に GSS をインストールします。

- CA APM

CA SYSVIEW と CA APM の統合により、以下の機能が提供されます。

- CICS トランザクション追跡

CA SYSVIEW は CA APM のトランザクション追跡を CICS まで拡張します。これにより、エンドツーエンドでの可視性が高まり、トランザクションパフォーマンスの問題を迅速に特定することができます。

- Introscope ダッシュボード

CA SYSVIEW と CA APM 間でダッシュボードを統合することにより、メインフレームの統計情報およびメトリックが CA APM バスへ渡され、メインフレームとその他の管理対象プラットフォームのデータを並列して参照することができます。

第2章：インストールの準備

このセクションでは、製品をインストールする前に必要な知識および作業について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [ソフトウェア要件 \(P. 17\)](#)
- [CA Common Services の要件 \(P. 18\)](#)
- [CA Insight for DB2 \(P. 19\)](#)
- [GMI ソフトウェア要件 \(P. 19\)](#)
- [IBM REXX ライブラリの要件 \(P. 20\)](#)
- [セキュリティ要件 \(P. 20\)](#)
- [ストレージ要件 \(P. 20\)](#)
- [メモリ要件 \(P. 21\)](#)
- [リースの同時使用 \(P. 21\)](#)
- [インストールの準備 \(P. 22\)](#)
- [使用可能なオプション \(P. 23\)](#)
- [使用可能なコンポーネント \(P. 25\)](#)
- [IBM RMF \(P. 26\)](#)
- [MVS/QuickRef インターフェースへのアクセス \(P. 26\)](#)
- [CA Common Services for z/OS コンポーネント \(P. 26\)](#)
- [コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 \(P. 33\)](#)

ソフトウェア要件

CA SYSVIEW には、以下のソフトウェアが必要です。

| オプション/コンポーネント | 製品 | サポート対象リリース | サポート終了 |
|--|------|------------------|--------|
| ベース | z/OS | 1.11, 1.12, 1.13 | 1.10 |
| | JES2 | 1.11, 1.12, 1.13 | 1.10 |
| | JES3 | 1.11, 1.12, 1.13 | 1.10 |
| CA Insight for DB2 の CA SYSVIEW コンポーネント | DB2 | 8.1, 9.1, 10.1 | なし |

| オプション/コンポーネント | 製品 | サポート対象リリース | サポート終了 |
|------------------------------|---|--------------------|--------|
| | 以下の製品が必要です。 | 14.0, 14.5, 15.0 | なし |
| | <ul style="list-style-type: none"> ■ CA Insight for DB2 ■ CA DB2 Tools ■ Xmanager ■ CA DB2 Tools Xnet | | |
| CA SYSVIEW Option for CICS | CICS Transaction Server | 3.1, 3.2, 4.1, 4.2 | なし |
| CA SYSVIEW CA Datacom Option | CA Datacom | 11.0, 12.0, 14.0 | なし |
| | CA Datacom CICS Services | 11.0, 14.0 | なし |
| CA SYSVIEW Option for IMS | IMS | 10.1, 11.1, 12.1 | 9.1 |
| Option for WebSphere MQ | Websphere MQ for z/OS | 6.0, 7.0.1 | 7.0 |

CA Common Services の要件

以下の CA Common Services は CA SYSVIEW と共に使用されます。

- CAICCI
- CAIRIM
- CAIRIM の CA LMP
- CAIRIM の CAISSF
- CA GSS
- CA Health Checker Common Service
- CAIRIM の CA zIIP 有効化サービス

注: 他の CA 製品が環境にインストールされている場合、これらのサービスの一部がすでにインストールされている可能性があります。

CA Insight for DB2

コンポーネント CA SYSVIEW for CA Insight for DB2 を使用するには、以下のチェックを行います。

- 以下の製品がユーザのシステムにインストールされている。
 - CA Insight for DB2 バージョン 14.0.0 以降
 - CA DB2 Tools Xmanager バージョン 14.0.0 以降
 - CA DB2 Tools Xnet バージョン 14.0.0 以降
- XNET エージェントが開始するように設定されている。

GMI ソフトウェア要件

CA SYSVIEW CA Vantage GMI コンポーネントを使用するには、以下がユーザのシステムにインストールされることを確認します。

- CA Vantage クライアントリリース 12.5.0 以降
- CA Vantage リリース 12.5.0 以降
- CA SYSVIEW ユーザ アドレス空間:
 - XSystem eXternal Session Server
ユーザセッションを確立するために、外部サーバを使用して CA SYSVIEW への CA Vantage GMI のアクセスを提供します。
 - CAICCI
通信プロトコルを提供します。
- 注: 詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。
- SYSLOG および OUTPUT オブジェクトには、IBM REXX ライブラリが必要です。

IBM REXX ライブラリの要件

REXX ライブラリは、以下で必要になります。

- IPCONFIG、IPSTATS および IPDEVICE コマンド
- コマンド DASHBOARD
- GMI の下の SYSLOG および OUTPUT オブジェクト

注: Alternate Library for REXX は無料であり、Library for REXX on zSeries を購入することなく、REXX のコンパイル済みコードを実行できます。Alternate Library for REXX は z/OS V1R9 に含まれています。また、次のリンクから利用可能です。

<http://www-01.ibm.com/support/Alternate REXX Library>

セキュリティ要件

CA SYSVIEW 内部セキュリティを使用して、CA SYSVIEW および CA SYSVIEW のコマンドおよびコマンド グループへのユーザ アクセスを制御します。セキュリティ要件の詳細については、「*Security Guide*」を参照してください。

ストレージ要件

以下のストレージが利用可能であることを確認します。

- ESD インストールの場合、CA SYSVIEW 製品パッケージのダウンロード用に 30 シリンダ。
- インストールおよびセットアップ:
 - インストール = 372 シリンダ
 - SMP/E 一時ライブラリ = 372 シリンダ

メモリ要件

以下のメモリが利用可能であることを確認します。

- すべてのオプションがアクティブに設定されている 1208 KB のプライベート領域ストレージ。

このストレージのほとんどは 16 MB ラインを超える領域に割り当てられます。必要メモリの最大量は、どの製品コマンドが入力されるかに依存します。ページング可能なリンクパック領域に再入可能な CA SYSVIEW モジュールを配置することにより、プライベート領域ストレージの要件を減らすことができます。
- 1 KB の共通ストレージ域(CSA)
- すべてのユーザに対して恒久的にすべてのオプションを有効にした 500 KB の拡張 CSA

他のアドレス空間から CA SYSVIEW アドレス空間にデータを転送する短い期間(1 秒未満)、追加の拡張 CSA が必要になります。

リリースの同時使用

運用環境において、このリリースの CA SYSVIEW をインストールし、古いリリースも引き続き使用することができます。前のリリースを引き続き実行する場合は、以下の事項に注意してください。

- 既存の SMP/E 環境にインストールする場合は、このインストールによって旧リリースは削除されます。
- SVC モジュール GSVXSVC は後方互換性があります。CA SYSVIEW の以前のリリースとの SVC の共有を計画する場合は、条件付けメンテナンス(CA SYSVIEW 12.5 用に PTF RO25530 または CA SYSVIEW 12.7 用に PTF RO25023)を適用します。
- テープから、または Pax-Enhanced ESD で製品を取得した場合は、現在のリリースがインストールされていないターゲットおよび配布ゾーンを新リリース用として選択します。新しいゾーンは、現在のリリースとは異なるライブラリを使用します。

注: CA MSM はデフォルトで新しい CSI にインストールされます。

- 新しいゾーンで DDDEF エントリを定義して、SMP/E がインストール用の適切なライブラリを指すようにします。DDDEF エントリが新しいリリースライブラリを指していることを確認します。

インストールの準備

インストールを開始する前に、以下の項目を確認してください。

- 以前のリリース以降追加された拡張機能や変更などを含め、どのような変更があったかを把握するために、「リリースノート」をご覧ください。
- 念のために、テスト環境で製品とそのコンポーネントのインストールを行い、事前に製品を評価します。このテストによって、他のベンダー製品との競合が検出される可能性があります。
- どのオプションおよびコンポーネントをインストールし、有効にするかを決定します。
- 前提条件およびシステム要件がすべて満たされていることを確認します。
- CA SYSVIEW RMF コンポーネントが正常に動作するには、IBM の RMF(リソース管理機能)がインストールされている必要があります。RMF コンポーネントは RMF から取得されたデータを表示します。
- IBM REXX ライブラリ
 - Library for REXX on zSeries
 - Alternate Library for REXX

Alternate Library for REXX は無料であり、Library for REXX on zSeries を購入することなく、REXX のコンパイル済みコードを実行できます。Alternate Library for REXX は z/OS V1R9 に含まれています。また、次のリンクから利用可能です。

<http://www-01.ibm.com/support/Alternate REXX Library>

- CA Common Services for z/OS のコンポーネントおよび機能を使用するには、以下の各コンポーネントに適用される要件が満たされていることを確認します。
 - CAIRIM
 - CAIRIM の CA LMP
 - CAICCI
 - CA GSS
 - CA Health Checker
 - CAIRIM の CA zIIP 有効化サービス
- 各 IPL の後に CA SYSVIEW が動的にインストールされる場合は、SYSVIEW メインアドレススターイidd タスク プロシージャが CA GSS より先に開始されるようにします。SYSVIEW スターイidd タスク プロシージャには、製品を動的にインストールする最初の手順が含まれています。
- SMP/E は CA SYSVIEW をインストールし、保守し、サービスを提供するためには、SMP/E は、インストールされている要素の適切なレベルを選択し、システムユーティリティプログラムをコールして変更をインストールし、これらの変更を記録します。
- CA SYSVIEW を開始できるようにするには、製品ライセンスを許可するために CA LMP ステートメントをコーディングする必要があります。
- CA SYSVIEW を開始できるようにするには、CAIRIM の CA LMP 機能を使用して CA SYSVIEW 機能を許可する必要があります。

使用可能なオプション

インストール可能な CA SYSVIEW オプションが以下の表に表示されます。オプションのインストール後、それを有効にするかどうか選択できます。この表には、オプションを有効にするためにインストール中に指定する LMP コードおよび OPTIONS 値が含まれています。またこの表には、各オプションのインストールおよびカスタマイズ要件が含まれています。

| オプション | オプションの値 | LMP コード | インストールおよびカスタマイズの要件 |
|------------------------------------|----------|---------|--|
| Base (z/OS) | MVS | FU | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| CA SYSVIEW Option for CICS | CICS | FV | インストール処理を完了してください。CA SYSVIEW Option for CICS のインストール手順を完了します。 |
| CA SYSVIEW CA Datacom Option | DATACOM | FW | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 注: CA SYSVIEW CA Datacom Option アドレス空間の定義については、「Administration Guide」を参照してください。 |
| TCP/IP | TCPIP | JD | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| CA SYSVIEW Option for IMS | IMS | PH | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ | MQSERIES | JE | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| CA SYSVIEW Event Capture Option | CAPTURE | 2G | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| CA SYSVIEW for CA APM | WILYAPM | 11 | インストール処理を完了してください。追加の手順は必要ありません。 |

詳細:

[コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 \(P. 33\)](#)

使用可能なコンポーネント

インストール可能な CA SYSVIEW オプションが以下の表に表示されます。コンポーネントのインストール後、COMPONENT 値としてそれを有効にします。この表には、コンポーネントを有効にするためにインストール中に指定する LMP コードおよび COMPONENT 値が含まれています。またこの表には、各コンポーネントのインストールおよびカスタマイズ要件が含まれています。

注: コンポーネントのカスタマイズについては、「*Administration Guide*」に記述されている手順に従います。

| コンポーネント | COMPONENT 値 | LMP コード | インストールおよびカスタマイズの要件 |
|--|-------------|---------|--|
| CA MIM | MIM | FU | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| CA Roscoe | ROSCOE | FU | インストール処理を完了してください。 注: CA Roscoe モニタのインストールの詳細については、「 <i>Administration Guide</i> 」を参照してください。 |
| CA SYSVIEW for DB2 CA Insight for DB2 | DB2 | IE | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| Cross-System | XSYSTEM | FU | XSYSTEM および SYSNAMES parmlib メンバを確認し、インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 注: 有効な parmlib メンバおよびコンポーネントのリストに関しては、「 <i>Administration Guide</i> 」を参照してください。 |
| USS | USS | FU | インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |
| IBM Health Checker | HCHECK | FU | 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 |

詳細:

[コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 \(P. 33\)](#)

IBM RMF

CA SYSVIEW は、IBM Resource Management Facility (RMF) によって CA SYSVIEW RMF 画面に表示されるデータを使用します。CA SYSVIEW ディスプレイのデータを収集するためには、RMF および RMF Monitor III がアクティブである必要があります。

MVS/QuickRef インターフェースへのアクセス

Chicago-Soft MVS/QuickRef 製品インターフェースは、CA SYSVIEW 製品メッセージへのアクセスを提供します。

MVS/QuickRef 製品インターフェースのアクセス方法

1. QUICKREF コマンドを発行します。

QuickRef データベースに問い合わせを行う、直接プログラム呼び出しが生成されます。QUICKREF コマンドでは、ロード モジュールの標準の検索順序を使用して、QuickRef ロード モジュールが利用可能である必要があります。QuickRef ロード ライブラリが LNKLST 連結の一部でない場合は、手順 2 に移ります。

2. STEPLIB または TASKLIB に QuickRef ロード ライブラリを追加します。

CA SYSVIEW ユーザ インターフェースのアドレス空間(SYSVUSER)および TSO ユーザのアドレス空間の両方で、MVS/QuickRef アクセスを利用可能にする必要があります。

CA Common Services for z/OS コンポーネント

この製品をライセンスするのに必要な CA Common Services for z/OS コンポーネントを、以下のリストに示します。

注: CA Common Services for z/OS コンポーネントの詳細については、[テクニカルサポートの Web サイト](#) (P. 4)で CA Common Services for z/OS のドキュメントを参照してください。

CAIRIM

オペレーティングシステム環境ですべての CA アプリケーションのための準備が行われ、CA アプリケーションが起動されます。CAIRIM は、一連の動的初期化ルーチン用の共通ドライバです。ユーザ SVC、SMF EXIT、サブシステムなど、システムアプリケーションのインストール時に要求される一般的なインストール要件を不要にします。

CAIRIM の重要な 2 つの要素は、CAISSF と CA LMP です。

CAISSF

すべてのシステムリソースプロセスとアプリケーションリソースプロセスへの制御と監視アクセスのための外部セキュリティ機構が実現されます。CAISSF は、多くの CA エンタープライズアプリケーションに組み込まれており、ほかの CCS for z/OS サービスによっても使用されます。CAISSFにより、ユーザログオン用のセキュリティサービス、リソースアクセス制御、プロセス使用制御、違反アクティビティの記録と監視が行われます。

CA LMP

CAIRIM の重要な要素として提供されています。CA LMP により、ライセンスされているソフトウェアの、標準化された自動トラッキング機能が実現されます。CAIRIM のインストール後に、すべての CA LMP サポート対象製品についてテクニカルサポートにアクセスできます。

CAICCI

CA エンタープライズアプリケーションに共通通信ソフトウェア層が提供されます。これにより、アプリケーションがプロトコルの詳細、エラー回復、システム接続の確立を処理しなくてもすみます。

CA GSS

CA GSS は、CA Common Services for z/OS の一部で、CA Common Services for z/OS と一緒にインストールされます。

本製品の機能の一部を最大限に活用するには、ご自分のサイトに CA GSS がインストールされている必要があります。CA GSS が必要な機能を以下に示します。

- システム状態モニタ(SCM)
- コンソールインターフェース
- しきい値超過時のシステム監視の自動化を行うための IMOD の使用

注: CA GSS のカスタマイズの詳細については、「Administration Guide」を参照してください。

CA Health Checker

IBM Health Checker for z/OS で動作するヘルスチェックを作成するために、CA 製品において容易で一貫性のある方法を提供します。IBM Health Checker for z/OS は、ユーザが推奨される設定を使用してシステムまたは製品のパラメータ、およびシステム ステータスを調べることによって、z/OS 環境内で考えられる問題を特定する上で有用です。CA では、CA z/OS 製品に対するチェックの作成において、他のベンダーを追加しました。以下のコンポーネントがインストールおよび設定されているシステム上で製品が開始されると、CA SYSVIEW ヘルス チェックがターゲットシステム上で自動的にアクティブになります。

- CA Health Checker Common Service
- IBM Health Checker for z/OS

CA Health Checker Common Service のインストールの詳細については、「*CA Common Service インストール ガイド*」を参照してください。

IBM Health Checker for z/OS の詳細については、「*IBM Health Checker for z/OS User Guide*」を参照してください。

製品のライセンス

本製品を使用する各システムに本製品のライセンスを交付するには、CA Common Services CA License Management Program (LMP) ステートメントを記述します。

以下の手順に従います。

1. システムに CA Common Services CA Resource Initialization Manager (CAIRIM) がインストールされていることを確認します。
 2. CAIRIM KEYS メンバの CA LMP ステートメントとして、製品のキー証明書から製品ライセンス LMP コードを追加します。
注: 詳細については、「*CA Common Services for z/OS Administration Guide*」を参照してください。
 3. 次の IPL で CAS9 プロシージャを開始します。あるいは、次の IPL を待機しない場合は、以下を行います。
 - a. 別の名前を使用し、以下の設定で、特殊な CAS9 プロシージャを作成します。
 - PARMLIB および AUTOCMDS DD ステートメントを DUMMY に設定
 - 新規に追加された LMP キー ステートメントで、KEYS DD ステートメントを KEYS メンバに設定
 - b. 特殊なプロシージャを開始します。
- 製品がシステムにライセンスされます。

KEYS メンバ - 実行キーの追加

適切に初期化が実行されるようにするために、製品のキー証明書で提供される CA LMP 実行キーを CAIRIM パラメータに追加する必要があります。

CA LMP 実行キーを CAIRIM パラメータに定義するには、KEYS メンバを変更します。

KEYS メンバ用のこのサンプル パラメータ構造は以下のようになります。

```
PROD(pp) DATE(ddmmmyy) CPU(tttt-mmmm/sssss)
LMPCODE(kkkkkkkkkkkkkkkk)
```

パラメータ定義は以下のとおりです。

PROD(*pp*)

2 文字の製品コードを指定します。このコードは、製品の以前のバージョン(存在する場合)の CAIRIM 初期化パラメータによってすでに使用されている製品コードと一致します。

pp の値を以下に示します。

FU

CA SYSVIEW を示します

FV

CA SYSVIEW Option for CICS を示します

FW

CA SYSVIEW CA Datacom Option を示します

2G

CA SYSVIEW Event Capture Option を示します

IE

CA Insight for DB2 を示します

JE

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ を示します

PH

CA SYSVIEW Option for IMS を示します

JD

CA SYSVIEW Option for TCP/IP を示します

11

CA SYSVIEW for CA APM を示します

DATE(*ddmmmyy*)

CA LMP ライセンス契約の有効期限(例: 13MAR12)を指定します。

CPU(*tttt-mmmm/ssssss*)

tttt

CA LMP を実行する CPU のタイプ(例:3090)が指定されます。

-mmmm

CA LMP を実行する CPU のモデル(例:600)が指定されます。

注: CPU のタイプまたはモデルが 4 文字未満である場合は、未使用部分に空白が挿入されます。

/ssssss

CA LMP が実行される CPU のシリアル番号を指定します。

LMPCODE(*kkkkkkkkkkkkkkkkkk*)

CA LMP を実行するのに必要な実行キー(*kkkkkkkkkkkkkkkkkk*)が指定されます。この CA LMP 実行キーは、各 CA LMP ソフトウェアソリューションに同梱されたキー証明書に記載されています。

例: CA LMP 実行キーの追加

以下に、CA LMP 実行ソフトウェア パラメータに対する制御ステートメントの例を示します。

```
PROD(Y7) DATE(27JUN12) CPU(2097-E26 /370623)  
LMPCODE(52H2K06130Z7RZD6)
```

この例では、指定された CPU 上で実行している製品について、CA LMP ライセンス契約が 2012 年 6 月 27 日で期限切れになります。ユーザのサイトで製品をインストールする場合、製品コードと実行キーの値は異なります。

注: CAIRIM パラメータへの CA LMP 実行キーの定義に関する包括的な手順説明、および CAIRIM の機能と関連ユーティリティの詳細については、「*CA Common Services for z/OS Administration Guide*」を参照してください。

CA LMP キー証明書

CA License Managed Program (CA LMP) キー証明書を検査します。この証明書には、以下の情報が含まれています。

製品名

指定されたサイトおよび CPU に対してライセンスが発行された製品の商標名または登録商標名を定義します。

製品コード

製品に対応する 2 文字のコードを定義します。

補足

特定の機能のライセンスの参照番号を定義します。形式は以下のとおりです。

nnnnnnnn-nnn

この形式は北米地域とそれ以外で若干異なります。また、参照番号が一切提供されていないこともあります。

CPU ID

この製品のインストールが有効な特定の CPU を識別するコードを定義します。

実行キー

CA LMP で製品のインストールに必要な暗号化コードを定義します。インストール時には、LMP コードとして参照されます。

満了日

ライセンスの有効期限日を定義します。形式は以下のとおりです。

ddmmmyy

例: 21Mar12

テクニカル コンタクト

製品のインストールとメンテナンスを担当する、サイトに指定された技術担当者の名前を定義します。弊社では、CA LMP に関するすべての連絡をこの担当者と行います。

MIS ディレクタ

MIS ディレクタ(サイトでこの機能を実行する担当者)の名前を定義します。証明書に役職のみが指定されていて、個人名が指定されていない場合、証明書を修正または確認する際に実際の名前を追加してください。

CPU 所在地

CPU がインストールされている建物の所在地を定義します。

コンポーネントおよびオプションを有効にする方法

コンポーネントおよびオプションを有効にすることで、それぞれのコマンドを使用できるようになります。デフォルトでは、CA SYSVIEW メイン メニューからそれらのコマンドにアクセス可能です。

インストール中に、各コンポーネントおよびオプションについて、COMPONENTS と OPTIONS の値を指定します (COMPONENTS と OPTIONS は変更可能な GSVIINST パラメータです)。インストール完了後、COMPONENTS と OPTIONS の値の設定により、使用する予定のコンポーネントおよびオプションが有効になります。

詳細:

[使用可能なコンポーネント \(P. 25\)](#)

[使用可能なオプション \(P. 23\)](#)

第3章: CA MSM を使用した製品のインストール

これらのトピックによって、CA MSM を使用して製品の管理を開始するのに必要な情報が提供されます。CA MSM のオンライン ヘルプを使用して、追加情報を取得できます。

これらのトピックを使用する前に、CA MSM がすでにサイトにインストールされている必要があります。CA MSM がインストールされていない場合、CA Support の [Web サイト](#) の Download Center からダウンロードできます。また、ここから CA MSM のすべてのドキュメントのリンクも利用できます。

注: このセクションに記載されている情報は、CA MSM の最新版に適用されます。以前のバージョンを使用している場合は、CA メインフレームソフトウェア マネージャの製品ページで適切なマニュアル選択メニューを参照してください。

CA MSM を使用する方法: シナリオ

以下に示すシナリオでは、最近あなたの組織が、CA Technologies 製品のインストールを簡略化し、それらの管理を統一化するために CA MSM を導入したものとします。また、新しい CA Technologies 製品のライセンスも取得したものとします。さらに、すでにインストール済みの製品の多数の既存 CSI があります。

- 最初のシナリオでは、CA MSM を使用して、新しい製品を取得する方法を示します。
- 2 番目のシナリオでは、CA MSM を使用して、新しい製品をインストールする方法を示します。
- 3 番目のシナリオでは、CA MSM を使用して、環境内にすでにインストールされている製品を管理する方法を示します。
- 4 番目のシナリオでは、CA MSM を使用して、その製品をターゲットシステムに展開する方法を示します。
- 5 番目のシナリオでは、CA MSM を使用して、展開した製品をターゲットシステムに適合するように構成する方法を示します。

製品の取得方法

*Product Acquisition Service (PAS)*によって、メインフレーム製品、およびそれらの製品用のサービス(プログラム一時修正(PTF)など)の取得を容易に行えるようになります。PAS は、ユーザのサイトが資格を与えられている製品の情報を取得し、ユーザの実行環境で維持されているソフトウェアインベントリにこれらの資格を記録します。

CA MSM の PAS コンポーネントを使用して、CA Technologies 製品を取得できます。

以下の手順に従います。

1. CA Support Online アカウントをセットアップします。
CA MSM を使用して製品を取得またはダウンロードするには、CA Support Online のアカウントが必要です。アカウントがない場合は、CA Support の [Web サイト](#)でアカウントを作成できます。
2. サイトの CA MSM の URL を決定します。
[CA MSM](#) (P. 41) にアクセスするには、その URL が必要です。URL をサイトの CA MSM 管理者から取得し、z/OS 認証情報を使用してログインできます。初回ログイン時に、CA Support の [Web サイト](#)の認証情報で CA MSM アカウントの作成を促すメッセージが表示されます。このアカウントによって、製品パッケージをダウンロードできます。
3. CA MSM にログインし、Software Catalog ページに移動して、管理する製品を見つけます。
CA MSM にログインした後、[Software Catalog] タブにユーザの組織に対してライセンスが付与されている製品が表示されます。
取得する製品が見つからない場合は、カタログを更新してください。CA MSM は、CA Support の [Web サイト](#) 全体で CA Support の [Web サイト](#)に対するユーザの認証情報に関連付けられたサイト ID を使用して、カタログをリフレッシュします。
4. 製品インストールパッケージをダウンロードします。
カタログで製品が見つかったら、その製品のインストールパッケージをダウンロードできます。
CA MSM は CA FTP サイトからパッケージ(任意のメンテナンスパッケージを含む)をダウンロード(取得)します。

取得プロセスの完了後、製品はインストールまたは保守可能な状態になります。

製品のインストール方法

ソフトウェアインストール サービス(SIS)によって、稼働システムのソフトウェアインベントリへのメインフレーム製品のインストールおよびメンテナンスが容易になります。このような作業には、ダウンロード済みソフトウェア パッケージの参照、稼働システム上の SMP/E 統合ソフトウェア インベントリ(CSI)の管理、およびインストール タスクの自動化などがあります。

CA MSM の SIS コンポーネントを使用して、CA Technologies 製品をインストールできます。

以下の手順に従います。

1. 製品のインストールを開始し、製品情報を確認します。
2. インストール タイプを選択します。
3. インストールの前提条件を確認します(何らかの条件が示されている場合)。
4. 以下のいずれかを実行して、CSI を選択します。
 - 新規 CSI の作成:
 - a. グローバルゾーンをセットアップします。
 - b. ターゲットゾーンを作成します。
 - c. 配布ゾーンを作成します。
 - 作業セットの既存の CSI の使用:
 - a. グローバルゾーンを更新します。
 - b. ターゲットゾーンのセットアップ: ターゲットゾーンを新規作成するか既存のターゲットゾーンを使用します。
 - c. 配布ゾーンのセットアップ: 配布ゾーンを新規作成するか既存の配布ゾーンを使用します。
5. インストール サマリを確認して、インストールを開始します。

これで、製品を展開できる状態になりました。

既存製品の保守方法

既存の CSI がある場合、それらの CSI を CA MSM に移動して、インストール済みのすべての CA 製品を単一の Web ベースのインターフェースから一元的に保守できます。

PAS および SIS を使用して、CA Technologies 製品を保守できます。

以下の手順に従います。

1. CSI を CA MSM へ移行して、CA MSM で既存の CSI を保守します。
移行中に、CA MSM は CSI に関する情報をデータベースに格納します。
2. [Software Catalog] タブから、インストール済み製品リリース用の最新のメンテナンスをダウンロードします。
リリースが見つからない場合（たとえば、リリースが古いため）は、リリースを手動でカタログに追加してから、リリースを更新し、メンテナンスをダウンロードします。
3. メンテナンスを適用します。

注: また、[SMP/E Environments] タブから、メンテナンスを特定の CSI にインストールできます。

メンテナンスプロセス完了後、製品は展開可能な状態になります。展開プロセスを開始する前に、CA MSM 外で手動で他の手順の実行が必要になる場合があります。

製品を展開する方法

SDS (Software Deployment Service)を使用すると、稼働システムのソフトウェアインベントリからターゲットシステムに簡単にメインフレーム製品を展開できます。その際、既知のトポロジ全体に対する適切な転送メカニズムを使用してポリシー ベースで動作するインストール済み製品の展開などが行われます。

CA MSM の SDS コンポーネントを使用して、すでに取得してインストールした CA Technologies 製品を展開できます。

これを行うには、以下のタスクを完了します。

1. システム レジストリをセットアップします。
 - a. 企業が保有するシステムを決定します。
 - b. それらのシステムのリモート認証情報をセットアップします。
 - c. ターゲットシステム(非シスプレックス、シスプレックスまたはモノプレックス、共有 DASD クラスタ、およびステージング)をセットアップし、検証します。
 - d. ネットワーク情報を、データ宛先情報を含めて、各システム レジストリ エントリに追加します。
2. 方法をセットアップします。
3. 展開を作成します。その際、新しい展開ウィザードの各手順を実行します。作成した展開を保存して、後でシステム、製品、カスタム データ セット、および方法を追加および編集して変更したり、ウィザードから直接展開したりできます。

注: 同じ方法を使用して他の製品を以前定義したシステムに展開する必要がある場合は、別の展開を作成する必要があります。
4. 製品を展開します。その際、スナップショットの作成、ターゲットへの転送、およびメインフレーム環境への展開(解凍)を実行します。

これで、製品を構成する準備ができました。

詳細:

[CA MSM による展開の完了方法 \(P. 111\)](#)

製品を構成する方法

SCS (ソフトウェア環境設定サービス)を使用すると、稼働システムのソフトウェア インベントリからターゲット z/OS オペレーティング システムに簡単にメインフレーム製品を構成できます。

CA MSM の SCS コンポーネントを使用して、すでに取得、インストール、および展開を行った CA Technologies 製品を構成できます。

以下の手順に従います。

1. [Deployments]タブで構成する展開済み製品を選択し、Create Configuration ウィザードを表示します。
2. 構成を作成します。その際、以下を含む Create Configuration ウィザードの各手順を実行します。
 - a. 構成名を定義し、ターゲットシステムを選択します。
 - b. 構成の機能とオプションを選択します。
 - c. システム基本設定を定義します。
 - d. ターゲット設定を作成します。
 - e. リソースを選択して編集します。
3. 構成を構築します。Create Configuration ウィザードの最後の手順で、構成を構築できます。
4. 構成を実装します。CA MSM の実装プロセスでは、順番に 1 つずつ手順を実行します。ユーザには丁寧な説明と、実装プロセスを開始、停止、および管理する詳細な手順が示されます。

構成プロセスを完了すると、製品はいつでも使用できる状態になります。場合によっては、CA MSM の外部で他の手順を手動で実行する必要があります。

注: CA MSM を使用して、製品をステージング システムに構成することはできません。

詳細:

[CA MSM を使用して設定を完了する方法 \(P. 113\)](#)

Web ベース インターフェースを使用した CA MSM へのアクセス

Web ベース インターフェースを使用して CA MSM へアクセスします。CA MSM 管理者から CA MSM の URL を取得します。

以下の手順に従います。

1. Web ブラウザを開き、アクセス先の URL を入力します。

ログイン ページが表示されます。

注: [Notice and Consent] バナーが表示される場合は、表示される情報を読み、リンクをクリックしてそれを確認してください。

2. z/OS のログイン ユーザ名およびパスワードを入力し、[Log In] ボタンをクリックします。

開始ページが表示されます。初めてログインする場合、CA Support の [Web サイト](#) でアカウントを定義するように促すメッセージが表示されます。

注: インターフェースの詳細については、このページの右上隅にある [Help] リンクをクリックしてください。

3. [New] をクリックします。

CA Support の [Web サイト](#) で使用する認証情報の入力を促すメッセージが表示されます。

重要: 認証情報が適用されるアカウントには、[Product Display Options] に「BRANDED PRODUCTS」が設定されている必要があります。CA Support の [Web サイト](#) にログインし、[My Account] をクリックして、アカウントの基本設定を表示および更新できます。正しい設定が指定されていない場合、CA MSM を使用して製品情報およびパッケージをダウンロードすることができません。

4. 認証情報を指定し、[OK] をクリックして [Next] をクリックします。

ユーザ設定の確認を促すメッセージが表示されます。

注: これらの設定は [User Settings] ページで設定可能です。

5. 設定を変更するかデフォルトをそのまま使用し、[Finish] をクリックします。

その環境設定タスクの進捗状況を示すダイアログ ボックスが表示されます。[Show Results] をクリックすると、完了したタスクのアクションの詳細を表示できます。

重要: サイトでプロキシを使用する場合は、[User Settings, Software Acquisition] ページで、プロキシ認証情報を確認します。

第 4 章: Pax-Enhanced ESD からの製品のインストール

このセクションの手順を使用し、Pax-Enhanced Electronic Software Delivery (ESD)を使用したユーザの製品の取得およびインストールを実行します。

このセクションの手順を完了したら、「製品の設定」に移動してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [Pax-Enhanced ESD を使用して製品をインストールする方法 \(P. 43\)](#)
- [ファイルシステムの割り当ておよびマウント \(P. 50\)](#)
- [製品 pax ファイルの USS ディレクトリへのコピー \(P. 52\)](#)
- [pax ファイルからの製品ディレクトリの作成 \(P. 58\)](#)
- [z/OS データセットへのインストールファイルのコピー \(P. 59\)](#)
- [インストールライブラリのアンロード \(P. 61\)](#)
- [INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)
- [ライブラリの削除、割り当て、初期化 \(INST0001\) \(P. 78\)](#)
- [z/FS ベースデータセットの割り当ておよびマウント \(INST0002\) \(P. 79\)](#)
- [z/FS リリース依存データセットの割り当ておよびマウント \(INST0003\) \(P. 80\)](#)
- [SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能 \(INST0004\) \(P. 81\)](#)
- [ランタイムライブラリの作成 \(INST0005\) \(P. 82\)](#)
- [USS ディレクトリのクリーンアップ \(P. 82\)](#)
- [メンテナンスの APPLY \(P. 83\)](#)

Pax-Enhanced ESD を使用して製品をインストールする方法

このセクションでは、Pax-Enhanced ESD プロセスについて説明します。初めて Pax-Enhanced ESD のインストールを実行する場合は、この概要を読み、すべての手順を実行することをお勧めします。経験のある UNIX ユーザの場合、このあと他のインストールを実行するには、「Pax-Enhanced ESD Quick Reference Guide」またはこの概要が役に立ちます。

重要: Pax-Enhanced ESD プロセスの一環として SMP/E インストール用 pax ファイルをダウンロードするには、ESD プロセスに使用されている USS (UNIX System Services) ディレクトリへの書き込み権限が必要になります。

重要: z/OS UNIX システム サービスにすべての CA 製品インストーラを含める必要がない場合、USS に関するグループを割り当てた後、手順 1 から 4 を実行し、解凍された MVS データセットのリストを製品インストーラに指定します。製品の実際の SMP/E RECEIVE、または残りのインストール手順では USS は必要ありません。

Pax-Enhanced ESD を使用してファイルをインストールするには、以下の手順に従います。

1. ファイルシステムを割り当ててマウントします。このプロセスでは、pax ファイルを受信して解凍手順を実行するための USS ディレクトリが必要です。
Pax-Enhanced ESD 専用のファイルシステムのマウントおよび割り当てを行い、そのファイルシステム内にディレクトリを作成することをお勧めします。pax ファイルを使用するすべてのユーザがそのディレクトリに対する書き込み権限を持っていることを確認します。
2. 製品 pax ファイルを USS ディレクトリにコピーします。ファイルをダウンロードするには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - CA Support Online から自分のマシンに ZIP ファイルをダウンロードして解凍し、次に製品 pax ファイルを USS ファイルシステムにアップロードします。
 - CA Support Online ディレクトリから USS ディレクトリに pax ファイルを FTP で直接ダウンロードします。

注: USS ディレクトリにアップロードする pax ファイルごとに、手順 3 ~ 6 を実行します。
3. pax ファイルから製品ディレクトリを作成します。現在の作業ディレクトリを pax ファイルが存在するディレクトリに設定し、以下コマンドを入力して USS ディレクトリに新規ディレクトリを作成します。

```
pax -rvf pax-file-name
```
4. SMP/E GIMUNZIP ユーティリティを使用して、z/OS インストールデータセットを作成します。手順 3 で pax コマンドによって作成されたディレクトリにある UNZIPJCL ファイルには、インストール パッケージを GIMUNZIP するためのサンプルジョブが含まれています。UNZIPJCL ジョブを編集およびサブミットする方法
5. SMP/E パッケージを RECEIVE します。この手順では、手順 4 で GIMUNZIP によって作成されたデータセットを使用します。SMPPTFIN および SMPHOLD (該当する場合) DASD データセットを使用して、標準的な SMP/E RECEIVE を実行します。また、RECEIVE コマンドの RFPREFIX パラメータ上で RELFILE の高レベル修飾子を指定します。

6. 製品のインストールに進みます。製品マニュアル (README ファイルおよびインストールに関する注意を含む) に従ってインストールを完了します。
7. (オプション) USS ディレクトリをクリーンアップします。pax ファイル、pax コマンドで作成されたディレクトリ、そのすべてのファイル、および SMP/E RELFILE、SMPMCS、HOLDDATA データセットを削除します。

Pax-Enhanced ESD ダウンロードの仕組み

重要: Pax-Enhanced ESD プロセスの一部として SMP/E インストール用の pax ファイルをダウンロードするには、このガイドの手順を開始する前に、ESD プロセスおよび利用可能な USS ファイル スペースに使用する UNIX システム サービス (USS) ディレクトリに対して書き込み権限が必要です。その他の ESD の情報については、<http://www.ca.com/mainframe> を参照してください。Events の下に、Pax-Enhanced ESD プロセスについて詳しく説明するウェブキャストがあります。

Pax-Enhanced ESD を使用してファイルをダウンロードするには、以下の手順を使用します。

1. <https://support.ca.com/> にログインし、[Download Center]をクリックします。
CA Support Online Web ページが表示されます。
2. [Download Center]の下で、最初のドロップダウンリストから[Products]を選択した後、製品、リリースおよび genlevel (該当する場合)を指定し、[Go]をクリックします。
CA Product Download ウィンドウが表示されます。
3. CA 製品ソフトウェア パッケージ全体または個別の pax ファイルを PC またはメインフレームにダウンロードします。ZIP ファイルをダウンロードする場合、続行する前にそのファイルを解凍する必要があります。
両方のオプションについては、「[ESD 製品のダウンロード ウィンドウ \(P. 46\)](#)」でダウンロードインターフェースが動作する仕組みについて説明します。
- 注: 従来のインストールのダウンロードについては、「*Traditional ESD User Guide*」を参照してください。<https://support.ca.com/> に移動し、ログインした後、[Download Center]をクリックします。ガイドへのリンクが[Download Help]見出しの下に表示されます。
4. 製品固有の手順に従って、製品のインストール手順を実行します。
製品がメインフレームにインストールされます。

ESD 製品のダウンロード ウィンドウ

CA 製品の ESD パッケージは複数の方法でダウンロードできます。選択肢は、ダウンロードする必要があるファイルごとのサイズやファイル数によって異なります。ユーザは、すべてのコンポーネントを含む完全な製品をダウンロードできます。また、製品またはコンポーネント用の個別の pax とドキュメント ファイルを選択できます。

以下の図は、サンプルの製品ファイルを示しています。ここでは、製品のすべてのコンポーネントがリストされています。必要な1つまたは複数のコンポーネントを選択するか、[Add All to cart] チェックボックスを選択することによって、Download Cart を使用できます。すぐにコンポーネントをダウンロードする場合は、[Download] リンクをクリックします。

CA Earl - MVS

» [Pax Enhanced Electronic Software Delivery \(ESD\) Guide](#)

» [Pax Enhanced Electronic Software Delivery \(ESD\) Quick Reference Guide](#)

» [Traditional Electronic Software Delivery \(ESD\) Guide](#)

» [Learn more about Using pkzip with your Downloaded Mainframe Products](#)

» [Learn more about downloading components of CA product](#)

If you have comments or suggestions about CA product documentation, send a message to techpubs@ca.com.

[View Download Cart](#)

[Add All to cart](#)

| Product Components | Add to cart | Download |
|---|--------------------------|--------------------------|
| CA COMMON SERVICES PROD PKG 11SP08AW000.pax.Z | <input type="checkbox"/> | Download |
| CA EARL PRODUCT PACKAGE 610106AE000.pax.Z | <input type="checkbox"/> | Download |
| EARL PIPPACK AEO61010600.pdf | <input type="checkbox"/> | Download |
| EARL INSTALL GUIDE MANUAL I2J2ED610NE.pdf | <input type="checkbox"/> | Download |
| CA COMMON SERVICES COVER LTR QI92742.pdf | <input type="checkbox"/> | Download |

個別のコンポーネント用のリンクをクリックすると、[Download Method] ページに移動します。

Download Method

Please choose a download method to complete your download request. [Learn More](#)

HTTP via Download Manager

This is the CA recommended method for download. The Download Manager allows you to download your files faster and more efficiently.

[Download](#)

HTTP via Internet Browser

If Download Manager cannot be used or fails to start you may access your file(s) via your internet browser.

[View File Link\(s\)](#) 

FTP

This method allows you to download your file(s) via FTP from CA's content delivery network or via native FTP servers.

Note: Processing is required and an email notification will be sent when your request is ready for downloading.

[FTP Request](#)

指定した製品ファイルのサイズや数によっては、[Download Method]画面に以下のオプションも表示されます。

注: [HTTP] メソッドを使用したメインフレームのダウンロードについては、[Learn More]リンクをクリックしてください。

Download Method

Please choose a download method to complete your download request. [Learn More](#)

HTTP via Download Manager

This is the CA recommended method for download. The Download Manager allows you to download your files faster and more efficiently.

[Download](#)

Create a Zip File

This method allows you to bundle your download files into one or more zip files of up to 3.5 GB each. These zip files can then be downloaded via HTTP or FTP.

Note: Processing is required and an email notification will be sent when your request is ready for downloading.

[Create Zip](#)

[HTTP] メソッドでは、すぐにダウンロードを開始できます。[FTP] メソッドでは、ユーザの選択を表示する [Review Orders] ページに移動します。ユーザの命令が処理されると、最初の [Pending] ステータスが [Ready] に変化します。

[Preferred FTP] では、新しいコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を使用します。
[Alternate FTP] では、CA のニューヨークにある FTP サーバを使用します。

[Create a Zip File] オプションでは、最初に zip ファイルを作成し、準備ができると次の画面の [Zip Download Request] の例に示すオプションが表示されます。

Review Download Requests

Below is a list of the FTP and large HTTP downloads that have been requested by your site. When status is set to 'Ready' a link will appear.

- For FTP requests, click on the FTP link to view the path information for your download. For more information view our [FTP Help document](#)
- For HTTP requests, click on the HTTP link to initiate your download.
- To view the details of your request, click on the desired order number.

Today's Downloads

| Order # | Status | Description | Date Placed | Download Options |
|--------------------------|--------|---------------------------------|-------------|---|
| 10000961 | Ready | FTP Download Request 04/30/2010 | | Preferred FTP Alternate FTP |

Previous 6 day Download History

| Order # | Status | Description | Date Placed | Download Options |
|--------------------------|--------|---------------------------------|-------------|--|
| 10000949 | Ready | ZIP Download Request 04/29/2010 | | HTTP via DLM Preferred FTP Alternate FTP |
| 10000948 | Ready | ZIP Download Request 04/29/2010 | | HTTP via DLM Preferred FTP Alternate FTP |

USS 環境のセットアップ

以下のタスクを実行するには、UNIX システム サービス (USS) ディレクトリおよび十分な容量のあるファイルシステムが必要です。

- CA Support Online から pax ファイルを受信します。
- ユーティリティ機能を実行して、pax ファイルを解凍し、製品のインストールの完了に使用可能な MVS データ セットにします。

Pax-Enhanced ESD 専用のファイル システムを割り当てて、マウントすることをお勧めします。ファイル システムに必要な容量は、以下によって異なります。

- ダウンロードする pax ファイルのサイズ。
- 解凍後に pax ファイルを保持するかどうか。この方法はお勧めしません。

pax ファイルのダウンロードおよび解凍には、1 つのディレクトリを使用することをお勧めします。同じディレクトリを再利用すると、USS のセットアップは最小限に抑えられます。USS のセットアップを 1 度だけ実行する必要があります。その後のダウンロードでは、同じディレクトリを再利用します。あるいは、pax ファイルのダウンロードごとに、新規ディレクトリを作成できます。

重要: Pax-Enhanced ESD プロセスの一環として SMP/E インストール用 pax ファイルをダウンロードするには、ESD プロセスに使用されている USS (UNIX System Services) ディレクトリへの書き込み権限が必要になります。また、ESD ディレクトリを含むファイル システムでは、pax ファイルのダウンロードおよびそのコンテンツの解凍を実行するために、pax ファイルの 3.5 倍の空き容量が必要です。たとえば、14MB の pax ファイルのダウンロードと解凍を行うには、ESD ディレクトリをホストしているファイル システムに約 49MB の空き容量が必要です。

ファイル システムの割り当ておよびマウント

Pax-Enhanced ESD のダウンロードには、zSeries File System (zFS) または階層ファイル システム (HFS) を使用できます。

この手順では、以下のタスクを実行する方法について説明します。

- HFS ファイル システムの割り当て
- 既存のメンテナンス ディレクトリでの新しいマウント ポイントの作成
- 新しく作成されたマウント ポイント上でのファイル システムのマウント
- オプションとして、ディレクトリ作成者と同じグループのユーザへの書き込み権限の許可

重要: USS コマンドでは大文字と小文字が区別されます。

ファイルシステムの割り当ておよびマウントを実行する方法

1. HFS を割り当てます。以下に例を示します。

```
//ALCHFS EXEC PGM=IEFBR14
//CAESD DD DSN=yourHFS dataset name,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UNIT=3390,
// DSNTYPE=HFS,SPACE=(CYL,(primary,secondary,1))
```

HFS が割り当てられます。

2. ファイルシステムのマウントポイントを作成します。この例では、既存のディレクトリ /u/maint に /CA/CAESD ディレクトリを作成する方法について説明します。TSO OMVS シェルから、以下のコマンドを入力します。

```
cd /u/maint/
mkdir CA
cd CA
mkdir CAESD
```

注: このドキュメントでは、この構造を *USSESDDirectory* と呼びます。

マウントポイントが作成されます。

3. ファイルシステムをマウントします。たとえば、TSO から以下のコマンドを入力します。

```
MOUNT      FILESYSTEM('yourHFS dataset name')
            MOUNTPOINT('yourUSSESDDirectory')
            TYPE(HFS)    MODE(RDWR)
```

ファイルシステムがマウントされます。

4. (オプション) このディレクトリのセキュリティ権限を設定します。chmod コマンドを使用すると、他のユーザに ESD ディレクトリおよびディレクトリ内のファイルへのアクセスを許可することができます。たとえば、USS グループの他のユーザに ESD ディレクトリへの書き込み権限を許可するには、TSO OMVS シェルから以下のコマンドを入力します。

```
chmod-R 775 /yourUSSESDDirectory/
```

書き込み権限が許可されます。

注: chmod コマンドの詳細については、「*z/OS UNIX System Services User Guide (SA22-7802)*」を参照してください。

製品 pax ファイルの USS ディレクトリへのコピー

CA 製品インストール手順を開始するには、セットアップした USS ディレクトリに製品 pax ファイルをコピーします。以下のいずれかの方法を使用します。

- CA Support Online FTP サーバから z/OS システムに製品 pax ファイルを直接ダウンロードします。
- CA Support Online FTP サーバからローカル PC に製品 pax ファイルをダウンロードしてから、z/OS システムにアップロードします。
- CA Support Online からローカル PC に製品ファイルをダウンロードします。
zip ファイルが含まれている場合は解凍し、解凍した pax ファイルを z/OS システムにアップロードします。

このセクションには、CA Support Online FTP サーバから z/OS システム上の USS ディレクトリに製品 pax ファイルを直接ダウンロードするためのバッチ ジョブ、およびローカル PC から z/OS システム上の USS ディレクトリに pax ファイルをアップロードするためのサンプルコマンドが含まれています。

重要: FTP 手順は、ローカルのファイアウォールの設定およびその他のセキュリティ設定によって異なる場合があります。ローカル ネットワーク管理者に問い合わせて、サイトで使用する適切な FTP 手順を調べてください。

重要: 製品の pax ファイルを保持するには、Pax-Enhanced ESD に使用する USS ファイルシステムに十分な空き容量があることを確認してください。十分な空き容量が存在しない場合は、以下のようなエラー メッセージが表示されます。

```
EZA1490I Error writing to data set  
EZA2606W File I/O error 133
```

ダウンロードが完了すると、ユーザの USS ディレクトリにある pax ファイルのサイズは、CA 製品ダウンロード ウィンドウ上の対応する pax ファイルのカラムの値と一致します。

バッチ JCL を使用したダウンロード

メインフレーム上でバッチ JCL を実行し、CA Support の製品ダウンロード ウィンドウから pax ファイルをダウンロードするには、このプロセスを使用します。ダウンロードを実行するには、この PDF ファイルに CAtoMainframe.txt として添付されているサンプル JCL を使用します。

重要: Pax-Enhanced ESD プロセスを簡素化するために、このガイドの PDF バージョンには、メインフレームに直接コピーできるサンプル JCL ジョブが含まれています。このジョブにアクセスするには、PDF リーダーの左下にあるクリップ アイコンをクリックします。ウィンドウが開き、添付ファイルが表示されます。ファイルをダブルクリックしてサンプル JCL を表示します。

注: CA Support Online で説明されている推奨方法に従うことをお勧めします。この手順は推奨のダウンロード方法ですが、次のセクションでは PC を経由してメインフレームにダウンロードする手順も示します。

バッチ JCL を使用したダウンロード方法

1. 有効な JOB ステートメントを指定します。
2. *yourTCPIP.PROFILE.dataset* をシステム用の TCPIP プロファイルデータセットの名前に置き換えます。必要な場合、ローカル ネットワーク管理者に問い合わせます。
ジョブは指定したプロファイルを参照します。
3. *YourEmailAddress* を自分の電子メール アドレスに置き換えます。
ジョブは指定した電子メール アドレスを参照します。
4. *yourUSSESDdirectory* を ESD ダウンロードに使用する USS ディレクトリの名前に置き換えます。
ジョブは指定した USS ディレクトリを参照します。
5. CA Support Online の製品ダウンロード ウィンドウで、ダウンロードする製品コンポーネントを検索します。
ダウンロードする製品コンポーネントが見つかります。
6. 該当するファイルに対応する [Download] をクリックします。
注: ファイルをカートに追加してダウンロードを複数行うことができます。
[Download Method] ウィンドウが開きます。

7. [FTP Request]をクリックします。

[Review Download Requests] ウィンドウが開き、ダウンロードをリクエストしたすべてのファイルが表示されます。

注: ファイルをダウンロードする準備ができると電子メールが送信されます。または、ファイル入手できるようになるとウィンドウにリンクが表示されます。

8. 以下のいずれかの方法を選択します。

Preferred FTP

CA の世界規模のコンテンツ配信ネットワーク(CDN)を使用します。

Preferred FTP を使用してダウンロードできない場合は、会社でセキュリティ制限が設定されている可能性があります。この場合、社内ネットワークの外部に存在するダウンロード元のすべてのサーバの知識および設定が必要になります。

ホスト名: `ftp://ftpdownloads.ca.com`

Alternate FTP

ニューヨーク州ロングアイランドに置かれている元のダウンロードサーバを使用します。

ホスト名: `ftp://scftpd.ca.com` (製品ファイルおよびダウンロードカートファイル)、`ftp://ftp.ca.com` (個々のソリューションファイル)

いずれの方法でも、ホスト、ユーザ名、パスワード、および FTP の場所が表示されるので、それらをサンプル JCL にコピーできます。

注: FTP の詳細については、[Review Download Requests] ウィンドウに表示される [FTP Help document] リンクおよび [Download Methods] ウィンドウに表示される [Learn More] リンクを参照してください。

9. ジョブをサブミットします。

重要: FTP コマンドが正しくない場合、このジョブは失敗し、ゼロ状態コードを返す場合があります。ジョブ DDNAME SYSPRINT 内のメッセージを参照して FTP が成功したことを確認してください。

JCL を実行すると、指定したメインフレーム USS ディレクトリに pax ファイルが格納されます。

例: CAtoMainframe.txt JCL

添付の CAtoMainframe.txt JCL ファイルには以下のテキストが表示されます。

```
//GETPAX  JOB (ACCOUNTNO), 'FTP GET ESD PACKAGE',
//          MSGCLASS=X, CLASS=A, NOTIFY=&SYSUID
//*****
//** This sample job can be used to download a pax file directly from *
//** CA Support Online to a USS directory on your z/OS system.          *
//**
//** This job must be customized as follows:                            *
//** 1. Supply a valid JOB statement.                                     *
//** 2. Replace "yourTCPIP.PROFILE.dataset" with the name if the TCPIP *
//**    profile data set for your system.                                  *
//** 3. Replace "Host" based on the type of download method.            *
//** 4. Replace "YourEmailAddress" with your email address.              *
//** 5. Replace "yourUSSESDdirectory" with the name of the USS           *
//**    directory used on your system for ESD downloads.                 *
//** 6. Replace "FTP Location" with the complete path                   *
//**    and name of the pax file obtained from the FTP location        *
//**    of the product download page.                                    *
//*****
//GETPAX  EXEC PGM=FTP,REGION=OK
//SYSTCPD  DD  DSN=yourTCPIP.PROFILE.dataset,DISP=SHR
//SYSPRINT DD  SYSOUT=*
//OUTPUT   DD  SYSOUT=*
//INPUT    DD  *
Host
anonymous YourEmailAddress
lcd yourUSSESDdirectory
binary
get FTP location
quit
```

PC を経由したファイルのメインフレームへのダウンロード

CA Support Online から PC に pax または zip ファイルをダウンロードする場合は、この手順を使用して PC から z/OS USS ディレクトリに pax ファイルをアップロードします。

PC からメインフレームにファイルをアップロードする方法

1. 「[Pax-Enhanced ESD ダウンロードの仕組み](#) (P. 15)」で説明されている手順に従って、製品 pax または zip を PC にダウンロードします。zip ファイルをダウンロードした場合は、そのファイルを解凍して製品 pax ファイルを使用します。
pax または zip ファイルが PC に格納されます。
2. Windows コマンドプロンプトを開きます。
コマンドプロンプトが表示されます。
3. FTP コマンドを以下のようにカスタマイズして入力します。
 - a. *mainframe* を対象 z/OS システムの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えます。
 - b. *userid* を z/OS ユーザ ID に置き換えます。
 - c. *password* を z/OS パスワードに置き換えます。
 - d. *C:\PC\folder\for\thePAXfile* を PC 上の pax ファイルの場所に置き換えます。
 - e. *yourUSSesDdirectory* を ESD ダウンロードに使用する USS ディレクトリの名前に置き換えます。
 - f. *paxfile.pax.Z* をアップロードする pax ファイルの名前に置き換えます。

pax ファイルがメインフレームに転送されます。

例: FTP コマンド

このリストは、ユーザの PC からユーザの USS Pax-Enhanced ESD ディレクトリに pax ファイルをアップロードする FTP コマンドのサンプルです。

```
FTP mainframe
userid
password
bin
lcd C:¥PC¥folder¥for¥thePAXfile
cd /yourUSSESDDirectory/
put paxfile.pax.Z
quit
exit
```

pax ファイルからの製品ディレクトリの作成

この PDF ファイルに **Unpackage.txt** として添付されているサンプル ジョブを使用して、製品 pax ファイルを製品インストール ディレクトリに抽出します。

重要: Pax-Enhanced ESD プロセスを簡素化するために、このガイドの PDF バージョンには、メインフレームに直接コピーできるサンプル JCL ジョブが含まれています。このジョブにアクセスするには、PDF リーダの左下にあるクリップ アイコンをクリックします。ウィンドウが開き、添付ファイルが表示されます。ファイルをダブルクリックしてサンプル JCL を表示します。

Unpackage.txt サンプル ジョブを使用して製品インストール ディレクトリを作成する方法

1. 有効な JOB ステートメントを指定します。
2. *yourUSSESDDirectory* を ESD ダウンロードに使用する USS ディレクトリの名前に置き換えます。
ジョブは指定した USS ディレクトリを参照します。
3. *paxfile.pax.Z* を pax ファイルの名前に置き換えます。
ジョブは指定した pax ファイルを参照します。
4. ジョブをサブミットします。
ジョブが実行され、製品ディレクトリが作成されます。

注: ジョブに指定されている変更を行った後で、**PARM=** ステートメントが 71 文字を超える場合は、代わりに 2 番目の UNPAXDIR の形式をコメント解除して使用します。このサンプル ジョブでは、カラム 72 で X を使用し、2 行目に **PARM=** パラメータを続けます。

Pax コマンド(Unpackage.txt)を実行するジョブの例

添付されている Unpackage.txt JCL ファイルに以下のテキストが表示されます。

```
//ESDUNPAX JOB (ACCOUNTNO),'UNPAX ESD PACKAGE ',  
// MSGCLASS=X,CLASS=A,NOTIFY=&SYSUID  
//*****  
/* This sample job can be used to invoke the pax command to create *  
/* the product-specific installation directory. *  
/* *  
/* This job must be customized as follows: *  
/* 1. Supply a valid JOB statement. *  
/* 2. Replace "yourUSSESDDirectory" with the name of the USS *  
/* directory used on your system for ESD downloads. *  
/* 3. Replace "paxfile.pax.Z" with the name of the pax file. *  
/* NOTE: If you continue the PARM= statement on a second line, make *  
/* sure the 'X' continuation character is in column 72. *  
//*****  
//UNPAXDIR EXEC PGM=BPXBATCH,  
// PARM='sh cd /yourUSSESDDirectory/; pax -rvf paxfile.pax.Z'  
//**UNPAXDIR EXEC PGM=BPXBATCH,  
//** PARM='sh cd /yourUSSESDDirectory/; pax X  
//** -rvf paxfile.pax.Z'  
//STDOUT DD SYSOUT=*  
//STDERR DD SYSOUT=*
```

z/OS データ セットへのインストール ファイルのコピー

SMP/E GIMUNZIP ユーティリティを呼び出して、製品固有のディレクトリから MVS データ セットを作成するには、この手順を使用します。

Pax-Enhanced ESD インストール ファイルを z/OS データ セットにコピーする方法

1. 必要に応じて、製品の `readme` ファイルまたはインストールの注意事項を探して参照します。これらのファイルは、`pax` コマンドで作成した製品固有のディレクトリにあります。このファイルには、インストール手順を完了するために必要な、製品固有の詳細情報が含まれています。

ここで製品固有のインストールの詳細が特定されました。
2. `UNZIPJCL` サンプルジョブを編集するには、`ISPF EDIT` または `TSO ISHELL` を使用します。以下のいずれかの方法で、この手順を実行できます。
 - `ISPF EDIT` を使用します。`UNZIPJCL` ファイルの完全パス名を指定します。
 - `TSO ISHELL` を使用します。`UNZIPJCL` ファイルに移動し、`E` 行コマンドを使用してファイルを編集します。

ジョブが編集されます。
3. `SMPDIR DD PATH` を `pax` コマンドによって作成された製品固有ディレクトリに変更します。

製品固有ディレクトリが表示されます。
4. `ICSF` がアクティブでない場合は、以下の手順を実行します。
 - a. `SMPJHOME DD PATH` をユーザの `Java` ランタイム ディレクトリに変更します。このディレクトリはシステムによって異なります。
 - b. 以下の手順のいずれかを実行します。
 - `SMPCPATH DD PATH` をユーザの `SMP/E Java` アプリケーション クラス ディレクトリに変更します。通常は、`/usr/lpp/smp/classes/` です。
 - `GIMUNZIP` パラメータの `HASH=YES` を `HASH=NO` に変更します。

次の 1 つが発生します：`ICSF` はアクティブです。`Java` を使用しています。

5. すべての *YourHLQ* の表示をインストール処理によって使用される z/OS データセットの高レベル修飾子に変更します。パッケージを一意に識別するために、展開された各 pax ファイルに固有の HLQ を使用することをお勧めします。SMP/E RELFILE に使用するので、*yourHLQ* に同じ値を使用しないでください。

YourHLQ の表示はすべて z/OS データセットのユーザの高レベル修飾子に設定されます。

6. UNZIPJCL ジョブをサブミットします。

UNZIPJCL ジョブは、リターンコード 0 で完了する必要があります。出力メッセージの GIM69158I および GIM48101I、JES ログにある IKJ56228I は無視して構いません。

GIMUNZIP は、UNZIPJCL ジョブで指定した高レベル修飾子を使用して z/OS データセットを作成します。製品のインストールを実行するには、これらのデータセットを使用します。ここでは、pax ファイルおよび製品固有ディレクトリは必要なくなりました。

注: 詳細については、IBM の「*SMP/E for z/OS Reference (SA22-7772)*」マニュアルを参照してください。

インストールライブラリのアンロード

ESD 作成 DASD ベースの製品配布ファイルからインストールライブラリをコピーするには、以下の手順を使用します。

以下の手順に従います。

1. 使用しているサイトの仕様に合わせてサンプル JCL を編集します。
サンプル JCL のコピーは、UNZIPJCL によって作成された *yourHLQ.CAI.CNM4D50.F1(ESDJCL)* から取得できます。
2. ジョブ ストリームを変更するには、サンプル JCL 内の小文字のイタリック体で表記されている以下の項目を、サイトの要件に合うように説明に従って変更します。

volume

インストールライブラリの格納先ボリュームのシリアル番号を指定します。

yourHLQ

ESD プロセスの UNZIP 手順中に使用される HLQ を指定します。

変更するジョブ ストリームは以下の通りです。

```
//ESDINST JOB (0000)
/*
/*=====
/*
/* Sample job to create the sysview.SAMPJCL data set
/*
/*=====
/*
// SET    HLQ='yourHLQ'
// SET VOLUME=volume
/*
//COPY    EXEC PGM=IEBCOPY
//SYSUT3  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSUT4  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
/*
//IN      DD DISP=SHR,DSN=&HLQ..CAI.CNM4D50.F1
/*
//SAMPJCL DD DSN=&HLQ..SAMPJCL,
//           DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//           UNIT=SYSDA,
//           VOL=SER=&VOLUME,
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=6160),
//           SPACE=(CYL,(05,02,45))
/*
//SYSIN   DD DISP=SHR,DSN=&HLQ..CAI.CNM4D50.F1(SAMPJCL)
```

3. 変更したサンプル JCL をサブミットします。

インストール ライブライリ(SAMPJCL)は、ESD プロセスの UNZIP 手順で作成された、
DASD ベースの SMP/E RELFILE からコピーされます。

INSTALL ジョブの変更および実行

SAMPJCL インストール ライブラリ内の INSTALL ジョブが CA SYSVIEW のインストールに必要な JCL ストリームを生成します。

この手順には、使用しているサイトの要件に合わせて INSTALL ジョブを変更する方法が説明されています。

この手順を開始する前に、以下の情報をご確認ください。

- 高レベル修飾子 (HLQ)。20 文字以下の文字列である必要があります。
- CA SYSVIEW で使用する SVC 番号。タイプ-3 のユーザ スーパーバイザーコール (SVC) が必要です。
- APF (許可プログラム機能) で許可されたライブラリのデータセット名。ここに動的インストール プログラムがコピーされます。

INSTALL ジョブを変更し実行する方法

1. 使用しているサイトの要件に従って、INSTALL 内の以下のジョブ ステートメントを変更します。

```
//INSTALL JOB (00000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
```

2. INSTALL 内の以下の SYSLIB ステートメントを変更して、高レベル修飾子 *sysview* をインストール ライブラリのダウンロード時に選択した修飾子に置換します。

```
//SYSLIB DD DISP=SHR, DSN=sysview.SAMPJCL
```

3. INSTALL 内の GSVIINST マシン パラメータを変更します。

INSTALL ジョブ ストリームには、マクロの GSVIINST 用のパラメータが含まれます。これらのパラメータに割り当てられた値により、CA SYSVIEW のインストール方法が決定されます。生成されたジョブ ストリーム内の値は、それらが使用される手順より前に変更できます。

4. INSTALL ジョブをサブミットします。

ジョブが内部リーダにサブミットされ、ジョブ ストリームが生成されます。

JOBNAME パラメータで指定したジョブ名はアセンブリからの出力です。ジョブ名を指定しなかった場合、ジョブ出力は INST0000 です。

重要: メンバの編集中は、TSO が *sysview.SAMPJCL* にエンキューを要求するので、編集セッションを終了してこのデータセットをリリースするまでジョブは実行されません。

詳細:

[GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 \(P. 116\)](#)

GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定

INSTALL ジョブをサブミットする前に、GSVIINST マクロのパラメータを設定します。次の例に、INSTALL ジョブ内のデフォルトパラメータ値を表示します。

これらのパラメータの構文は以下の通りです。

```
//INSTALL JOB (000000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
/*
/*
-----*
/* CA SYSVIEW *
/* Installation generator *
/*
* This job will dynamically build the other jobs that are *
* required to complete the installation. *
/*
*-----* Important Notice *-----*
/*
/* CA Mainframe Software Manager *
/*
* If you have used CA Mainframe Software Manager *
* to perform the installation of the product, *
* this step is required. *
/*
/* Step: Required *
/*
-----*
//ASM EXEC PGM=ASMA90,REGION=1024K,PARM='NOTERM,LIST,DECK,N0OBJECT'
/*
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSPUNCH DD SYSOUT=(*,INTRDR),DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=2000)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
/*
-----*
/* The data set defined to the DDNAME SYSLIB should also *
* be coded as the data set name on the GSVIINST option *
/* INSTLIB=. *
/*
* The options that require modification or inspection *
* for specific site installation needs are marked with *
* a "<--". *
/*
-----*
//SYSLIB DD DISP=SHR,DSN=sysview.SAMPJCL <---INSTLIB
/*
/*
/*
/* Note: When modifying the macro below, remember to include *
* the continuation character "X" in column 72 for all
```

```
/*
   lines except the last line containing the DUMMY=
/*
parameter.
/*
//*.+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7.X
//SYSIN    DD *
*
      PRINT NOGEN
      GSVIINST
      ,
      *-----* X
      , * Installation data set name          * X
      , * This is the data set name that you are  * X
      , * editing now.                         * X
      , *-----* X
      INSTLIB=sysview.SAMPJCL,                  <--- X
      , *-----* X
      , * System parmlib data set             * X
      , *-----* X
      SYSPLIB=SYS1.PARMLIB,                    <--- X
      , *-----* X
      , * Source installation Media          * X
      , * ESD - ESD file on DASD            * X
      , * TAPE - Physical cartridge        * X
      , *-----* X
      SOURCE=ESD,                           ESD | TAPE <--- X
      TAPEVOL=SYD500,                      X
      TAPUNIT=3480,                        <--- X
      , *-----* X
      , * High-level qualifier used when the ESD file * X
      , * was UNZIPPED.                     * X
      , *-----* X
      ESDHLQ=yourHLQ,                      ESD HLQ <--- X
      , *-----* X
      , * Data set allocation              * X
      , *-----* X
      PREFIX=sysview,                      <--- X
      DELETE=YES,                          X
      DASDVOL=volume,                     <--- X
      SMS=NO,                            X
      SMSVOL=,                           X
      STORCLAS=,                         X
      DSKUNIT=SYSDA,                      X
      WRKUNIT=SYSDA,                      X
      PROFTYPE=PDS,                       X
      , *-----* X
      , * Data set blocksizes            * X
      , *-----* X
      BLKSZU=6144,                        X
      BLKSZFB=3200,                        X
      BLKSZVB=25600,                      X
```

```

, *-----* X
, * z/FS data set allocation * X
, *-----* X
ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW, <--- X
PATHPREFIX=, X
, *-----* X
, * SMP/E * X
, *-----* X
SMPEHLQ=, X
SMPETZ=CAIT, X
SMPEDZ=CAID, X
SMPEVOL=volume, <--- X
DLIBVOL=volume, <--- X
SMPEUNIT=SYSDA, X
DLIBUNIT=SYSDA, X
, *-----* X
, * Data set and high level qualifiers * X
, *-----* X
AUTHLIB=apf.auth.dataset.name, <--- X
CEEHLQ=CEE, <--- X
IMSHLQ=ims, <--- X
MQSHLQ=mqseries, <--- X
SYSTCPD=TCPIP.TCPIP.DATA, <--- X
TCPMBR=, X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Options * X
, *-----* X
OPTIONS=(, Begin option list X
NOCAPTURE, ...option X
NOCICS, ...option X
NODATACOM, ...option X
NOIMS, ...option X
NOMVS, ...option X
NOMQSERIES, ...option X
NOTCPIP, ...option X
NOWILYAPM, ...option X
), End option list X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Components * X
, *-----* X
COMPONENTS=(, Begin component list X
DB2, ...component X
HCHECK, ...component X
MIM, ...component X
ROSCOE, ...component X
USS, ...component X
XSYSTEM, ...component X
), End component list X
, *-----* X

```

```
, *   CA SYSVIEW GEN parameters          * X
, *-----* X
SVC=238,           <--- X
SUBSYS=GSVX,       X
, *-----* X
, * The CA customer siteid.             * X
, * The siteid will be used to assist technical * X
, * support with diagnostics. This is used when * X
, * FTPing information to CA. (optional)      * X
, *-----* X
, *-----* X
SITEID=siteid,      <--- X
, *-----* X
, * Jobcard/JCL creation                * X
, *-----* X
, *-----* X
JOBNAME=,           X
NAME='PROGRAMMER NAME',      <--- X
ACCT=(000000000),          X
NOTIFY=NO,              X
CLASS=A,                X
MSGCLASS=A,              X
MSGLEVEL=(1,1),            X
ROUTE=NO,                X
SYSAFF=NO,                X
OUTC=*,                 X
, *-----* X
, * Assemble and Link edit               * X
, *-----* X
, *-----* X
ASMPGM=ASMA90,           X
LINKPGM=IEWL,             X
, *-----* X
, * End of Macro                         * X
, *-----* X
DUMMY=DUMMY

*
*      Do not remove the following line.
*
END
/*
```

以下の GSVIINST パラメータが変更可能です。

INSTLIB

現在のインストールライブラリ データセット名を指定します。「INSTALL ジョブの変更および実行」の手順で設定した SYSLIB ステートメントで使用されているものと同じ高レベル修飾子を使用するようにしてください。

デフォルト: *sysview.SAMPJCL*

SYSPLIB

システム環境設定オプション メンバが含まれるシステム パラメータライブラリを指定します。

デフォルト: SYS1.PARMLIB

SOURCE=*source*

ソース インストール メディアのタイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

- ESD - Electronic Software Delivery DASD ファイル
- TAPE - 標準のインストール カートリッジ

TAPEVOL

テープに割り当てられたボリューム シリアル番号 (volser) を指定します。TAPEVOL については、テープ ラベルに記載された volser を指定してください。

注: SOURCE=ESD が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

TAPUNIT

テープユニット タイプを指定します。

デフォルト: TAPUNIT=3480

注: SOURCE=ESD が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

ESDHLD=*yourHLQ*

このパラメータは、SOURCE=ESD が指定されている場合にのみ使用され、また指定する必要があります。

ESD ファイルが z/OS データ セットに解凍される際に使用される高レベル修飾子を指定します。UNZIPJCL はこのジョブを実行します。

UNZIPJCL ジョブは *yourHLQ* としてこの高レベル修飾子を参照します。ESDHLD= 値に同じ値を使用します。

PREFIX

データセットを割り当てる際に使用するプレフィックスを指定します。

制限: PREFIX および SUFFIX の全体の長さは、20 文字以内である必要があります。

デフォルト: PREFIX=sysview

DELETE

割り当て前に、個々の新規ライブラリに対して DELETE リクエストが生成されるかどうかを示すために使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。ライブラリの既存のセットに再インストールする場合は、DELETE=NO を指定します。

デフォルト: DELETE=YES

DASDVOL

データセットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号(volser)を指定します。

SMS

データセットの割り当てに SMS が使用されるかどうかを定義するのに使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。YES を指定した場合は、STORCLAS パラメータで SMS ストレージクラスを指定します。

デフォルト: SMS=NO

SMSVOL

SMS データセットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号(volser)を指定します。

注: 一部のサイトでは、SMS に volser を指定することを許可していません。

STORCLAS

SMS パラメータで YES を指定している場合、使用する SMS ストレージクラスを指定します。

DSKUNIT

ディスクユニットタイプを指定します。

デフォルト: DSKUNIT=SYSDA

WRKUNIT

ディスクワークユニットタイプを指定します。

デフォルト: WRKUNIT=SYSDA

PROFTYPE

割り当てられるプロファイル データ セット タイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

PDS

PDS プロファイル データ セットを割り当てます。これは複数のシスプレックスで共有されます。

LIBRARY

プロファイル PDSE データ セットを割り当てます。これは、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。使用している構成に複数のシスプレックスが含まれている場合は、各シスプレックスに一意のデータ セットを割り当てます。

デフォルト: PDS**BLKSZU**

レコード長が未定義のデータ セットを割り当てる際に使用されるブロック サイズを指定します。このパラメータを使用してロードライブラリ データ セットを割り当てます。

デフォルト: BLKSZU=6144**BLKSZFB**

固定ブロック データ セットの割り当て時に使用されるブロック サイズを指定します。

デフォルト: BLKSZFB=3200**BLKSZVB**

可変ブロック データ セットの割り当て時に使用されるブロック サイズを指定します。

デフォルト: BLKSZVB=25600**ZFSHLQ**

インストール処理中に作成される以下の 2 つの z/FS データ セットに高レベル修飾子を指定します。

- zfshlq.ZFS
- zfshlq.*fmid*.ZFS

fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

デフォルト: ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW

PATHPREFIX

z/FS データ セットのマウント ポイント用のパス名プレフィックスを指定します。

デフォルト: PATHPREFIX=,

例

PATHPREFIX=/instpath

以下のマウント ポイントになります。

instpath/usr/lpp/sysview
instpath/usr/lpp/sysview/fmid

fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

SMPEHLQ

SMP/E ライブラリの HLQ を指定します。SMP/E HLQ に対して値を指定すると、追加サンプル ジョブ (INST0005) が生成されます。このジョブは PREFIX 指定 HLQ を使用して、ランタイム ライブラリ セットを作成します。

SMPETZ

SMP/E ターゲット ゾーンを指定します。

デフォルト: SMPETZ=CAIT

SMPEDZ

SMP/E 配布 ゾーンを指定します。

デフォルト: SMPEDZ=CAID

SMPEVOL

内部 SMP/E およびターゲット データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

DLIBVOL

SMP/E 配布 データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

SMPEUNIT

SMPEVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

DLIBUNIT

DLIBVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

AUTHLIB

動的インストール プログラムのコピー先となる、APF 許可された既存のライブラリのデータ セット名を指定します。この動的なインストール プログラム:

- ロードライブラリを動的に APF 許可します。
- スーパーバイザ コール (SVC) をインストールします。
- サブシステムを追加します。

CEEHLQ

ユーザ サイトの C 言語環境の高レベル修飾子を指定します。

IMSHLQ

ユーザ サイトの IMS 高レベル修飾子を指定します。IMS の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用に DD ステートメントを生成するために使用されます。

DD DSN=imshlq.SDFSRESL

MQSHLQ

ユーザ サイトの WebSphere MQ 高レベル修飾子を指定します。WebSphere MQ の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用に DD ステートメントを生成するために使用されます。

DD DSN=mqshlq.SCSQAUTH
DD DSN=mqshlq.SCSQLLOAD
DD DSN=mqshlq.SCSQANLE

SYSTCPD

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。このパラメータは HFS (階層ファイルシステム) パスで指定することもできます。

デフォルト: TCPIP.TCPIP.DATA

TCPMBR

TCP/IP データセットがある場合、そのメンバ名を指定します。

注: このパラメータが必要なのは、SYSTCPD パラメータで指定されたデータセットが PDS である場合のみです。

デフォルト: なし

OPTIONS

お客様にライセンスされているオプションを有効にするように指定します。このオプションにはベース製品が含まれています。オプション値を指定すると、オプションコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからオプションコマンドにアクセスできます。

注: 1つ以上のオプションを指定します。

OPTIONS パラメータの値には以下のようなものがあります。

- CAPTURE|NOCAPTURE - Event Capture Option
- CICS|NOCICS - CA SYSVIEW Option for CICS
- DATACOM|NODATACOM - CA SYSVIEW CA Datacom Option
- IMS|NOIMS - CA SYSVIEW Option for IMS
- MVS|NOMVS - CA SYSVIEW Option for z/OS
- MQSERIES|NOMQSERIES - CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ
- TCPIP|NOTCPIP - CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- WILYAPM|NOWILYAPM - CA SYSVIEW for CA APM

COMPONENTS

有効にする CA SYSVIEW コンポーネントを指定します。コンポーネント値を指定すると、コンポーネントコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからコンポーネントコマンドにアクセスできます。

注: DB2 は新しいコンポーネントで、CA Insight for DB2 のライセンス(LMP キー)が必要です。

コンポーネント パラメータの値には以下のようなものがあります。

- DB2|NODB2 - CA Insight for DB2
- HCHECK|NOHCHECK - IBM Health Checker
- MIM|NOMIM - CA MIM Resource Sharing for z/OS
- ROSCOE|NOROSCOE - CA Roscoe
- USS|NOUSS - UNIX System Services
- XSYSTEM|NOXSYSTEM - クロス システム コンポーネント

注: CA SYSVIEW のインストールの完了後に、これらのコンポーネントおよびオプションの一部に関して、追加のインストールまたはカスタマイズ作業を実行します。

SVC

CA SYSVIEW で使用するスーパーバイザー コール(SVC)番号を指定します。タイプ 3 のユーザ SVC が必要です。

SVC モジュール GSVXSVC は後方互換性があります。ただし、CA SYSVIEW の旧リリースとの SVC の共有を計画している場合は、条件付きメンテナンスを適用します。

デフォルト: 238

SUBSYS

システム パラメータライブラリで System Configuration Options メンバ名に対してサフィックスを指定します。別の製品にすでに使用されていない場合は、GSVX を使用してください。同じサブシステムは、CA SYSVIEW の複数のリリースを共有できます。

デフォルト: SUBSYS=GSVX

SITEID=*siteid*

テクニカル サポートに問い合わせる際に使用する CA カスタマ サイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

JOBNAME

インストール ジョブ用の JOB ステートメントを作成する際に使用するジョブ名を指定します。パラメータが指定されていない場合、インストール メンバの名前が使用されます。

NAME

JOB ステートメントで指定されているプログラマ名を指定します。

ACCT

JOB ステートメントを作成する必要がある場合、アカウント番号を指定します。

デフォルト: ACCT=(00000000)

NOTIFY

ジョブ完了時に通知されるユーザ ID を指定します。NO が指定された場合、JOB ステートメントでこのパラメータは生成されません。

デフォルト: NOTIFY=NO

CLASS

JOB ステートメントで使用するジョブ クラスを指定します。

デフォルト: CLASS=A

MSGCLASS

JOB ステートメントで使用するメッセージクラスを指定します。

デフォルト: MSGCLASS=A

MSGLEVEL

JOB ステートメントで使用するメッセージレベルを指定します。

デフォルト: MSGLEVEL=(1,1)

ROUTE

次のルートステートメントを生成します: /*ROUTE PRINT *userid*。 NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト: ROUTE=NO

SYSAFF

次のような、システムとの関連付けを行うステートメントを生成します:

/*JOBPARM SYSAFF=*sysname*。 NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト: SYSAFF=NO

OUTC

SYSOUT で使用する出力クラスを指定します。

デフォルト: OUTC=*

ASMPGM

モジュールをアセンブルするプログラムの名前を指定します。 設定可能な値は IEV90 または ASMA90 です。

デフォルト: ASMPGM=ASMA90

LINKPGM

モジュールをリンク エディットするプログラムの名前を指定します。

デフォルト: LINKPGM=IEWL

詳細:

[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)

ESD インストールによる出力

以下のテーブルは、インストール中に作成されるメンバを示しています。

| ジョブ/プロシージャ | SAMPLIB | 目的 |
|------------|---------|--|
| INST0001 | なし | データセットの削除、割り当て、初期化を行います。 |
| INST0002 | なし | z/FS ベースデータセットを割り当ておよびマウントします。 |
| INST0003 | なし | z/FS リリース依存データセットを割り当ておよびマウントします。 |
| INST0004 | なし | SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行します。 |
| INST0005 | なし | ランタイムライブラリセットを作成します。 |

ライブラリの削除、割り当て、初期化(INST0001)

この手順は CA SYSVIEW および SMP/E ライブラリの削除、割り当て、初期化を行います。ライブラリの取り込み前に行う必要があります。

ライブラリを削除、割り当て、初期化する方法

1. `sysview.SAMPJCL` データセット内の `INST0001` メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. `INST0001` メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、ライブラリは正常に割り当てられ、取り込みの準備ができます。

z/FS ベース データ セットの割り当ておよびマウント(INST0002)

この INST002 ジョブによって、HFS または z/FS データ セットを作成します。これは CA SYSVIEW の今後のリリースで使用可能です。CA SYSVIEW の初回インストール時にのみ、このジョブを実行する必要があります。

リリースに依存する HFS または z/FS データ セット、ディレクトリ、マウント ポイントを新規リリースごとに作成します。

HFS または z/FS データ セットの割り当ておよびマウントを行う方法

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0002 メンバを調べ、名前とパラメータがすべて正しいことを確認します。
2. 以下の割り当てタイプを指定します。
z/FS ファイルの場合 ZFS='TRUE' に設定
HFS ファイルの場合 ZFS='FALSE' に設定
3. INST0002 メンバをサブミットします。

このメンバに含まれ、実行される手順は以下の通りです。各手順はリターンコード 0 で完了する必要があります。

UNMOUNT

既存の z/FS データ セットをマウント解除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELDIR

z/FS ディレクトリを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELZFS

z/FS データ セットを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

ALLOCZFS

z/FS データ セットを割り当てます。

FORMAT

z/FS データ セットをフォーマットします。

MAKEDIR

必要なディレクトリ構造を作成します。

MOUNT

指定されたディレクトリに z/FS データ セットをマウントします。

CHMOD

ディレクトリ許可を設定します。

リターンコード 0 でジョブが終了した場合は、z/FS ベース データ セットは正常に割り当てられマウントされています。

[z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウント \(INST0003\)](#)

この INST003 ジョブは、CA SYSVIEW の新規リリース用の z/FS データ セット、ディレクトリ、およびマウントポイントを作成します。このジョブは、CA SYSVIEW の新規リリースのインストールごとに実行する必要があります。

z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウントを行う方法

1. sysview.SAMPJCL データ セット内の INST0003 メンバを調べ、名前とパラメータがすべて正しいことを確認します。
2. 以下の割り当てタイプを指定します。
z/FS ファイルの場合 ZFS='TRUE' に設定
HFS ファイルの場合 ZFS='FALSE' に設定
3. INST0003 メンバをサブミットします。

このメンバに含まれ、実行される手順は以下の通りです。各手順はリターンコード 0 で完了する必要があります。

UNMOUNT

既存の z/FS をマウント解除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELDIR

特定のリリース ディレクトリを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELZFS

z/FS イメージを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

ALLOCZFS

z/FS データ セットを割り当てます。

FORMAT

z/FS データ セットをフォーマットします。

MAKEDIR

必要なディレクトリ構造を作成します。

MOUNT

指定されたディレクトリに z/FS データ セットをマウントします。

CHMOD

ディレクトリ許可を設定します。

リターンコード 0 でジョブが終了した場合は、z/FS リリース依存データ セットは正常に割り当てられマウントされています。

SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能(INST0004)

この手順は SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行します。

SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行する方法

1. sysview.SAMPJCL データ セット内の INST0004 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。

2. INST0004 メンバをサブミットします。

ジョブが 4 以下の条件コードで終了した場合は、RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能の実行が完了しています。

ランタイム ライブラリの作成(INST0005)

このオプションの手順によって、ユーザの環境用のランタイム ライブラリ セットが作成されます。

以下の手順に従います。

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。

ランタイム ライブラリ セットを作成するために、このサンプル JCL メンバ INST0005 が生成されます。

2. システム環境設定オプション メンバでコーディングされている SMP/E ターゲット ライブラリをコピーします。

ランタイム ライブラリが作成されます。

注: SMPEHLQ の値を削除すると、INST0005 JCL は生成されません。または SMPEHLQ の値が PREFIX と同じになります。

USS ディレクトリのクリーンアップ

重要: この手順はオプションです。インストール処理をすべて完了するまで、この手順を使用しないでください。

CA 製品の pax ファイルのダウンロードと処理を実行した後、今後のダウンロード用にファイルシステムのディスク容量を空けるには、USS ディレクトリからファイルを消去し、不要な MVS データ セットを削除することをお勧めします。以下の項目を削除できます。

- Pax ファイル
- pax コマンドによって作成された製品固有のディレクトリおよびそのディレクトリに含まれるすべてのファイル
- SMP/E RELFILE、SMPMCS、および HOLDDATA MVS データ セット

これらのデータ セットには UNZIPJCL ジョブで割り当てた HLQ があります。

注: 今後の参照用に、*yourhlq.INSTALL.NOTES* などの SMP/E 以外のインストール データ セットは保持してください。

pax ファイルおよび製品固有ディレクトリを削除する方法

1. pax-Enhanced ESD USS ディレクトリに移動します。
適用可能な USS ディレクトリが表示されます。
2. 以下のコマンドを入力して、pax ファイルを削除します。

`rm paxfile`

`paxfile`

ダウンロードした CA 製品の pax ファイルの名前を指定します。

pax ファイルが削除されます。

3. 以下のコマンドを入力して、製品固有のディレクトリを削除します。

`rm -r product-specific-directory`

`product-specific-directory`

pax コマンドによって作成された製品固有のディレクトリを指定します。

製品固有のディレクトリが削除されます。

注: また、TSO ISHELL を使用して pax ファイルおよび製品固有のディレクトリに移動し、D 行コマンドを使用して、それらを削除できます。

メンテナンスの APPLY

CA Support Online には、インストール データの作成後に発行されたメンテナンスおよび HOLDDATA が存在する場合があります。

メンテナンスを適用する方法

1. CA Support Online を確認し、このリリース作成後に発行された PTF または HOLDDATA があれば、ダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを 2 つの個別の FB 80 順次データセットに転送します。1 つのデータセットを PTF を保持するために使用し、もう 1 つのデータセットを HOLDDATA を保持するために使用します。
3. `HLQ.SAMPJCL(SMPPTF)` を編集してサブミットし、メンテナンスの SMP/E RECEIVE および APPLY を実行します。オプションで、PTF を ACCEPT できます。

注: メンテナンスが入手可能かどうかを確認することをお勧めしますが、利用可能なメンテナンスが見つからない場合もあります。メンテナンスが入手可能ではない場合は、「製品のデプロイ」に移動してください。

HOLDDATA

メンテナンスを適用するとき、通常 SMP/E HOLDDATA を使用します。エラーまたは特殊な条件の SYSMOD の SMP/E システムを通知するために HOLDDATA を使用します。以下の 2 種類の HOLDDATA をサポートされています。

システム HOLDDATA

特別な条件をユーザに知らせる SYSMOD のインストリーム部分にあるデータであることを示します。システムの HOLDDATA の例を以下に示します。

ACTION

この SYSMOD を適用する前または後に、特別な処理を実行する必要があることを示します。

DEP

外部的に確認する必要があるこの SYSMOD の依存関係を示します。

DELETE

SYSMOD のロード モジュールを削除します。SMP/E RESTORE コマンドを使用して、この種類の SYSMOD を元に戻すことはできません。

DOC

この SYSMOD を使用したドキュメントの変更を示します。

EC

この SYSMOD には、ハードウェア エンジニアリングの変更が必要であることを示します。EC がハードウェア デバイスに存在しない場合、通常、EC 保留 SYSMOD は製品に影響しません。

内部に保留のある SYSMOD をインストールするには、APPLY コマンド上でバイパス オペランドを設定します。必要なアクションを実行した後、または APPLY 後にアクションを実行している場合で、それが適切な場合のみ、バイパス オペランドを設定できます。

外部 HOLDDATA

外部 HOLDDATA は PTF に含まれていません。これは、別のファイルに存在します。一般的には、すでに配布済みで、問題を引き起こすことが後で判明した SYSMOD に使用されます。

CA Support Online から DASD ファイルに外部 HOLDDATA をダウンロードし、SMPHOLD DD ステートメントにファイルを割り当てます。外部 HOLDDATA を利用するには、SMP/E 環境で受信します。CA によって提供されたジョブを使用する場合、SMP/E は HOLDDATA を受信します。

SYSMOD に未解決の保留エラーがあると、ユーザがバイパスを APPLY コマンドに追加しない場合、SMP/E はそれをインストールしません。ユーザに該当しない状況でのエラー保留はバイパスできます。ユーザに該当しないエラー保留には、保有していないハードウェア デバイス、または使用していない製品機能のみで発生した問題が含まれている可能性があります。

保留を解決する SYSMOD を発行すると、SYSMOD の解決は保留エラーに優先されます。このアクションでは、修正する SYSMOD と共に元の SYSMOD を適用することができます。

ERREL と呼ばれる特別な HOLDDATA クラスが存在します。SYSMOD によって修正される問題は、それが引き起こす問題よりも重要であると決定しました。これらの SYSMOD を適用することをお勧めします。

確実に外部 HOLDDATA データを管理するには、SMP/E によって自動的に管理することを許可します。唯一の手動タスクは REPORT ERRSYSMODS を実行しています。このレポートでは、ユーザのシステムに適用されている保留 SYSMODS を特定します。受信ステータスにある SYSMOD を解決する場合、状況を修正するために適用する SYSMOD を特定します。

第5章：テープからの製品のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [テープからのインストールライブラリのコピー \(P. 87\)](#)
- [INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 89\)](#)
- [ライブラリの削除、割り当て、初期化\(INST0001\) \(P. 104\)](#)
- [z/FS ベース データ セットの割り当ておよびマウント\(INST0002\) \(P. 105\)](#)
- [z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウント\(INST0003\) \(P. 106\)](#)
- [SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能\(INST0004\) \(P. 107\)](#)
- [ランタイム ライブラリの作成\(INST0005\) \(P. 108\)](#)
- [メンテナンスの APPLY \(P. 108\)](#)
- [HOLDDATA \(P. 109\)](#)

テープからのインストール ライブラリのコピー

この手順を使用して、テープからインストール ライブラリをコピーします。

以下の手順に従います。

1. 使用しているサイトの仕様に合わせてサンプル JCL を編集します。TMS (テープ管理システム)を使用している場合は、以下のバージョンのラベル パラメータを使用することを検討してください。

```
// LABEL=(1,SL,EXPDT=98000)
```

2. ジョブ ストリームを変更するには、サンプル JCL の INSTLIB DD 内で、以下に小文字のイタリック体で表記されている項目を、説明に従ってサイトの要件に合うように変更します。

この JCL は、ユーザが LABEL パラメータで EXPDT=98000 を必要とする TMS を使用していないことを前提としています。このラベルは配布テープを TMS、たとえば、CA 1 または CA TLMS TM の制御外にあるものとして識別します。

sysview

インストール ライブラリの高レベル修飾子(HLQ)を定義します。
SYSVIEW がすべてのライブラリのデフォルト修飾子です。

注: 使用しているサイトの命名規則と要件に合わせて、このパラメータを変更してください。

volume

インストール ライブラリの格納先ボリュームのシリアル番号を指定します。

変更するジョブ ストリームは以下の通りです。

```
//TAPEINST JOB (0000)
//*
//**=====
//**                                     *
//** Sample job to create the sysview.SAMPJCL data set.      *
//**                                     *
//**=====
//*
// SET TAPEIN='CAI.SAMPJCL'
// SET TAPEVOL='SYD500'
//*
// SET SAMPJCL='sysview.SAMPJCL'
// SET VOLUME='volume'
//*
//COPY      EXEC PGM=IEBCOPY
//SYSUT3   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSUT4   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//IN       DD DSN=&TAPEIN,
//          DISP=OLD,
//          UNIT=TAPE,
//          VOL=SER=&TAPEVOL,
//          LABEL=(1,SL)
//*
//SAMPJCL  DD DSN=&SAMPJCL,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=&VOLUME,
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=6160),
//          SPACE=(CYL,(05,02,45))
//*
//SYSIN    DD *
      COPY INDD=((IN,R)),OUTDD=SAMPJCL
/*
```

3. 変更したサンプル JCL をサブミットします。

インストール ライブラリが製品テープからダウンロードされます。

INSTALL ジョブの変更および実行

SAMPJCL インストール ライブラリ内の INSTALL ジョブが CA SYSVIEW のインストールに必要な JCL ストリームを生成します。

この手順には、使用しているサイトの要件に合わせて INSTALL ジョブを変更する方法が説明されています。

この手順を開始する前に、以下の情報をご確認ください。

- 高レベル修飾子 (HLQ)。20 文字以下の文字列である必要があります。
- CA SYSVIEW で使用する SVC 番号。タイプ-3 のユーザ スーパーバイザーコール (SVC) が必要です。
- APF (許可プログラム機能) で許可されたライブラリのデータセット名。ここに動的インストール プログラムがコピーされます。

INSTALL ジョブを変更し実行する方法

1. 使用しているサイトの要件に従って、INSTALL 内の以下のジョブ ステートメントを変更します。

```
//INSTALL JOB (00000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
```

2. INSTALL 内の以下の SYSLIB ステートメントを変更して、高レベル修飾子 *sysview* をインストール ライブラリのダウンロード時に選択した修飾子に置換します。

```
//SYSLIB DD DISP=SHR, DSN= sysview.SAMPJCL
```

3. INSTALL 内の GSVIINST マシン パラメータを変更します。

INSTALL ジョブ ストリームには、マクロの GSVIINST 用のパラメータが含まれます。これらのパラメータに割り当てられた値により、CA SYSVIEW のインストール方法が決定されます。生成されたジョブ ストリーム内の値は、それらが使用される手順より前に変更できます。

4. INSTALL ジョブをサブミットします。

ジョブが内部リーダにサブミットされ、ジョブ ストリームが生成されます。

JOBNAME パラメータで指定したジョブ名はアセンブリからの出力です。ジョブ名を指定しなかった場合、ジョブ出力は INST0000 です。

重要: メンバの編集中は、TSO が *sysview.SAMPJCL* にエンキューを要求するので、編集セッションを終了してこのデータセットをリリースするまでジョブは実行されません。

詳細:

[GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 \(P. 116\)](#)

GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定

INSTALL ジョブをサブミットする前に、GSVIINST マクロのパラメータを設定します。次の例に、INSTALL ジョブ内のデフォルトパラメータ値を表示します。

これらのパラメータの構文は以下の通りです。

```
//INSTALL JOB (000000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
//*
//*-----*
//*   CA SYSVIEW
//*   Installation generator
//*
//*   This job will dynamically build the other jobs that are
//*   required to complete the installation.
//*
//*   *-----* Important Notice *-----*
//*
//*   CA Mainframe Software Manager
//*
//*   If you have used CA Mainframe Software Manager
//*   to perform the installation of the product,
//*   this step is required.
//*
//*   Step: Required
//*
//*-----*
//ASM EXEC PGM=ASMA90,REGION=1024K,PARM='NOTERM,LIST,DECK,N0OBJECT'
//*
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSPUNCH DD SYSOUT=(*,INTRDR),DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=2000)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//*-----*
//*   The data set defined to the DDNAME SYSLIB should also
//*   be coded as the data set name on the GSVIINST option
//*   INSTLIB=.
//*
//*   The options that require modification or inspection
//*   for specific site installation needs are marked with
//*   a "<--".
//*-----*
```

```
/*
//SYSLIB    DD DISP=SHR,DSN=sysview.SAMPJCL           <---INSTLIB
/*
/*
//** Note: When modifying the macro below, remember to include
//**         the continuation character "X" in column 72 for all
//**         lines except the last line containing the DUMMY=
//**         parameter.
/*
//*.+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7.X
//SYSIN    DD *
*
        PRINT NOGEN
        GSVIINST
        ,
        *-----* X
        , * Installation data set name          * X
        , * This is the data set name that you are   * X
        , * editing now.                         * X
        , *-----* X
        INSTLIB=sysview.SAMPJCL,                 <--- X
        , *-----* X
        , * System parmlib data set            * X
        , *-----* X
        , *-----* X
        SYSPLIB=SYS1.PARMLIB,                  <--- X
        , *-----* X
        , * Source installation Media          * X
        , *      ESD - ESD file on DASD       * X
        , *      TAPE - Physical cartridge     * X
        , *-----* X
        SOURCE=ESD,                           ESD | TAPE <--- X
        TAPEVOL=SYD500,                      X
        TAPUNIT=3480,                        <--- X
        , *-----* X
        , * High-level qualifier used when the ESD file  * X
        , * was UNZIPPED.                     * X
        , *-----* X
        ESDHLQ=yourHLQ,                     ESD HLQ <--- X
        , *-----* X
        , * Data set allocation             * X
        , *-----* X
        PREFIX=sysview,                     <--- X
        DELETE=YES,                          X
        DASDVOL=volume,                    <--- X
        SMS=NO,                            X
        SMSVOL=,                           X
        STORCLAS=,                         X
        DSKUNIT=SYSDA,                     X
        WRKUNIT=SYSDA,                     X
        PROFTYPE=PDS,                      X
```

```

, *-----* X
, * Data set blocksizes * X
, *-----* X
BLKSZU=6144, X
BLKSZFB=3200, X
BLKSZVB=25600, X
, *-----* X
, * z/FS data set allocation * X
, *-----* X
ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW, <--- X
PATHPREFIX=, X
, *-----* X
, * SMP/E * X
, *-----* X
SMPEHLQ=, X
SMPETZ=CAIT, X
SMPEDZ=CAID, X
SMPEVOL=volume, <--- X
DLIBVOL=volume, <--- X
SMPEUNIT=SYSDA, X
DLIBUNIT=SYSDA, X
, *-----* X
, * Data set and high level qualifiers * X
, *-----* X
AUTHLIB=apf.auth.dataset.name, <--- X
CEEHLQ=CEE, <--- X
IMSHLQ=ims, <--- X
MQSHLQ=mqseries, <--- X
SYSTCPD=TCPIP.TCPIP.DATA, <--- X
TCPMBR=, X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Options * X
, *-----* X
OPTIONS=(, Begin option list X
NOCAPTURE, ...option X
NOCICS, ...option X
NODATACOM, ...option X
NOIMS, ...option X
NOMVS, ...option X
NOMQSERIES, ...option X
NOTCPIP, ...option X
NOWILYAPM, ...option X
), End option list X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Components * X
, *-----* X
COMPONENTS=(, Begin component list X
DB2, ...component X
HCHECK, ...component X

```

```
MIM,          ...component      X
ROSCOE,       ...component      X
USS,          ...component      X
XSYSTEM,       ...component      X
),
                  End component list X
, *-----* X
, *   CA SYSVIEW GEN parameters * X
, *-----* X
SVC=238,           <--- X
SUBSYS=GSVX,        X
, *-----* X
, * The CA customer siteid.      * X
, * The siteid will be used to assist technical * X
, * support with diagnostics. This is used when * X
, * FTPing information to CA. (optional)      * X
, *-----* X
SITEID=siteid,      <--- X
, *-----* X
, *   Jobcard/JCL creation      * X
, *-----* X
JOBNAME=,           X
NAME='PROGRAMMER NAME',      <--- X
ACCT=(000000000),        X
NOTIFY=NO,           X
CLASS=A,             X
MSGCLASS=A,           X
MSGLEVEL=(1,1),         X
ROUTE=NO,             X
SYSAFF=NO,           X
OUTC=*,              X
, *-----* X
, *   Assemble and Link edit    * X
, *-----* X
ASMPGM=ASMA90,         X
LINKPGM=IEWL,           X
, *-----* X
, *   End of Macro            * X
, *-----* X
DUMMY=DUMMY

*
*   Do not remove the following line.
*
END
/*
```

以下の GSVIINST パラメータが変更可能です。

INSTLIB

現在のインストールライブラリ データセット名を指定します。「INSTALL ジョブの変更および実行」の手順で設定した SYSLIB ステートメントで使用されているものと同じ高レベル修飾子を使用するようにしてください。

デフォルト: *sysview.SAMPJCL*

SYSPLIB

システム環境設定オプション メンバが含まれるシステム パラメータライブラリを指定します。

デフォルト: SYS1.PARMLIB

SOURCE=*source*

ソース インストール メディアのタイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

- ESD - Electronic Software Delivery DASD ファイル
- TAPE - 標準のインストール カートリッジ

TAPEVOL

テープに割り当てられたボリューム シリアル番号 (volser) を指定します。

TAPEVOL については、テープ ラベルに記載された volser を指定してください。

注: SOURCE=ESD が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

TAPUNIT

テープユニット タイプを指定します。

デフォルト: TAPUNIT=3480

注: SOURCE=ESD が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

ESDHQ=*yourHLQ*

このパラメータは、SOURCE=ESD が指定されている場合にのみ使用され、また指定する必要があります。

ESD ファイルが z/OS データ セットに解凍される際に使用される高レベル修飾子を指定します。UNZIPJCL はこのジョブを実行します。

UNZIPJCL ジョブは *yourHLQ* としてこの高レベル修飾子を参照します。
ESDHQ= 値に同じ値を使用します。

PREFIX

データセットを割り当てる際に使用するプレフィックスを指定します。

制限: PREFIX および SUFFIX の全体の長さは、20 文字以内である必要があります。

デフォルト: PREFIX=sysview

DELETE

割り当て前に、個々の新規ライブラリに対して DELETE リクエストが生成されるかどうかを示すために使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。ライブラリの既存のセットに再インストールする場合は、DELETE=NO を指定します。

デフォルト: DELETE=YES

DASDVOL

データセットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号(volser)を指定します。

SMS

データセットの割り当てに SMS が使用されるかどうかを定義するのに使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。YES を指定した場合は、STORCLAS パラメータで SMS ストレージクラスを指定します。

デフォルト: SMS=NO

SMSVOL

SMS データセットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号(volser)を指定します。

注: 一部のサイトでは、SMS に volser を指定することを許可していません。

STORCLAS

SMS パラメータで YES を指定している場合、使用する SMS ストレージクラスを指定します。

DSKUNIT

ディスクユニットタイプを指定します。

デフォルト: DSKUNIT=SYSDA

WRKUNIT

ディスクワークユニットタイプを指定します。

デフォルト: WRKUNIT=SYSDA

PROFTYPE

割り当てるプロファイル データ セットタイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

PDS

PDS プロファイル データ セットを割り当てます。1 つの PDS は複数のシスプレックスで共有されます。

LIBRARY

PDSE プロファイル データ セットを割り当てます。これは、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。使用している構成に複数のシスプレックスが含まれている場合は、各シスプレックスに一意のデータ セットが割り当てられている必要があります。

デフォルト: PDS**BLKSZU**

レコード長が未定義のデータ セットを割り当てる際に使用されるブロック サイズを指定します。このパラメータを使用してロードライブラリ データ セットを割り当てます。

デフォルト: BLKSZU=6144**BLKSZFB**

固定ブロック データ セットの割り当て時に使用されるブロック サイズを指定します。

デフォルト: BLKSZFB=3200**BLKSZVB**

可変ブロック データ セットの割り当て時に使用されるブロック サイズを指定します。

デフォルト: BLKSZVB=25600**ZFSHLQ**

インストール処理中に作成される以下の 2 つの z/FS データ セットに高レベル修飾子を指定します。

- zfshlq.ZFS
- zfshlq.*fmid*.ZFS

fmid

CA SYSVIEW SMP/E *fmid* を含みます。

デフォルト: ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW

PATHPREFIX

z/FS データ セットのマウント ポイント用のパス名プレフィックスを指定します。

デフォルト: PATHPREFIX=,

例

PATHPREFIX=/instpath

以下のマウント ポイントになります。

instpath/usr/lpp/sysview
instpath/usr/lpp/sysview/fmid

fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

SMPEHLQ

SMP/E ライブラリの HLQ を指定します。SMP/E HLQ に対して値を指定すると、追加サンプル ジョブ (INST0005) が生成されます。このジョブは PREFIX 指定 HLQ を使用して、ランタイム ライブラリ セットを作成します。

SMPETZ

SMP/E ターゲット ゾーンを指定します。

デフォルト: SMPETZ=CAIT

SMPEDZ

SMP/E 配布 ゾーンを指定します。

デフォルト: SMPEDZ=CAID

SMPEVOL

内部 SMP/E およびターゲット データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

DLIBVOL

SMP/E 配布 データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

SMPEUNIT

SMPEVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

DLIBUNIT

DLIBVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

AUTHLIB

動的インストールプログラムのコピー先となる、APF 許可された既存のライブラリのデータセット名を指定します。この動的なインストールプログラムは以下のタスクを実行します。

- ロードライブラリを動的に APF 許可します。
- スーパーバイザ コール (SVC) をインストールします。
- サブシステムを追加します。

CEEHLQ

ユーザ サイトの C 言語環境の高レベル修飾子を指定します。

IMSHLQ

ユーザ サイトの IMS 高レベル修飾子を指定します。IMS の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用に DD ステートメントを生成するために使用されます。

DD DSN=imshlq.SDFSRSL

MQSHLQ

ユーザ サイトの WebSphere MQ 高レベル修飾子を指定します。WebSphere MQ の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用に DD ステートメントを生成するために使用されます。

DD DSN=mqshlq.SCSQAUTH
DD DSN=mqshlq.SCSQLOAD
DD DSN=mqshlq.SCSQANLE

SYSTCPD

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。このパラメータは、Hierarchical File System (HFS) パスとして指定することもできます。

デフォルト: TCPIP.TCPIP.DATA

TCPMBR

TCP/IP データセットがある場合、そのメンバ名を指定します。

注: このパラメータが必要なのは、SYSTCPD パラメータで指定されたデータセットが PDS である場合のみです。

デフォルト: なし

OPTIONS

お客様にライセンスされているオプションを有効にするように指定します。このオプションにはベース製品が含まれています。オプション値を指定すると、オプションコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからオプションコマンドにアクセスできます。

注: 1つ以上のオプションを指定します。

このパラメータの値には以下のようなものがあります。

- CAPTURE|NOCAPTURE - Event Capture Option
- CICS|NOCICS - CA SYSVIEW Option for CICS
- DATACOM|NODATACOM - CA SYSVIEW CA Datacom Option
- IMS|NOIMS - CA SYSVIEW Option for IMS
- MVS|NOMVS - CA SYSVIEW Option for z/OS
- MQSERIES|NOMQSERIES - CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ
- TCPIP|NOTCPIP - CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- WILYAPM|NOWILYAPM - CA SYSVIEW for CA APM

COMPONENTS

有効にする CA SYSVIEW コンポーネントを指定します。コンポーネント値を指定すると、コンポーネントコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからコンポーネントコマンドにアクセスできます。

注: DB2 は新しいコンポーネントで、CA Insight for DB2 のライセンス (LMP キー)が必要です。

コンポーネント パラメータの値には以下のようなものがあります。

- DB2|NODB2 - CA Insight for DB2
- HCHECK|NOHCHECK - IBM Health Checker
- MIM|NOMIM - CA MIM Resource Sharing for z/OS
- ROSCOE|NOROSCOE - CA Roscoe
- USS|NOUSS - UNIX System Services
- XSYSTEM|NOXSYSTEM - クロス システム コンポーネント

注: CA SYSVIEW のインストールの完了後に、これらのコンポーネントおよびオプションの一部に関して、追加のインストールまたはカスタマイズ作業を実行します。

SVC

CA SYSVIEW で使用するスーパーバイザー コール(SVC)番号を指定します。タイプ 3 のユーザ SVC が必要です。

デフォルト: 238

SUBSYS

システム パラメータライブラリで System Configuration Options メンバ名に対してサフィックスを指定します。別の製品にすでに使用されていない場合は、GSVX を使用してください。同じサブシステムは、CA SYSVIEW の複数のリースを共有できます。

デフォルト: SUBSYS=GSVX

SITEID=*siteid*

テクニカル サポートに問い合わせる際に使用する CA カスタマ サイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

JOBNAME

インストール ジョブ用の JOB ステートメントを作成する際に使用するジョブ名を指定します。パラメータが指定されていない場合、インストール メンバの名前が使用されます。

NAME

JOB ステートメントで指定されるプログラマ名を指定します。

ACCT

JOB ステートメントを作成する必要がある場合、アカウント番号を指定します。

デフォルト: ACCT=(00000000)

NOTIFY

ジョブ完了時に通知されるユーザ ID を指定します。NO が指定された場合、JOB ステートメントでこのパラメータは生成されません。

デフォルト: NOTIFY=NO

CLASS

JOB ステートメントで使用するジョブ クラスを指定します。

デフォルト: CLASS=A

MSGCLASS

JOB ステートメントで使用するメッセージクラスを指定します。

デフォルト: MSGCLASS=A

MSGLEVEL

JOB ステートメントで使用するメッセージレベルを指定します。

デフォルト: MSGLEVEL=(1,1)

ROUTE

次のルートステートメントを生成します: /*ROUTE PRINT userid。NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト: ROUTE=NO

SYSAFF

次のような、システムとの関連付けを行うステートメントを生成します:

/*JOBPARM SYSAFF=*sysname*。NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト: SYSAFF=NO

OUTC

SYSOUT で使用する出力クラスを指定します。

デフォルト: OUTC=*

ASMPGM

モジュールのアセンブルに使用されるプログラムの名前を指定します。設定可能な値は IEV90 または ASMA90 です。

デフォルト: ASMPGM=ASMA90

LINKPGM

モジュールのリンクエディットに使用されるプログラムの名前を指定します。

デフォルト: LINKPGM=IEWL

詳細:

[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)

テープインストールによる出力

以下のテーブルは、インストール中に作成されるメンバを示しています。

| ジョブ/プロシージャ | SAMPLIB | 目的 |
|------------|---------|---------------------------------------|
| INST0001 | なし | データセットの削除、割り当て、初期化を行います。 |
| INST0002 | なし | z/FSベースデータセットを割り当ておよびマウントします。 |
| INST0003 | なし | z/FSリリース依存データセットを割り当ておよびマウントします。 |
| INST0004 | なし | SMP/EのRECEIVE、APPLYおよびACCEPT機能を実行します。 |
| INST005 | なし | ランタイムライブラリセットを作成します。 |

ライブラリの削除、割り当て、初期化(INST0001)

この手順は CA SYSVIEW および SMP/E ライブラリの削除、割り当て、初期化を行います。ライブラリの取り込み前に行う必要があります。

ライブラリを削除、割り当て、初期化する方法

1. *sysview.SAMPJCL* データセット内の INST0001 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0001 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、ライブラリは正常に割り当てられ、取り込みの準備ができます。

z/FS ベース データ セットの割り当ておよびマウント(INST0002)

この INST002 ジョブによって、HFS または z/FS データ セットを作成します。これは CA SYSVIEW の今後のリリースで使用可能です。CA SYSVIEW の初回インストール時にのみ、このジョブを実行する必要があります。

リリースに依存する HFS または z/FS データ セット、ディレクトリ、マウント ポイントを新規リリースごとに作成します。

HFS または z/FS データ セットの割り当ておよびマウントを行う方法

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0002 メンバを調べ、名前とパラメータがすべて正しいことを確認します。
2. 以下の割り当てタイプを指定します。
z/FS ファイルの場合 ZFS='TRUE' に設定
HFS ファイルの場合 ZFS='FALSE' に設定
3. INST0002 メンバをサブミットします。

このメンバに含まれ、実行される手順は以下の通りです。各手順はリターンコード 0 で完了する必要があります。

UNMOUNT

既存の z/FS データ セットをマウント解除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELDIR

z/FS ディレクトリを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELZFS

z/FS データ セットを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

ALLOCZFS

z/FS データ セットを割り当てます。

FORMAT

z/FS データ セットをフォーマットします。

MAKEDIR

必要なディレクトリ構造を作成します。

MOUNT

指定されたディレクトリに z/FS データ セットをマウントします。

CHMOD

ディレクトリ許可を設定します。

リターンコード 0 でジョブが終了した場合は、z/FS ベース データ セットは正常に割り当てられマウントされています。

z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウント (INST0003)

この INST003 ジョブは、CA SYSVIEW の新規リリース用の z/FS データ セット、ディレクトリ、およびマウントポイントを作成します。このジョブは、CA SYSVIEW の新規リリースのインストールごとに実行する必要があります。

z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウントを行う方法

1. sysview.SAMPJCL データ セット内の INST0003 メンバを調べ、名前とパラメータがすべて正しいことを確認します。
2. 以下の割り当てタイプを指定します。
z/FS ファイルの場合 ZFS='TRUE' に設定
HFS ファイルの場合 ZFS='FALSE' に設定
3. INST0003 メンバをサブミットします。

このメンバに含まれ、実行される手順は以下の通りです。各手順はリターンコード 0 で完了する必要があります。

UNMOUNT

既存の z/FS をマウント解除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELDIR

特定のリリース ディレクトリを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELZFS

z/FS イメージを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

ALLOCZFS

z/FS データ セットを割り当てます。

FORMAT

z/FS データ セットをフォーマットします。

MAKEDIR

必要なディレクトリ構造を作成します。

MOUNT

指定されたディレクトリに z/FS データ セットをマウントします。

CHMOD

ディレクトリ許可を設定します。

リターンコード 0 でジョブが終了した場合は、z/FS リリース依存データ セットは正常に割り当てられマウントされています。

SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能(INST0004)

この手順は SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行します。

SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行する方法

1. sysview.SAMPJCL データ セット内の INST0004 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。

2. INST0004 メンバをサブミットします。

ジョブが 4 以下の条件コードで終了した場合は、RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能の実行が完了しています。

ランタイム ライブラリの作成(INST0005)

このオプションの手順によって、ユーザの環境用のランタイム ライブラリ セットが作成されます。

以下の手順に従います。

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。
ランタイム ライブラリ セットを作成するために、このサンプル JCL メンバ INST0005 が生成されます。
2. システム環境設定オプション メンバでコーディングされている SMP/E ターゲット ライブラリをコピーします。
ランタイム ライブラリが作成されます。

注: SMPEHLQ の値を削除すると、INST0005 JCL は生成されません。または SMPEHLQ の値が PREFIX と同じになります。

メンテナンスの APPLY

CA Support Online には、インストール データの作成後に発行されたメンテナンスおよび HOLDDATA が存在する場合があります。

メンテナンスを適用する方法

1. CA Support Online を確認し、このリリース作成後に発行された PTF または HOLDDATA があれば、ダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを 2 つの個別の FB 80 順次データ セットに転送します。1 つのデータ セットを PTF を保持するために使用し、もう 1 つのデータ セットを HOLDDATA を保持するために使用します。
3. HLQ.SAMPJCL(SMPPTF) を編集してサブミットし、メンテナンスの SMP/E RECEIVE および APPLY を実行します。オプションで、PTF を ACCEPT できます。

注: メンテナンスが入手可能かどうかを確認することをお勧めしますが、利用可能なメンテナンスが見つからない場合もあります。メンテナンスが入手可能ではない場合は、「製品のデプロイ」に移動してください。

HOLDDATA

メンテナンスを適用するとき、通常 SMP/E HOLDDATA を使用します。エラーまたは特殊な条件の SYSMOD の SMP/E システムを通知するために HOLDDATA を使用します。以下の 2 種類の HOLDDATA をサポートされています。

システム HOLDDATA

特別な条件をユーザに知らせる SYSMOD のインストリーム部分にあるデータであることを示します。システムの HOLDDATA の例を以下に示します。

ACTION

この SYSMOD を適用する前または後に、特別な処理を実行する必要があることを示します。

DEP

外部的に確認する必要があるこの SYSMOD の依存関係を示します。

DELETE

SYSMOD のロード モジュールを削除します。SMP/E RESTORE コマンドを使用して、この種類の SYSMOD を元に戻すことはできません。

DOC

この SYSMOD を使用したドキュメントの変更を示します。

EC

この SYSMOD には、ハードウェア エンジニアリングの変更が必要であることを示します。EC がハードウェア デバイスに存在しない場合、通常、EC 保留 SYSMOD は製品に影響しません。

内部に保留のある SYSMOD をインストールするには、APPLY コマンド上でバイパスオペランドを設定します。必要なアクションを実行した後、または APPLY 後にアクションを実行している場合で、それが適切な場合のみ、バイパスオペランドを設定できます。

外部 HOLDDATA

外部 HOLDDATA は PTF に含まれていません。これは、別のファイルに存在します。一般的には、すでに配布済みで、問題を引き起こすことが後で判明した SYSMOD に使用されます。

CA Support Online から DASD ファイルに外部 HOLDDATA をダウンロードし、SMPHOLD DD ステートメントにファイルを割り当てます。外部 HOLDDATA を利用するには、SMP/E 環境で受信します。CA によって提供されたジョブを使用する場合、SMP/E は HOLDDATA を受信します。

SYSMOD に未解決の保留エラーがあると、ユーザがバイパスを APPLY コマンドに追加しない場合、SMP/E はそれをインストールしません。ユーザに該当しない状況でのエラー保留はバイパスできます。ユーザに該当しないエラー保留には、保有していないハードウェア デバイス、または使用していない製品機能のみで発生した問題が含まれている可能性があります。

保留を解決する SYSMOD を発行すると、SYSMOD の解決は保留エラーに優先されます。このアクションでは、修正する SYSMOD と共に元の SYSMOD を適用することができます。

ERREL と呼ばれる特別な HOLDDATA クラスが存在します。SYSMOD によって修正される問題は、それが引き起こす問題よりも重要であると決定しました。これらの SYSMOD を適用することをお勧めします。

確実に外部 HOLDDATA データを管理するには、SMP/E によって自動的に管理することを許可します。唯一の手動タスクは REPORT ERRSYSMODS を実行しています。このレポートでは、ユーザのシステムに適用されている保留 SYSMODS を特定します。受信ステータスにある SYSMOD を解決する場合、状況を修正するために適用する SYSMOD を特定します。

第6章：製品の開始準備

この章では、CA SYSVIEW の開始および使用前に必要なタスクについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [CA MSM による展開の完了方法 \(P. 111\)](#)
- [CA MSM を使用しない展開方法 \(P. 111\)](#)
- [CA MSM を使用して設定を完了する方法 \(P. 113\)](#)
- [CA MSM なしで設定する方法 \(P. 113\)](#)
- [デフォルト SSID のアセンブルおよびリンク \(USRMO001\) \(P. 191\)](#)
- [製品の開始準備 \(P. 191\)](#)
- [製品の起動 \(P. 197\)](#)
- [インストール後の考慮事項 \(P. 197\)](#)

CA MSM による展開の完了方法

このセクションのトピックでは、[CA MSM を使用して製品を設定するとき \(P. 38\)](#)、実行する手動タスクについて説明します。

CA MSM を使用して、すべての CA SYSVIEW SMP/E インストール済みターゲット ライブラリのコピーを CA MSM システム レジストリに定義されている任意のシステムに展開します。これらのライブラリには、以下のようなものがあります。

- 非シスプレックス システム
- シスプレックス
- 共有 DASD クラスタ
- ステージング システム

CA MSM を使用しない展開方法

このセクションのトピックでは、[CA MSM を使用して製品を設定しないとき、実行する手動タスクについて説明します。](#)

注: SMP/E ターゲットライブラリをランタイムに使用することはお勧めできません。

トピック「[INSTALL による出力](#) (P. 128)」でインストール ジョブ INST0005 を参照してください。

以下の CA SYSVIEW SMP/インストール済みターゲットライブラリのランタイム コピーを展開します。

- CAI.SYSVIEW.CNM4LOD
- CAI.SYSVIEW.CNM4BCAP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BCLS
- CAI.SYSVIEW.CNM4BDAT
- CAI.SYSVIEW.CNM4BHP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BISP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BMAP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BMIB
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPLT
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPNL
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPRF
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPRM
- CAI.SYSVIEW.CNM4BREX
- CAI.SYSVIEW.CNM4BSAM
- CAI.SYSVIEW.CNM4BSEC
- CAI.SYSVIEW.CNM4BTMP

以下のメソッドのいずれかを使用して、これらのライブラリへのアクセスを提供できます。

- すべてのシステムからアクセス可能な共有 DASD 上で、これらのライブラリの単一のコピーを割り当てます。
- 各システム上で、これらのライブラリの一意のコピーを割り当てます。

CA MSM を使用して設定を完了する方法

このセクションのトピックでは、[CA MSM を使用して製品を設定するとき \(P. 39\)](#)、実行する手動タスクについて説明します。

CA MSM ユーザ インターフェースの操作の説明に従って、環境設定を行います。

CA MSM なしで設定する方法

このセクションのトピックでは、CA MSM を使用して製品を設定しないとき、実行する手動タスクについて説明します。

設定手順を完了するには、SAMPJCL データ セットが必要です。TAPE または ESD メソッドを使用してインストールを行っている場合、SAMPJCL データ セットはすでに作成されています。MSM を使用してインストールを行っている場合、SAMPJCL データ セットを割り当てるサンプル JCL は CNM4BSAM SMP/E ターゲットライブラリ内のメンバ MSMJCL にあります。

TAPE または ESD 方法を使用してインストールした場合は、「[インストールによる出力 \(P. 128\)](#)」を参照して続行してください。

製品設定用のサンプル JCL

以下の JCL を使用して、環境設定手順を完了します。

```
//MSMINST JOB (0000)
//*
//**=====
//** Sample job to create the sysview.SAMPJCL data set.
//**
//**   PREFIX = the dataset HLQ used for the SMP/E target
//**           zone when the MSM install was performed.
//**   VOLUME = DASD volume
//**
//**=====
//*
// SET  PREFIX=sysview
// SET  VOLUME=volume
//*
//COPY    EXEC PGM=IEBCOPY
//SYSUT3  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSUT4  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//IN      DD DISP=SHR,DSN=&PREFIX..CNM4BSAM
//*
//SAMPJCL  DD DSN=&PREFIX..SAMPJCL,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=&VOLUME,
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=6160),
//          SPACE=(CYL,(05,02,45))
//*
//SYSTIN  DD DISP=SHR,DSN=&PREFIX..CNM4BSAM(SAMPJCL)
//*
```

注: CA MSM の詳細については、「*CA Mainframe Software Manager Guide*」を参照してください。

INSTALL ジョブの変更および実行

SAMPJCL インストールライブラリ内の INSTALL ジョブが CA SYSVIEW のインストールに必要な JCL ストリームを生成します。

この手順には、使用しているサイトの要件に合わせて INSTALL ジョブを変更する方法が説明されています。

この手順を開始する前に、以下の情報をご確認ください。

- 高レベル修飾子 (HLQ)。20 文字以下の文字列である必要があります。
- CA SYSVIEW で使用する SVC 番号。タイプ-3 のユーザスーパーバイザーコール (SVC) が必要です。
- APF (許可プログラム機能) で許可されたライブラリのデータセット名。ここに動的インストールプログラムがコピーされます。

INSTALL ジョブを変更し実行する方法

1. 使用しているサイトの要件に従って、INSTALL 内の以下のジョブステートメントを変更します。

```
//INSTALL JOB (00000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
```

2. INSTALL 内の以下の SYSLIB ステートメントを変更して、高レベル修飾子 sysview をインストールライブラリのダウンロード時に選択した修飾子に置換します。

```
//SYSLIB DD DISP=SHR,DSN=sysview.SAMPJCL
```

3. INSTALL 内の GSVIINST マシンパラメータを変更します。

INSTALL ジョブストリームには、マクロの GSVIINST 用のパラメータが含まれます。これらのパラメータに割り当てられた値により、CA SYSVIEW のインストール方法が決定されます。生成されたジョブストリーム内の値は、それらが使用される手順より前に変更できます。

4. INSTALL ジョブをサブミットします。

ジョブが内部リーダにサブミットされ、ジョブストリームが生成されます。

JOBNAME パラメータで指定したジョブ名はアセンブリからの出力です。ジョブ名を指定しなかった場合、ジョブ出力は INST0000 です。

重要: メンバの編集中は、TSO が sysview.SAMPJCL にエンキューを要求するので、編集セッションを終了してこのデータセットをリリースするまでジョブは実行されません。

詳細：

GSVIIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 (P. 116)

GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定

INSTALL ジョブをサブミットする前に、**GSVIIINST** マクロのパラメータを設定します。次の例に、**INSTALL** ジョブ内のデフォルトパラメータ値を表示します。

これらのパラメータの構文は以下の通りです。

```
//INSTALL JOB (000000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
/**/
/**-
/** CA SYSVIEW
/** Installation generator
/** 
/** This job will dynamically build the other jobs that are
/** required to complete the installation.
/** 
/** *-----* Important Notice *-----*
/** 
/** CA Mainframe Software Manager
/** 
/** If you have used CA Mainframe Software Manager
/** to perform the installation of the product,
/** this step is required.
/** 
/** Step: Required
/** 
/**-
//ASM EXEC PGM=ASMA90,REGION=1024K,PARM='NOTERM,LIST,DECK,NOBJECT'
/** 
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSPUNCH DD SYSOUT=(*,INTRDR),DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=2000)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
/**-
/** The data set defined to the DDNAME SYSLIB should also
/** be coded as the data set name on the GSVIINST option
/** INSTLIB=.
/**-
/** The options that require modification or inspection
/** for specific site installation needs are marked with
/** a "<---".
/**-
```

```

/*
//SYSLIB    DD DISP=SHR,DSN=sysview.SAMPJCL           <---INSTLIB
/*
/*
//** Note: When modifying the macro below, remember to include
//**         the continuation character "X" in column 72 for all
//**         lines except the last line containing the DUMMY=
//**         parameter.
/*
//*.+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7.X
//SYSIN     DD *
*
      PRINT NOGEN
      GSVIINST
      ,
      *-----* X
      , * Installation data set name          * X
      , * This is the data set name that you are   * X
      , * editing now.                         * X
      , *-----* X
      INSTLIB=sysview.SAMPJCL,                 <--- X
      , *-----* X
      , * System parmlib data set            * X
      , *-----* X
      , *-----* X
      SYSPLIB=SYS1.PARMLIB,                  <--- X
      , *-----* X
      , * Source installation Media        * X
      , * ESD - ESD file on DASD          * X
      , * TAPE - Physical cartridge       * X
      , *-----* X
      SOURCE=ESD,                           ESD | TAPE <--- X
      TAPEVOL=SYD500,                      X
      TAPUNIT=3480,                        <--- X
      , *-----* X
      , * High-level qualifier used when the ESD file  * X
      , * was UNZIPPED.                   * X
      , *-----* X
      ESDHLQ=yourHLQ,                     ESD HLQ <--- X
      , *-----* X
      , * Data set allocation            * X
      , *-----* X
      PREFIX=sysview,                    <--- X
      DELETE=YES,                         X
      DASDVOL=volume,                   <--- X
      SMS=NO,                            X
      SMSVOL=,                          X
      STORCLAS=,                        X
      DSKUNIT=SYSDA,                    X
      WRKUNIT=SYSDA,                    X
      PROFTYPE=PDS,                     X

```

```
, *-----* X
, * Data set blocksizes * X
, *-----* X
BLKSZU=6144, X
BLKSZFB=3200, X
BLKSZVB=25600, X
, *-----* X
, * z/FS data set allocation * X
, *-----* X
ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW, <--- X
PATHPREFIX=, X
, *-----* X
, * SMP/E * X
, *-----* X
SMPEHLQ=, X
SMPETZ=CAIT, X
SMPEHLQ= X
SMPEDZ=CAID, X
SMPEVOL=volume, <--- X
DLIBVOL=volume, <--- X
SMPEUNIT=SYSDA, X
DLIBUNIT=SYSDA, X
, *-----* X
, * Data set and high level qualifiers * X
, *-----* X
AUTHLIB=apf.auth.dataset.name, <--- X
CEEHLQ=CEE, <--- X
IMSHLQ=ims, <--- X
MQSHLQ=mqseries, <--- X
SYSTCPD=TCPIP.TCPIP.DATA, <--- X
TCPMBR=, X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Options * X
, *-----* X
OPTIONS=(, Begin option list X
NOCAPTURE, ...option X
NOCICS, ...option X
NODATACOM, ...option X
NOIMS, ...option X
NOMVS, ...option X
NOMQSERIES, ...option X
NOTCPIP, ...option X
NOWILYAPM, ...option X
), End option list X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Components * X
, *-----* X
COMPONENTS=(, Begin component list X
DB2, ...component X
```

```

HCHECK,          ...component      X
MIM,            ...component      X
ROSCOE,         ...component      X
USS,            ...component      X
XSYSTEM,        ...component      X
),
) ,             End component list X
, *-----* X
, *   CA SYSVIEW GEN parameters * X
, *-----* X
SVC=238,        <--- X
SUBSYS=GSVX,
, *-----* X
, * The CA customer siteid.     * X
, * The siteid will be used to assist technical * X
, * support with diagnostics. This is used when * X
, * FTPing information to CA. (optional)    * X
, *-----* X
SITEID=siteid,  <--- X
, *-----* X
, * Jobcard/JCL creation       * X
, *-----* X
JOBNAME=,        X
NAME='PROGRAMMER NAME',        <--- X
ACCT=(000000000),              X
NOTIFY=NO,          X
CLASS=A,            X
MSGCLASS=A,         X
MSGLEVEL=(1,1),       X
ROUTE=NO,           X
SYSAFF=NO,          X
OUTC=*,            X
, *-----* X
, * Assemble and Link edit    * X
, *-----* X
ASMPGM=ASMA90,       X
LINKPGM=IEWL,        X
, *-----* X
, * End of Macro              * X
, *-----* X
DUMMY=DUMMY

*
*   Do not remove the following line.
*
END
/*

```

以下の GSVIINST パラメータが変更可能です。

INSTLIB

現在のインストールライブラリ データセット名を指定します。「INSTALL ジョブの変更および実行」の手順で設定した SYSLIB ステートメントで使用されているものと同一の高レベル修飾子を使用するようにしてください。

デフォルト: *sysview.SAMPJCL*

SYSPLIB

システム環境設定オプション メンバが含まれるシステム パラメータライブラリを指定します。

デフォルト: SYS1.PARMLIB

SOURCE=*source*

ソース インストール メディアのタイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

- ESD - 電子ソフトウェア配布 DASD ファイルを指定します。MSM を使用してインストールしている場合は、SOURCE=ESD を使用します。
- TAPE - 標準インストール カートリッジを指定します。

TAPEVOL

テープに割り当てられたボリュームシリアル番号 (volser) を指定します。TAPEVOL については、テープラベルに記載された volser を指定してください。

注: SOURCE=ESD が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

TAPUNIT

テープユニット タイプを指定します。

デフォルト: TAPUNIT=3480

注: SOURCE=ESD が指定されている場合、このパラメータは無視されます。

ESDHLPQ=*yourHLQ*

このパラメータは、SOURCE=ESD が指定されている場合にのみ使用され、また指定する必要があります。

ESD ファイルを z/OS データセットに解凍する際に使用する高レベル修飾子を指定します。UNZIPJCL はこのジョブを実行します。

UNZIPJCL ジョブはこの高レベル修飾子を *yourHLQ* として参照します。
ESDHLPQ= 値に同じ値を使用します。

PREFIX

データセットを割り当てる際に使用するプレフィックスを指定します。

制限: PREFIX および SUFFIX の全体の長さは、20 文字以内である必要があります。

デフォルト: PREFIX=sysview

DELETE

割り当ての前に、個々の新規ライブラリに対して DELETE リクエストを生成するかどうかを示すために使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。ライブラリの既存のセットに再インストールする場合は、DELETE=NO を指定します。

デフォルト: DELETE=YES

DASDVOL

データセットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号(volser)を指定します。

SMS

データセットの割り当てに SMS が使用されるかどうかを定義するのに使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。YES を指定した場合は、STORCLAS パラメータで SMS ストレージクラスを指定します。

デフォルト: SMS=NO

SMSVOL

SMS データセットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号(volser)を指定します。

注: 一部のサイトでは、SMS に volser を指定することを許可していません。

STORCLAS

SMS パラメータで YES を指定している場合に使用する SMS ストレージクラスを指定します。

DSKUNIT

ディスクユニットタイプを指定します。

デフォルト: DSKUNIT=SYSDA

WRKUNIT

ディスクワークユニットタイプを指定します。

デフォルト: WRKUNIT=SYSDA

PROFTYPE

割り当てるプロファイル データ セットタイプを指定します。

有効な値は以下のとおりです。

PDS

PDS プロファイル データ セットを割り当てます。1 つの PDS は複数のシスプレックスで共有されます。

LIBRARY

PDSE プロファイル データ セットを割り当てます。このデータ セットは、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。使用している構成に複数のシスプレックスが含まれている場合は、各シスプレックスに一意のデータ セットが割り当てられている必要があります。

デフォルト: PDS

BLKSZU

レコード長が未定義のデータ セットを割り当てる際に、ブロック サイズを指定します。このパラメータを使用してロードライブラリ データ セットを割り当てます。

デフォルト: BLKSZU=6144

BLKSZFB

固定ブロック データ セットを割り当てる際に、ブロック サイズを指定します。

デフォルト: BLKSZFB=3200

BLKSZVB

可変ブロック データ セットを割り当てる際に、ブロック サイズを指定します。

デフォルト: BLKSZVB=25600

ZFSHLQ

インストール処理中に作成される以下の 2 つの z/FS データ セットに高レベル修飾子を指定します。

- zfshlq.ZFS
- zfshlq.*fmid*.ZFS

fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

デフォルト: ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW

PATHPREFIX

z/FS データ セットのマウント ポイント用のパス名プレフィックスを指定します。

デフォルト: PATHPREFIX=,

例

PATHPREFIX=/instpath

以下のマウント ポイントになります。

```
instpath/usr/lpp/sysview  
instpath/usr/lpp/sysview/fmid  
fmid
```

CA SYSVIEW SMP/E fmID を含みます。

SMPEHLQ

SMP/E ライブラリの HLQ を指定します。SMP/E HLQ に対して値を指定すると、追加サンプル ジョブ (INST0005) が生成されます。このジョブは PREFIX で指定されている HLQ を使用して、ランタイム ライブラリ セットを作成します。

SMPETZ

SMP/E ターゲット ゾーンを指定します。

デフォルト: SMPETZ=CAIT

SMPEDZ

SMP/E 配布ゾーンを指定します。

デフォルト: SMPEDZ=CAID

SMPEVOL

内部 SMP/E およびターゲット データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

DLIBVOL

SMP/E 配布データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

SMPEUNIT

SMPEVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

DLIBUNIT

DLIBVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

AUTHLIB

動的インストール プログラムのコピー先となる、APF 許可された既存のライブラリのデータ セット名を指定します。この動的インストール プログラムは、実行時に以下のタスクを実行します。

- ロードライブラリを動的に APF 許可します。
- スーパーバイザ コール (SVC) をインストールします。
- サブシステムを追加します。

CEEHLQ

ユーザ サイトの C 言語環境高レベル修飾子を指定します。

IMSHLQ

ユーザ サイトの IMS 高レベル修飾子を指定します。IMS の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータ セット用に DD ステートメントを生成するために使用されます。

```
DD DSN=imshlq.SDFSRSL
```

MQSHLQ

ユーザ サイトの WebSphere MQ 高レベル修飾子を指定します。WebSphere MQ の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータ セット用に DD ステートメントを生成するために使用されます。

```
DD DSN=mqshlq.SCSQAUTH  
DD DSN=mqshlq.SCSQLOAD  
DD DSN=mqshlq.SCSQANLE
```

SYSTCPD

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。このパラメータは、Hierarchical File System (HFS) パスとして指定することもできます。

デフォルト: TCPIP.TCPIP.DATA

TCPMBR

TCP/IP データ セットがある場合、そのメンバ名を指定します。

注: このパラメータが必要なのは、SYSTCPD パラメータで指定されたデータ セットが PDS である場合のみです。

デフォルト: なし

OPTIONS

お客様にライセンスされているオプションを有効にするように指定します。このオプションにはベース製品が含まれています。オプション値を指定すると、オプションコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからオプションコマンドにアクセスできます。

注: 1つ以上のオプションを指定します。

このパラメータの値には以下のようなものがあります。

- CAPTURE|NOCAPTURE - Event Capture Option
- CICS|NOCICS - CA SYSVIEW Option for CICS
- DATACOM|NODATACOM - CA SYSVIEW CA Datacom Option
- IMS|NOIMS - CA SYSVIEW Option for IMS
- MVS|NOMVS - CA SYSVIEW Option for z/OS
- MQSERIES|NOMQSERIES - CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ
- TCPIP|NOTCPIP - CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- WILYAPM|NOWILYAPM - CA SYSVIEW for CA APM

COMPONENTS

有効にする CA SYSVIEW コンポーネントを指定します。コンポーネント値を指定すると、コンポーネントコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからコンポーネントコマンドにアクセスできます。

注: DB2 は新しいコンポーネントで、CA Insight for DB2 のライセンス (LMP キー)が必要です。

このパラメータには以下の値が含まれます。

- DB2|NODB2 - CA Insight for DB2
- HCHECK|NOHCHECK - IBM Health Checker
- MIM|NOMIM - CA MIM Resource Sharing for z/OS
- ROSCOE|NOROSCOE - CA Roscoe
- USS|NOUSS - UNIX System Services
- XSYSTEM|NOXSYSTEM - クロスシステムコンポーネント

注: CA SYSVIEW のインストールの完了後に、これらのコンポーネントおよびオプションの一部に関して、追加のインストールまたはカスタマイズ作業を実行します。

SVC

CA SYSVIEW で使用するスーパーバイザー コール(SVC)番号を指定します。タイプ 3 のユーザ SVC が必要です。

デフォルト: 238

SUBSYS

システム パラメータライブラリで System Configuration Options メンバ名に対してサフィックスを指定します。別の製品にすでに使用されていない場合は、GSVX を使用してください。同じサブシステムは、CA SYSVIEW の複数のリースを共有できます。

デフォルト: SUBSYS=GSVX

SITEID=*siteid*

テクニカル サポートに問い合わせる際に使用する CA カスタマ サイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

JOBNAME

インストール ジョブ用の JOB ステートメントを作成する際に使用するジョブ名を指定します。パラメータが指定されていない場合、インストール メンバの名前が使用されます。

NAME

JOB ステートメントで指定されるプログラマ名を指定します。

ACCT

JOB ステートメントを作成する必要がある場合、アカウント番号を指定します。

デフォルト: ACCT=(00000000)

NOTIFY

ジョブ完了時に通知されるユーザ ID を指定します。NO が指定された場合、JOB ステートメントでこのパラメータは生成されません。

デフォルト: NOTIFY=NO

CLASS

JOB ステートメントで使用するジョブ クラスを指定します。

デフォルト: CLASS=A

MSGCLASS

JOB ステートメントで使用するメッセージクラスを指定します。

デフォルト: MSGCLASS=A

MSGLEVEL

JOB ステートメントで使用するメッセージレベルを指定します。

デフォルト: MSGLEVEL=(1,1)

ROUTE

次のルートステートメントを生成します: /*ROUTE PRINT userid。NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト: ROUTE=NO

SYSAFF

次のような、システムとの関連付けを行うステートメントを生成します:

/*JOBPARM SYSAFF=*sysname*。NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト: SYSAFF=NO

OUTC

SYSOUT で使用する出力クラスを指定します。

デフォルト: OUTC=*

ASMPGM

モジュールのアセンブルに使用されるプログラムの名前を指定します。設定可能な値は IEV90 または ASMA90 です。

デフォルト: ASMPGM=ASMA90

LINKPGM

モジュールのリンクエディットに使用されるプログラムの名前を指定します。

デフォルト: LINKPGM=IEWL

詳細:

[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)

INSTALL による出力

インストール中に、ジョブ INST0110 は、選択したメンバを INSTLIB から `sysview.CNM4BSAM` にコピーします。コピーされたメンバは、SAMPLIB カラムにメンバ名で表示されます。

以下のテーブルは、インストール中に作成されるメンバを示しています。

| ジョブ/プロシージャ | SAMPLIB | 目的 |
|------------|-----------|--|
| INST0005 | なし | SMPEHLQ がコーディングされる際に、ランタイムライブラリセットを作成します。 |
| INST0010 | なし | システム情報ユーティリティ、GSVCUTIL を指定します。 |
| INST0011 | GSVXGSVX | System Configuration Options メンバをシステム PARMLIB へコピーします。 |
| INST0013 | MVSMAPS | MVS DSECT マップをアセンブルします。 |
| INST0020 | ASMJES | JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクします。 |
| INST0021 | JESMAPS | JES DSECT マップをアセンブルします。 |
| INST0030 | CAPINDEX | Event Capture 索引データセットを初期化します。 |
| INST0031 | なし | CA GSS IMOD ライブラリを定義します。 |
| INST0032 | なし | IMOD ソースモジュールを CA GSS IMOD ライブラリにロードし、コンパイルします。 |
| INST0040 | LOGRADTT | ログストリーム Audit を割り当てます。 |
| INST0041 | LOGR PLOT | ログストリーム Plot を割り当てます。 |
| INST0042 | LOGRXLOG | ログストリーム Xlog を割り当てます。 |
| INST0043 | LOGRSMFD | ログストリーム SMFD を割り当てます。 |
| INST0044 | LOGRCICS | ログストリーム CICS を割り当てます。 |
| INST0045 | LOGRIMTR | ログストリーム IMS を割り当てます。 |
| INST0046 | LOGRMQHR | ログストリーム MQ を割り当てます。 |
| INST0050 | CNVTSECU | セキュリティデータセットを変換します。 |
| INST0051 | CNVTPROF | プロファイルデータセットを変換します。 |
| INST0060 | CSDUTIL | CICS CSD オブジェクトを定義します。 |

| ジョブ/プロシージャ | SAMPLIB | 目的 |
|------------|----------|--|
| INST0061 | なし | CICS オブジェクトメンバをリンク エディットして、CICS 内部トレーステーブル エントリをフォーマットするロード モジュールを作成します。 |
| INST0100 | DYNMINST | SVC、サブシステム、および APF ロードライブラリを動的にインストールします。 |
| INST0110 | なし | 後で使用するために、サンプル メンバを特定のライブラリへコピーします |
| USRM0001 | なし | デフォルトのサブシステム ID (SSID) をアセンブルリンクする USERMOD。 |
| IVPnnnnn | なし | インストールを検証します。 注: このインストール検証プログラムが実行可能なのは、インストールが完了し、CA SYSVIEW が開始したときです。 |
| ASMCMDX | ASMCMDX | コマンド EXIT をアセンブルします。 |
| ASMSDSFX | ASMSDSFX | SDSF コマンド EXIT をアセンブルします。 |
| CICSJCL | CICSJCL | サンプル CICS JCL ステートメントを示します。 |
| CICSMAPS | CICSMAPS | CICS DSECT マップをアセンブルします。 |
| EXPRPT | EXPRPT | EXPLORE Report Writer 用のサンプル ジョブ。 |
| FTPCA | FTPCA | CA サポートへデータ セットを FTP 送信するサンプル JCL。 |
| IMODLOAD | IMODLOAD | IMODS を CA SYSVIEW IMOD ライブラリにコピーしコンパイルするユーティリティ ジョブ。 |
| IMSMAPS | IMSMAPS | IMS DSECT マップをアセンブルします。 |
| MIBCOMP | MIBCOMP | MIB コンパイラを示します。 |
| SYSVIEW | SYSVIEW | CA SYSVIEW メイン サービス スタートアップ手順を示します。 |
| SYSLVCL | SYSLVCL | CA SYSVIEW ローカル 3270 インターフェース 起動手順を示します。 |
| SYSVUSER | SYSVUSER | CA SYSVIEW ユーザ アドレス空間の起動手順を示します。 |
| SYSVAUX | SYSVAUX | CA SYSVIEW 補助サービスの起動手順を示します。 |

| ジョブ/プロシージャ | SAMPLIB | 目的 |
|------------|----------|------------------------------------|
| EZREPORT | EZREPORT | サンプル CA Easytrieve レポート JCL を示します。 |
| SMPPTF | なし | 個別のテスト APAR および発行済み PTF を適用します。 |

ランタイム ライブラリの作成(INST0005)

このオプションの手順によって、ユーザの環境用のランタイム ライブラリ セットが作成されます。

以下の手順に従います。

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。
ランタイム ライブラリ セットを作成するために、このサンプル JCL メンバ INST0005 が生成されます。
2. システム環境設定オプションメンバでコーディングされている SMP/E ターゲットライブラリをコピーします。
ランタイム ライブラリが作成されます。

注: SMPEHLQ の値を削除すると、INST0005 JCL は生成されません。または SMPEHLQ の値が PREFIX と同じになります。

システム情報ユーティリティ GSVCUTIL の実行(INST0010)

システム情報ユーティリティ GSVCUTIL は、インストール時のユーザのシステム情報を表示するレポートを提供します。このユーティリティの実行後、その情報を使用してユーザの GSVIINST パラメータ値を確認します。

以下の手順に従います。

1. データセット `sysview.SAMPJCL` 内の `INST0010` メンバを見直して、ジョブで参照されているファイルが正しいことを確認します。
2. `INST0010` メンバをサブミットします。

このジョブが条件コード 0 で終了すると、以下の情報が記載されたレポートを受信します。

- z/OS システム
- サブシステム
- スーパーバイザ コール(SVC)テーブル
- APF(許可プログラム機能)リスト
- SYSVIEW LMP キー

3. パラメータ値を確認します。
 - a. レポートの情報を調べます。
 - b. レポートに表示されたパラメータ値を、`INSTALL` ジョブを変更および実行するために入力した値と比較します。
 - c. 情報が正しくない場合は、パラメータ値を変更します。

情報が正しい場合は、インストールを続行できます。

システム PARMLIB へのシステム環境設定オプションのコピー(INST0011)

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に環境設定オプションを設定するために使用されます。

以下の手順に従います。

1. *sysview.CNM4BSAM* データ セット内の INST0011 メンバを確認します。

CNM4BSAM SMP/E ターゲットライブラリにはサンプル GSVXGSVX メンバが含まれています。

2. INST0011 メンバをサブミットします。

- INST0011 は、システム環境設定オプションメンバを INSTALL ジョブで定義されているシステム PARMLIB にコピーします。
- メンバ名は、INSTALL で指定された SUBSYS に基づいていて、以下の形式になります。

GSVX<*subsys*>

subsys

システム環境設定オプションメンバ名。*subsys* のデフォルト値は GSVX です。そのため、デフォルトのシステム環境設定オプションメンバ名は GSVXGSVX です。

- INSTALL ジョブは、INSTALL の SUBSYS サフィックスを使用して、SAMPJCL 内にシステム環境設定オプション メンバを生成します。INST0011 はこのメンバをシステム PARMLIB にコピーします。

システム環境設定オプション

システム環境設定オプションは、CA SYSVIEW の初期化中に設定されます。大文字と小文字は区別されません。ジョブ INST0011 を実行する前に、以下のオプションを確認します。

Administrator-Userid

少なくとも 1 つの管理者を定義するために、このオプションを使用します。このオプションを複数回をコーディングして、追加の管理者を指定できます。

注: また、CA SYSVIEW SECURITY コマンドを使用して、追加の管理者を定義することもできます。

有効な値: 任意の有効なユーザ ID。

デフォルト: なし

CA-Customer-SiteID

テクニカル サポートに問い合わせる際に使用する CA カスタマ サイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

有効な値: 7 衔の数値

デフォルト: 0000000

Company-Name

このインストールに関連付けられる会社名を指定します。この会社名は Event Captures に含まれています。

有効な値: 32 文字の文字列。名前に埋め込みブランクが含まれる場合は、一重引用符で名前を囲みます。

デフォルト: ''

Component-DB2

コンポーネント CA SYSVIEW for CA Insight DPM for DB2 をアクティブにするかどうかを指定します。この DB2 コンポーネントには、製品 CA Insight DPM for DB2 が必要です。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Component-Health-Check

CA SYSVIEW Health Check をアクティブにするかどうかを指定します。この Health Check コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Component-MIM

コンポーネント CA SYSVIEW for CA MIM Resource Sharing for z/OS をアクティブにするかどうかを指定します。この CA MIM コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Component-ROSCOE

コンポーネント CA SYSVIEW for CA Roscoe をアクティブにするかどうかを指定します。この CA Roscoe コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Component-USS

CA SYSVIEW for UNIX System Services (USS) をアクティブにするかどうかを指定します。この USS コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Component-XSYSTEM

CA SYSVIEW Cross-System コンポーネントをアクティブにするかどうかを指定します。このクロスシステムコンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Dsn-System-CAPINDEX

Event Capture 索引データセットの名前を指定します。CA SYSVIEW の各インスタンスに一意のデータセットを作成します。

シンボリック置換変数を使用すると、定義がより簡単になります。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

例:

SYSVIEW.CAPINDEX.PROD

SYSVIEW.CAPINDEX.TEST
SYSVIEW.CAPINDEX.&SYSNAME

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CAPINDEX.SYSNAME

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できません。

Dsn-System-CAPINDEX-HLQ

Event Capture 索引データセットの高レベル修飾子 (HLQ) を指定します。CA SYSVIEW オンラインコマンドは、この HLQ を使用して複数の Event Capture 索引データセットを参照します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

例: SYSVIEW.CAPINDEX

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CAPINDEX

Dsn-System-CAPDATA-HLQ

Event Capture ライブラリデータセットの高レベル修飾子 (HLQ) を指定します。キャプチャの取得時に、CA SYSVIEW は HLQ を使用して新しいデータセットを割り当てます。完全なデータセット名を作成するために、時刻と日付のサフィックスが HLQ に追加されます。

時刻と日付のサフィックス =Thhmmss.Dyymmdd

有効な値: 任意の有効なデータセット名。HLQ を 28 文字に制限して、時間と日付をサフィックスとして追加できるようにします。

例: SYSVIEW.CAPDATA

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CAPDATA

Dsn-System-CAPLIB

Event Capture ライブラリのデータセット名を指定します。Event Capture ライブラリのメンバは、Event Capture 発生時に処理する手順のリストを定義します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BCAP

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットへのアクセス権がありますが、すべてのユーザにこの権限が必要ということではありません。SYSVIEW ユーザインターフェースアドレス空間に割り当てられているユーザ ID には、データセットへのアクセス権限が必要です。

Dsn-System-CLISTLIB

コマンドリストライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BCLS

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-DATALIB

永続データストアまたはデータライブラリのデータセット名を指定します。

CA SYSVIEW リリースをマイグレートまたは更新する際に、このデータセットを再利用できます。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BDAT

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。このデータセットは PDSE として割り当てられ、そのため、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにこのデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。SYSVIEW メイン サービス アドレス空間に割り当てられているユーザ ID には、データセットへの更新アクセス権限が必要です。

Dsn-System-HELPLIB

オンラインヘルプライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BHLP

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-MIBLIB

MIB ライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BMIB

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PANELLIB

パネルライブラリのデータセット名を指定します。パネルライブラリには、オンライン CA SYSVIEW 表示用の MENU 定義が含まれています。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPNL

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PARMLIB

パラメータライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPRM

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PLOTLIB

プロット定義ライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPLT

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PROFILE

プロファイルライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータセット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPRF

共有: このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。プロファイル データセットが PDS として割り当てられる場合、そのデータセットは複数のシスプレックス間で共有できます。プロファイル データセットが PDSE として割り当てられる場合、そのデータセットは単一のシスプレックス内でのみ共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。ユーザはオンラインセッション中に、プロファイル設定を変更できます。ユーザは、ユーザ設定をハードニングするためにデータセットへの更新アクセス権限が必要です。

Dsn-System-REXXLIB

REXX EXEC ライブラリのデータセット名を指定します。このデータセットには、CA SYSVIEW が使用するテキストおよびコンパイル済みの REXX EXEC が含まれています。

このライブラリは、ユーザが TSO/ISPF インターフェースへログインする際に、SYSEXEC DD に動的に連結されます。

ライブラリは RECFM=F データセットとしてインストールされます。インストールに SYSEXEC DD 用の RECFM=V を使用する場合は、RECFM=V データセットに SYSVIEW REXX ライブラリをコピーし変換します。

コンパイルされた REXX EXEC は、RECFM=F データセットから RECFM=V データセットに単純にコピーできません。これらの EXEC も変換が必要です。

CA SYSVIEW によって提供される 2 つの REXX ユーティリティ EXEC を使用して、SYSVIEW REXX EXEC をコピーおよび変換します。

- **GSVUCFV1 - ISPF ライブラリ管理サービス**を使用して、1 つ以上の REXX EXEC を RECFM=F データセットから RECFM=V データセットにコピーします。この EXEC は、GSVUCFV2 EXEC を呼び出して、コピーされたコンパイル済みの REXX EXEC を変換することもできます。
- **GSVUCFV2 - ISPF ライブラリ管理サービス**を使用して、単一のコンパイル済み REXX EXEC を RECFM=F データセットから RECFM=V データセットに変換します。

CA SYSVIEW によって SAMPLIB データセット内で REXXFTOV ジョブが提供され、REXX EXEC がコピーおよび変換されます。REXXFTOV SAMPLIB JCL メンバー:

1. GSVUCFV1 を呼び出して、RECFM=F データセットから RECFM=V データセットに REXX EXEC をすべてコピーします。

2. GSVUCFV2 を呼び出して、コピーされたコンパイル済みの REXX EXEC を変換します。

Dsn-System-REXXLIB= RECFM モジュール パラメータでは、変換された RECFM=V データ セットのデータ セット名を指定する必要があります。

有効な値: 任意の有効なデータ セット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BREX

共有: このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-SAMPLIB

サンプルライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータ セット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BSAM

共有: このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータ セットへのアクセス権がありますが、すべてのユーザにこの権限が必要ということではありません。

Dsn-System-SECURITY

セキュリティライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータ セット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BSEC

共有: このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。管理者には更新アクセス権限が必要です。

Dsn-System-TEMPLATE

テンプレートライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値: 任意の有効なデータ セット名

デフォルト: NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BTMP

共有: このデータ セットは SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ: すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dump-Destination

CA SYSVIEW がダンプデータセットを割り当てる際に使用する出力先を指定します。ダンプデータセットを割り当てる際に値を指定します。そうしないと、送信先は使用されません。ダンプを特定のユーザへ送るために、パラメータ Dump-Remote-Userid でこのパラメータオプションを使用します。

有効な値: 任意の有効な送信先。

デフォルト: なし

Dump-Remote-Userid

CA SYSVIEW がダンプデータセットを割り当てる際に使用するリモートユーザ ID を指定します。ダンプデータセットを割り当てる際に値を指定します。そうしないと、リモートユーザ ID は使用されません。パラメータ Dump-Destination に対して値が指定されなかった場合も、このパラメータに対して指定された値はすべて無視されます。

有効な値: 任意の有効なユーザ ID。

デフォルト: なし

Dump-SYSOUT-Class

CA SYSVIEW がダンプデータセットを割り当てる際に使用する SYSOUT クラスを指定します。ダンプデータセットを割り当てる際に、ユーザ ID が使用されます。

有効な値: 任意の有効なクラス。

デフォルト: A

Exit-Module-Command

コマンド EXIT モジュール名を指定します

有効な値: 任意の有効なメンバ名。

デフォルト: GSVXCMDX

Exit-Module-SDSF

SDSF コマンド EXIT モジュール名を指定します。

有効な値: 任意の有効なメンバ名。

デフォルト: GSVXSDSX

JES-Name

(オプション) デフォルトの JES サブシステム名を指定します。このオプションのパラメータが指定されない場合、プライマリ JES サブシステムが使用されます。セカンダリ JES2 サブシステムで CA SYSVIEW を使用するには、このパラメータにセカンダリ JES2 サブシステムのサブシステム名を指定する必要があります。

有効な値: 任意の有効な JES サブシステム名。

デフォルト: なし

Map-Member-System

アセンブルされた z/OS 制御ブロック マップ メンバの名前を定義します。

有効な値: マップ ライブラリにある任意の有効なメンバ名。

デフォルト: GSVXMAPS

Option-CICS

CA SYSVIEW for CICS をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-DATACOM

CA SYSVIEW for DATACOM をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-Event-Capture

CA SYSVIEW Event Capture をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-MVS

CA SYSVIEW for MVS をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-IMS

CA SYSVIEW for IMS をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-TCPIP

CA SYSVIEW for TCP/IP をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-WebSphereMQ

CA SYSVIEW for WebSphere MQ をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Option-WilyAPM

CA SYSVIEW for CA APM をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値: Yes または No

デフォルト: No

Route-Code

CA SYSVIEW が発行する可能性のあるすべての WTO および WTOR マクロで使用するコンソール ルートコードを指定します。このルートコードは 10 進数として指定されます。複数のルートコードが必要な場合、パラメータ Route-Code は複数回指定できます。各指定に 1 つのルートコードが含まれます。

例:

Route-Code 2

Route-Code 11

有効な値: 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16

デフォルト: 2、11

Security-Validation

セキュリティ確認および検証の実行方法を指定します。

有効な値:

- USER - インターフェース CICS、VTAM およびローカル 3270 へのセッションログオン時のユーザ ID およびパスワードを検証するために使用する System Authorization Facility (SAF) を指定します。TSO、ISPF および CA Roscoe など他のインターフェースについては、ユーザ ID のみが検証されます。

- GROUP - 使用する内部 SYSVIEW セキュリティグループを決定するために使用する、外部セキュリティ製品のユーザ ID に割り当てられるグループ名を指定します。この GROUP オプションには USER オプション機能がすべて含まれます。
- NO - CICS、VTAM またはローカル 3270 インターフェースへのログオン時に、ユーザ ID 検証が実行されないことを指定します。

デフォルト: USER

SVC-Number

CA SYSVIEW が使用するスーパーバイザコール (SVC) 番号を指定します。

有効な値: 200 ~ 255

デフォルト: なし

SYSOUT-Class

動的に割り当てられたファイル用のデフォルト SYSOUT クラスを指定します。

有効な値: 任意の有効なクラス

デフォルト: '*'

TCP-SYSTCPD-Dsn

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。この名前は、HFS(階層ファイルシステム)パスとして指定できます。

有効な値: 任意の有効なデータセットまたはパス名

デフォルト: VTAM.TCPIP.TCPIP.DATA

TCP-SYSTCPD-Member

TCP/IP データセットから使用するメンバ名(ある場合)を指定します。このパラメータは、TCP-SYSTCPD-Dsn パラメータの中で指定されたデータセットが PDS である場合のみ必要です。

このメンバパラメータは、システムシンボルの使用をサポートします。

TCP-SYSTCPD-Member パラメータで指定できる文字列の最大長は 24 バイトです。文字列の 24 バイトを超える部分は切り捨てられます。文字列内のシンボルが解決される場合、最終的なメンバ名は TCP-SYSTCPD-Member 値の最初の 8 バイトで構成されます。文字列の 8 バイトを超える部分は切り捨てられ、無視されます。

有効な値: 任意の有効なメンバ名。

デフォルト: なし

User-Abend-Code

発行されたすべてのユーザ異常終了に使用する ABEND コードを指定します。ABEND の理由を識別するために、一意の理由コードが使用されます。

有効な値: 0 から 4095 までの数

デフォルト: 2999

VTAM-Applid

CA SYSVIEW VTAM インターフェースが使用する VTAM APPL 名を指定します。

<producgname> VTAM インターフェースを開始する START コマンドの APPLID パラメータでこのパラメータをオーバーライドします。

有効な値: 任意の有効なアプリケーション ID 名。

デフォルト: なし

VTAM-SPO-Applid

CA SYSVIEW VTAM コマンドで使用されるデフォルトの VTAM APPL 名をオーバーライドする値を指定します。指定する値は 3 文字から 8 文字の長さで、末尾が 2 衔の数値である必要があります。

このパラメータの値を指定する場合は、*sysview.CNM4BSAM* データセット内の SYSVAPPL メンバで、対応する APPL 名を変更します。

SYSVAPPL メンバ内で指定された最初の名前は、VTAM-SPO-Applid パラメータ値と一致します。末尾の数値を 1 づつ増分することにより、追加の APPL 名を指定できます。末尾の数値は 00 からスタートする必要はありませんが、使用されるのは開始値と連続している数値のみです。

有効な値: 2 衔の数値で終了する、3 から 8 文字。

デフォルト: なし

MVS 制御ブロック マップのアセンブル(INST0013)

CA SYSVIEW の MAP コマンドを使用すると、仮想ストレージ内のあらゆるシステムまたはユーザ定義の制御ブロックを表示することができます。DSECT または制御ブロック構造が、使用しているソフトウェアリリースのもので作成されるように、制御ブロック マップをアセンブルしてください。

制御ブロック マップのアセンブル方法

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0013 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0013 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、制御ブロック マップは正常にアセンブルされています。

制御ブロック マップをアセンブルする際の保守に関する考慮事項

システムに保守を適用する場合、以下を考慮してください。

- z/OS への保守の適用後、GSVXMAPS オブジェクトを再アセンブルする必要があります。
- 以下が当てはまる場合は、SYSLIB 連結に SYS1.SMPMTS データ セットを含めます。
 - 受理されないシステムに適用される保守がある。
 - 現在のシステムが保守で実行中である。

JES 構成名テーブルの更新

JES parmlib メンバは、関連する JES 設定モジュールおよびマップ モジュール名と同様に、CA SYSVIEW によって使用される JES サブシステムを指定するために使用されます。

CA SYSVIEW が使用される各システムの JES 設定モジュールを作成します。

JES 構成名テーブルの更新方法

1. sysview.CNM4BPRM データセット内の JES parmlib メンバにアクセスします。
JES parmlib メンバには JES 構成名テーブルが含まれます。
2. 提供されたテーブルに適切な情報を入力して JES parmlib メンバ内の JES 構成名テーブルを変更します。

各カラムに指定されたテーブル エントリを以下の表に示します。

| キーワード | カラム | 説明 |
|---------|-------|---|
| SysName | 01-08 | z/OS システム名を定義します。任意のシステム名と一致するようにするには、キーワード「ANY」を指定します。 |
| JES | 10-17 | JES サブシステム ID を定義します。 |
| Module | 19-26 | サブシステム用の JES 構成モジュール名を定義します。 |
| Maps | 28-35 | JES 制御ブロック マップ メンバを定義します。 |

JES 構成名テーブルの仕組み

CA SYSVIEW はセッションの初期化時に、JES parmlib メンバを検索し、*SysName* カラムに一致する OS システム名を検出します。JES サブシステムへの一致を検出することで、JES 関連のコマンドへのアクセスが可能になります。

マッピングは以下のように行われます。

- GEN モジュール中で指定された JESNAME パラメータの値が、JES カラムで指定された JES サブシステム ID と比較されます。
 - 一致する場合、以下が行われます。
 1. Module カラムで指定された JES 構成モジュールがロードされます。
 2. その後、JES 構成モジュールにアセンブルされた JES 製品レベルおよびサービスレベルが、JES サブシステムの製品レベルおよびサービスレベルと比較されます。
 - 一致する場合、検索が完了します。
 - 一致しない場合、*SysName* カラムの別の一致するシステム名を探して検索が続行されます。
 - JES parmlib メンバ全体を検索して、JES 製品レベルは一致するが、サービスレベルが一致しない場合。
 - 一致する JES 構成モジュールが使用され、サービスレベルが一致しないという警告メッセージが表示されます。
 - 保守が適用されています。
 - JES 構成モジュールを再アセンブルする必要があります。
 - 一致する JES 構成モジュールが見つからない場合。
 - JES サービスの初期化が終了します。
 - JES 関連コマンドは使用できません。
 - 任意のシステム名に一致する任意のシステム名を使用できますが、JES 構成モジュールの製品レベルおよびサービスレベルは、実行中の JES サブシステムと一致する必要があります。
 - JES parmlib メンバのいずれのカラムでも、一般的なワイルドカードによるマッピングは実行されません。

JES 構成モジュールの命名規則

以下に、JES バージョンまたは z/OS SMF ID のいずれかに基づいた、推奨される命名規則を示します。

■ JES バージョンに基づいたモジュールとマップの命名

モジュール名: **JESnvrrq**

マップ: **MAPnvrrq**

n

JES システムを指定します。設定可能な値:

■ JES2 の場合 2

■ JES3 の場合 3

v

JES バージョンを指定します。

rr

JES リリースを指定します。

q

必要に応じて修飾子を指定します。

■ z/OS SMF ID に基づいたモジュールとマップの命名

モジュール: **JESnsmf**

マップ: **MAPnsmf**

n

JES システムを指定します。設定可能な値:

■ JES2 の場合 2

■ JES3 の場合 3

smf

z/OS の SMF ID (最大 4 文字) を指定します。

例: JES 構成名テーブルへのエントリの追加

次の例では JES バージョンでの命名規則を使用しています。

```
*....+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7
*=====
* System name SY01 is running JES2. *
* The associated JES Configuration module is JES2111. *
* The DSECT maps for JES2 have been assembled into member MAP2111. *
*=====

*SysName JES      Module   Maps
*----- -----
SY01    JES2      JES2111  MAP2111

*=====
* System name SY02 is running JES3. *
* The associated JES Configuration module is JES3111. *
* The DSECT maps for JES3 have been assembled into member MAP3111. *
*=====

*SysName JES      Module   Maps
*----- -----
SY02    JES3      JES3111  MAP3111

*=====
* This is a "Catch-All" entry that will match all system names *
* running JES2. *
* The associated JES Configuration module is JES2109. *
* The DSECT maps for JES2 have been assembled into member MAP2109. *
*=====

*SysName JES      Module   Maps
*----- -----
ANY     JES2      JES2109  MAP2109

*=====
* This is a "Catch-All" entry that will match all system names *
* running JES3. *
* The associated JES Configuration module is JES3110. *
* The DSECT maps for JES3 have been assembled into member MAP3110. *
*=====

*SysName JES      Module   Maps
*----- -----
ANY     JES3      JES3110  MAP3110
```

JES 構成モジュールのアセンブルおよびリンク(INST0020)

JES 構成モジュールには、JES2 および JES3 の両方に関するリリース固有の情報が含まれます。この情報は JES データの取得に使用されます。

CA SYSVIEW を使用している各システム用の JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクする必要があります。

システムの組み合わせ、および JES2 と JES3 のバージョンによっては、このジョブを複数回実行する必要がある場合があります。適用された保守のレベルが異なるシステムは、それぞれ別のバージョンと見なされます。

JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクする方法

1. sysview.SAMPJCL データセット内の INST0020 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. SET ステートメントを変更して、JES2 および JES3 の構成モジュールを作成します。

- JES2 構成モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。

```
SET JES=JES2  
SET MODULE=JES2vrrq
```

- JES3 構成モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。

```
SET JES=JES3  
SET MODULE=JES3vrrq
```

SET MODULE= ステートメントで指定された名前は、PARMLIB の JES メンバ (JES 構成名テーブル) の中で指定された名前と一致する必要があります。

3. INST0020 ジョブをサブミットします。

INST0020 ジョブのすべての手順が条件コード 0 で終了した場合は、システムによって JES 構成モジュールが正常にアセンブルおよびリンクされています。

注: 何らかのアセンブリ エラーが発生した場合は、<http://ca.com/support> で、テクニカル サポートにお問い合わせください。エラーのある行を表示するには、ソースメンバの JOFFT マクロで LIST=YES を指定するようしてください。

重要: ターゲットシステムと異なるオペレーティング システム レベルでこのジョブを実行している場合は、SYSLIB 連結を変更してターゲット SYSRES へのボリューム リファレンスを追加する必要があります。

JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクする際の保守に関する考慮事項

システムまたは CA SYSVIEW 製品に保守を適用する場合、以下を考慮してください。

- JES (JES2 または JES3) に保守が適用された時、および CA SYSVIEW のリリースが新しくなった時には、常に JES 構成モジュールを再アセンブルする必要があります。
- 以下が当てはまる場合は、SYSLIB 連結に SYS1.SMPMTS データセットを含めます。
 - 受理されないシステムに適用される保守がある。
 - 現在のシステムが保守で実行中である。

JES 制御ブロック マップのアセンブル(INST0021)

CA SYSVIEW の MAP コマンドを使用すると、仮想ストレージ内のあらゆるシステムまたはユーザ定義の制御ブロックを表示することができます。DSECT または制御ブロック構造が、使用しているソフトウェアリリースのもので作成されるように、制御ブロック マップをアセンブルしてください。

制御ブロック マップのアセンブル方法

1. sysview.SAMPJCL データセット内の INST0021 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
 2. MAPIN および MAPOUT の値を設定します。
 - JES2 マップ モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。


```
SET MAPIN=JES2MAPS
SET MAPOUT=MAP2vrrq
```
 - JES3 マップ モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。


```
SET MAPIN=JES3MAPS
SET MAPOUT=MAP3vrrq
```

SET MAPOUT= ステートメントで指定された名前は、PARMLIB の JES メンバ (JES 構成名テーブル) の中で指定された名前と一致する必要があります。
 3. INST0021 メンバをサブミットします。
- ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、制御ブロック マップは正常にアセンブルされています。

制御ブロック マップをアセンブルする際の保守に関する考慮事項

システムに保守を適用する場合、以下を考慮してください。

- JES (JES2 または JES3) に保守を適用した後には、JES マップ オブジェクトを再アセンブルします。
- 以下が当てはまる場合は、SYSLIB 連結に SYS1.SMPMTS データ セットを含めます。
 - 受理されないシステムに適用される保守がある。
 - 現在のシステムが保守で実行中である。

Event Capture インデックス データ セットの初期化(INST0030)

Event Capture インデックス データ セットを初期化して、キャプチャしたイベントリストのカタログを作成します。Event Capture オプションが利用可能ではない場合でも、Event Capture インデックスが使用されます。イベントキャプチャを実行し、診断用に CA に送信することができます。

注: 前リリースのインデックス データをアップグレードおよび再利用する場合は、この手順を省略して構いません。

共有 DASD 上でデータ セットが割り当てられている場合は、共通または共有のインデックス データ セットをすべてのシステムで使用することができます。また、各システムで個別のインデックス データ セットを使用することもできます。このインデックス ファイルは VSAM KSDS (キー順次データ セット) として定義されます。個別のインデックス データ セットを使用する場合、インデックス データ セットを指定する高レベル修飾子にシステム名が含まれている必要があります。システム名は &SYSNAME シンボリック パラメータを使用して指定します。

Event Capture インデックス データ セットの初期化方法

1. sysview.SAMPJCL データ セット内の INST0030 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0030 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、Event Capture インデックス データ セットは正常に初期化されています。

IMOD データ セットの定義およびロード(INST0031 - INST00321)

情報モジュール(IMOD)に使用されるソース メンバは、PDS データ セット `sysview.CNM4BISR` で配布されます。IMOD ソース メンバは CA GSS IMODLIB VSAM データ セットにロードされ、コンパイルされます。

以下の手順に従います。

1. `sysview.SAMPJCL` データ セットの `INST0031` および `INST0032` メンバで、JCL を変更します。
2. `INST0031` ジョブをサブミットします。
このジョブは IMOD VSAM データ セットを定義します。
3. `INST0032` ジョブをサブミットします。
このジョブは以下機能を実行します。
 - a. ソース IMOD REXX EXEC をソース IMOD PDS から VSAM IMOD データ セットにロードします。
 - b. IMOD を VSAM データ セットにコンパイルします。

ログ ストリームの定義(INST0040 - INST0046)

注: アップグレードでの使用で、すでにログ ストリームが定義済みである場合は、それらのログ ストリームを再利用できます。

注: ログ ストリーム サイズの考慮事項の詳細については、「Administration Guide」を参照してください。

以下のタイプの収集データをオンラインで表示できるようにするには、まずログ ストリームを定義する必要があります。

- 履歴オーディットイベントデータレコード
- 履歴プロットデータレコード
- 監視対象データレコード
- 例外レコード

注: `INST0040` から `INST0046` までの手順の実行に先立ち、z/OS システム ロガー サービスがアクティブであり、LOGR ポリシーが定義済みである必要があります。

ログストリームの定義方法

1. sysview.SAMPJCL データセット内の INST0040 から INST0046 までのメンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. 以下のサンプル定義で示されているようにログストリームを定義します。この JCL では、DASD のみのログストリームを定義し、ログストリームの特性を一覧表示します。

```
//INST004* JOB (09900000), 'PROGRAMMER NAME',
  REGION=0M,
  MSGCLASS=A,
  CLASS=A,
  MSGLEVEL=(1,1)

//DEFINE EXEC PGM=IXCMIAPU,REGION=0M
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *

DATA TYPE(LOGR) REPORT(No)

DEFINE LOGSTREAM
  NAME(ssidrrm.taskname.type.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(....16chars....)
  DIAG(No)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(1000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(No)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(7)
  STG_SIZE(750)

LIST LOGSTREAM
  NAME(ssidrrm.taskname.type.smfi)
  DETAIL(YES)
```

3. 各システム上で必要な z/OS ログストリームを定義する適切なジョブをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した後、ログストリームをオンラインで表示できます。レコードはこれらのログストリームに SMF 形式で書き込まれます。

ログ ストリームのガイドライン

ログ ストリームの定義では、以下のガイドラインに従ってください。

- SMS がユーザのログ ストリーム データセットを管理している。
- SMS データクラスがデータ圧縮をサポートしている。
- ログ ストリームの命名規則を遵守します。

注: アップグレードでの使用で、すでにログ ストリームが定義済みである場合は、それらのログ ストリームを再利用できます。

- 利用可能なログ データタイプを使用している。

利用可能なログ データタイプは、以下のとおりです。

ADTT

オーディットイベントレコードを示します。

IMRS

IMS 領域サマリレコードを示します。

IMTR

IMS トランザクションレコードを示します。

MQHR

MQ の履歴リクエストを示します。

PLOT

履歴プロットレコードを示します。

SMFD

SMF データレコードを示します。

TRAN

CICS の詳細トランザクションレコードを示します。

TSUM

CICS トランザクション サマリレコードを示します。

SYSD

CICS システム間隔データレコードを示します。

XLOG

すべてのコンポーネントの例外レコードを示します。

注: 複数のログ データ タイプがログ ストリームを共有できますが、SMFD と TRAN のデータ タイプを含むログ ストリームを共有することはお勧めしません。これらのログに書き込まれるデータレコードのサイズは、他のタイプのログに書き込まれるものよりも遙かに大きくなります。

- LOGSTREAM の説明の規則に従っている。

LOGSTREAM の説明は 16 文字で、空白を含めることはできません。

ログ ストリーム命名規則

ログ ストリームの命名規則に従って、オンライン表示のためのログ ストリームを定義します。

以下の命名規則をお勧めします。この規則は 26 文字の制限に準じています。

ssidrrm.taskname.type.smfi

ssid

SYSVIEW サブシステム ID を指定します

rrm.

リリース番号および区切り記号文字を指定します

taskname.

所有する SYSVIEW タスクおよび区切り記号文字を指定します

type.

ログ データ タイプ修飾子および区切り記号文字を指定します

smfi

SMF ID を指定します

制限: 26 文字のログ ストリーム名。名前は SYSPLEX 全体で一意である必要があります (SYSPLEX 全体で一意であるログ ストリーム名を提供するものであれば、どのような命名規則も容認されます)。

例: ログ ストリーム命名規則

ログ ストリーム名として推奨する命名規則の例を以下の表に示します。

| Taskname.Type | ログ ストリーム名 |
|---------------|-----------------------------|
| AUDIT.ADTT | GSVX130.AUDIT.ADTT.smfid |
| IMSLOGR.IMRS | GSVX130.IMSLOGR.IMRS.smfid |
| IMSLOGR.IMTR | GSVX130.IMSLOGR.IMTR.smfid |
| MQSDATA.MQHR | GSVX130.MQSDATA.MQHR.smfid |
| SMFDATA.PLOT | GSVX130.SYSDATA.PLOT.smfid |
| SYSDATA.SMFD | GSVX130.SMFDATA.SMFD.smfid |
| SYSDATA.XLOG | GSVX130.SMFDATA.XLOG.smfid |
| CICSLOGR.TRAN | GSVX130.CICSLOGR.TRAN.smfid |
| CICSLOGR.TSUM | GSVX130.CICSLOGR.TSUM.smfid |
| CICSLOGR.SYSD | GSVX130.CICSLOGR.SYSD.smfid |
| CICSLOGR.XLOG | GSVX130.CICSLOGR.XLOG.smfid |

手順 1: オーディット イベント用のログ ストリームの定義(INST0040)

この手順では、履歴オーディットイベントデータレコードを含めるログ ストリームのセットを定義します。

各システムで定義されているオーディットイベントデータレコードそれぞれに対して、固有のログ ストリームを作成する必要があります。

履歴オーディット イベント データレコード用ログ ストリームの定義方法

1. この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。
2. 定義されたログ ストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

AUDIT

```
LOGSTREAM-AUDIT-NAME    logstream.name
```

オーディットログ機能を使用しないか、またはログ ストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

```
LOGSTREAM-AUDIT-NAME    NONE
```

LGLOOKUP

```
Sysname  Logname.....LogStream-Name  
sysname  AUDIT          logstream.name
```

3. INST0040 ジョブをサブミットします。

履歴オーディット イベント データレコード用のログ ストリームが定義され、ログ ストリームの内容がオンラインで表示できます。

例: DASD のみのオーディット ログ ストリームの定義

この例では、履歴オーディットイベントデータレコードを収集するための、DASD のみのオーディット ログ ストリームを定義しています。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.AUDIT.ADTT.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(AUDIT_LOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(5000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(7)
    STG_SIZE(3500)
```

オーディット イベントのログ ストリームのオンライン表示

オーディット イベント データ ロガーによって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

AUDITLOG

オーディット イベント データ 収集 ログ を表示します。

ログ ストリーム が 表示 され ます。

手順 2: 履歴プロット データレコード用のログ ストリームの定義(INST0041)

データコレクタによって作成されたオンライン履歴プロット データレコードを表示するには、それらのレコードが含まれるログ ストリームを定義します。

各システムで固有のログ ストリームを作成する必要があります。

履歴プロット データレコード用のログ ストリームの定義方法

1. この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。
2. 定義されたログ ストリームの名前を以下の `parmlib` メンバ内で指定します。

SYSDATA

```
LOGSTREAM-PLOTLOG-NAME    logstream.name
```

プロットログ機能を使用しないか、またはログ ストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

```
LOG-PLOT-RECORDS          NO
```

```
LOGSTREAM-PLOTLOG-NAME    NONE
```

LGLOOKUP

```
Sysname  Logname.....LogStream-Name  
sysname  PLOTLOG      logstream.name
```

3. INST0041 ジョブをサブミットします。

履歴プロット データレコード用のログ ストリームが定義され、ログ ストリームの内容がオンラインで表示できます。

例: DASD のみのログ ストリームの定義

この例では、履歴プロットイベントデータレコードを収集するための、DASD のみのログ ストリームを定義しています。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.SYSDATA.PLOT.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(PLOT_LOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(30)
    STG_SIZE(750)
```

履歴プロット データレコードのオンライン表示

データコレクタによって作成された履歴プロットデータレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します。

PLOTLOG

履歴プロット ログを表示します。

ログ ストリームが表示されます。

手順 3: XLOG ログ ストリーム用のログ ストリームの定義(INST0042)

この手順では、以下のデータコレクタによって作成される例外レコードを含むログストリームを定義します。

- IMS
- MVS
- TCP/IP
- WebSphere MQ

各システムで固有のログストリームを作成する必要があります。

XLOG データレコード用のログストリームの定義方法

1. この手順の後に示される例に従って、ログストリームを指定します。
2. この手順で定義されたログストリームの名前を以下の `parmlib` メンバ内で指定します。

SYSDATA:

```
LOGSTREAM-XLOG-NAME      logstream.name
```

例外レコードを使用しないか、またはログストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

```
LOG-XLOG-RECORDS      NO
LOGSTREAM-XLOG-NAME    NONE
```

LGLOOKUP:

```
Sysname  Logname.....LogStream-Name..
sysname  XLOG          logstream.name
```

3. INST0042 ジョブをサブミットします。

XLOG 状態例外レコード用のログストリームが定義されます。

例: XLOG ログストリームの定義

この例では、例外レコードを収集するための XLOG ログストリームを定義しています。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
DEFINE LOGSTREAM
  NAME(GSVX130.SYSADATA.XLOG.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(XLOG_LOG)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(1500)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(14)
  STG_SIZE(1000)
```

XLOG 状態例外データレコードのオンライン表示

XLOG 状態例外レコードを含むログストリームを定義した後は、収集したデータをオンラインで表示することができます。

ログストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

parmlib の LGLOOKUP メンバで指定されたデータ収集ログを表示します。

XLOG

すべての CA SYSVIEW コンポーネントについて、しきい値と状態例外レコードを表示します。

手順 4: (オプション) Event Capture Option でのログストリームの定義 (INST0043)

この手順は CA SYSVIEW Event Capture Option を実行している場合にのみ必要です。

SMFDATA タスクによって収集される SMF レコードを含めるログストリームを定義します。SMF データ収集は CA SYSVIEW Event Capture Option のコンポーネントです。

注: SMF Event Capture のセットアップの詳細については、「Administration Guide」の「Starting the Subtasks」の章参照してください。

各システムで固有のログストリームを作成する必要があります。

Event Capture Option でログストリームを定義する方法

- この手順の後に示される、「例: DASD のみのログストリームの定義」に従って、ログストリームを指定します。
- 定義されたログストリームの名前を以下の parmlib メンバ内で指定します。

SMFDATA

LOGSTREAM-SMFDATA-NAME logstream.name

SMF ログ機能を使用しないか、またはログストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

LOGSTREAM-SMFDATA-NAME NONE

さらに、SMFDATA タスクを SYSVIEW parmlib メンバ内で開始しないようにしてください。

LGLOOKUP

```
Sysname Logname..... LogStream-Name
sysname SMFDATA logstream.name
```

3. INST0043 ジョブをサブミットします。

Event Capture Option 用のログストリームが定義され、収集されたデータがオンラインで表示できます。

例: DASD のみのログストリームの定義

DASD のみのログストリームの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)

DEFINE LOGSTREAM
  NAME(GSVX130.SMFDATA.SMFD.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(SMF_LOG)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(15000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(5)
  STG_SIZE(10000)
```

Event Capture Option ログストリームのオンライン表示

SMFDATA タスクによって収集された SMF レコードを含むログストリームを定義した後は、ログストリームをオンラインで表示することができます。

ログストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します

SMFLOG

SMF ログを表示します

ログストリームが表示されます。

手順 5: (オプション)CICS オプション用のログ ストリーム セットの定義 (INST0044)

この手順は CA SYSVIEW Option for CICS を実行している場合にのみ必要です。

この手順では、CICS データコレクタによって作成されるレコードを含むログ ストリームのセットを定義します。

CICS データコレクタは、CA SYSVIEW のメイン アドレス空間内で実行される、指定の CICS ロガーを使用してレコードをルーティングします。複数の CICS ロガーを定義できます。

各システムで定義されている CICS ロガーそれぞれに対して、固有のログ ストリームを作成する必要があります。

CICS オプション用のログ ストリーム セットの定義方法

1. この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。ログ ストリームは、1 個から 4 個まで定義できます。

ログ ストリームには以下の命名規則をお勧めします。

ssidrrm.cicslogr.TRAN.smfi
ssidrrm.cicslogr.TSUM.smfi
ssidrrm.cicslogr.SYSD.smfi
ssidrrm.cicslogr.XLOG.smfi

ssid

CA SYSVIEW サブシステム ID を指定します。

rrm

リリース番号を指定します

cicslogr

CICS ロガーを指定します。

smfi

SMF ID を指定します

ログ データのタイプは以下通りです。

TRAN

CICS トランザクション ログを指定します。

TSUM

CICS トランザクション サマリを指定します。

SYSID

CICS システム データを指定します。

XLOG

CICS 例外ログを指定します。

重要: 複数のログ データタイプでログ ストリームを共有できます。CICS トランザクション ログ レコードを含めるように定義されたログ ストリームの共有はお勧めしません。このログのデータボリュームは、他のログ タイプよりずっと大きくなります。

2. この手順で定義されたログ ストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

CICSLOGR

CICS データ ロガー機能のデフォルト構成オプションを提供します。

ログ ストリームを使用する予定がないか、まだ定義されていない場合は、オプションの値を「NONE」に適宜設定してください。

| | |
|-------------------------|------|
| LOGSTREAM-CICSTRAN-NAME | NONE |
| LOGSTREAM-CICSTSUM-NAME | NONE |
| LOGSTREAM-CICSSYSD-NAME | NONE |
| LOGSTREAM-CICSXLOG-NAME | NONE |

LGLOOKUP

このメンバ内で定義されているログ名をログ ストリーム名と関連付けます。

```

Sysname Logname..... LogStream-Name
Sysname CICSLOGR.TRAN... logstream.name
Sysname CICSLOGR.TSUM... logstream.name
Sysname CICSLOGR.SYSD... logstream.name
Sysname CICSLOGR.XLOG... logstream.name

```

3. INST0044 ジョブをサブミットします。

CICS オプション用のログ ストリームが定義され、CA SYSVIEW が保持しているログ ストリームの内容がオンラインで表示できます。

例: TRAN ログ ストリームの定義

CICS トランザクション ログ ストリームの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)

DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.CICSLGR.TRAN.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(CICS_TRANLOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(20000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(5)
    STG_SIZE(15000)
```

例: TRANSUMM ログ ストリームの定義

CICS トランザクション サマリ ログ ストリームの例を示します。

```
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.CICSLGR.TSUM.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(CICS_TRANSUMM)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(30)
    STG_SIZE(750)
```

例: SYSD ログ ストリームの定義

CICS データログ ストリームの例を示します。

```
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.CICSLGR.SYSD.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(CICS_SYSDATA)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(90)
    STG_SIZE(750)
```

例: XLOG ログ ストリームの定義

CICS 例外ログ ストリームの例を示します。

```
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.CICSLGR.XLOG.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(CICS_XLOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(30)
    STG_SIZE(750)
```

CICS オプション用ログ ストリームのオンライン表示

CICS データコレクタによって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンライン表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

CSYSDATA

CICS システム間隔分析を表示します

CTRANLOG

CICS トランザクション ログ サマリを表示します

CTRANSUM

CICS トランザクション間隔を表示します

LGLOGS

データ収集ログを表示します

XLOG

CICS 例外ログを表示します

ログ ストリームが表示されます。

手順 6: (オプション) IMS オプション用のログ ストリームの定義(INST0045)

この手順は CA SYSVIEW Option for IMS を実行している場合にのみ必要です。

この手順では、IMS トランザクション データロガーによって作成されるレコードを含めるログ ストリームのセットを定義します。

IMS トランザクション データロガーは、CA SYSVIEW メイン アドレス空間内で実行されるタスクを通じてログ記録されるレコードを作成します。複数の IMS ロガーが実行されている場合、各ロガーはログを共有することも、専用に定義された特定のログ ストリームを持つことも可能です。

注: 複数のロガーおよびタイプでログ ストリームを共有できます。ただし、IMS トランザクション ログ レコードが含まれるログ ストリームの共有はお勧めしません。このログのデータボリュームは、他のログ タイプより大きくなります。

IMS オプション用のログ ストリームの定義方法

- この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。

ログ ストリームには以下の命名規則をお勧めします。

ssidrrm.IMSLOGR.IMRS.smfi

ssidrrm.IMSLOGR.IMTR.smfi

または

ssidrrm.IMSssid.IMRS.smfi

ssidrrm.IMSssid.IMTR.smfi

ssid

SYSVIEW サブシステム ID を指定します

rrm

リリース番号を指定します

IMS

IMS ロガー名を指定します

ssid

IMS サブシステムを指定します

IMRS

IMS 領域サマリレコードのログ データタイプを指定します

IMTR

IMS トランザクションのログ データタイプを指定します

smfi

SMF ID を指定します

- 定義されたログ ストリームの名前を以下の parmlib メンバ内で指定します。

IMSLOGR

IMS データロガー機能のデフォルト構成オプションを提供します。

LOGSTREAM-IMSREGN-NAME *logstream.name*

LOGSTREAM-IMSTRAN-NAME *logstream.name*

ログ ストリームを使用する予定がないか、まだ定義されていない場合は、オプションの値を「NONE」に適宜設定してください。

LOGSTREAM-IMSREGN-NAME NONE

LOGSTREAM-IMSTRAN-NAME NONE

LGLOOKUP

このメンバ内で定義されているログ名をログストリーム名と関連付けます。

```
Sysname Logname..... LogStream-Name  
Sysname IMSLOGR.IMRS logstream.name  
Sysname IMSLOGR.IMTR logstream.name
```

または

```
Sysname IMSssid.IMRS logstream.name  
Sysname IMSssid.IMTR logstream.name
```

3. INST0045 ジョブをサブミットします。

IMS オプション用のログストリームが定義され、収集されたデータがオンラインで表示できます。

例: IMRS ログストリームの定義

IMS 領域サマリデータストリームログの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
```

```
DEFINE LOGSTREAM  
    NAME(GSVX130.IMSLOGR.IMRS.smfi)  
    AUTODELETE(YES)  
    DASDONLY(YES)  
    DESCRIPTION(IMS_RSUMLOG)  
    DIAG(NO)  
    EHLQ(LOGGER)  
    HIGHOFFLOAD(70)  
    LOWOFFLOAD(0)  
    LS_SIZE(1000)  
    MAXBUFSIZE(32767)  
    MODEL(NO)  
    OFFLOADRECALL(YES)  
    RETPD(14)  
    STG_SIZE(750)
```

例: IMTR ログ ストリームの定義

IMS トランザクションデータログストリームの例を示します。

DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)

```
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.IMSLOGR.IMTR.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(IMS_TRANLOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(5000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(5)
    STG_SIZE(4000)
```

IMS オプション用ログ ストリームのオンライン表示

IMS データロガーによって作成されたレコードを含むログストリームを定義した後は、ログストリームをオンラインで表示することができます。

ログストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します

IMSRSLG

収集データをオンラインで表示します。

IMSTLOG

IMST ログを表示します。

ログストリームが表示されます。

手順 7: (オプション)WebSphere MQ オプション用のログ ストリームの定義(INST0046)

この手順は CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ を実行している場合にのみ必要です。

この手順では、WebSphere MQ データコレクタによって作成されるレコードを含めるログ ストリームを定義します。各システムで固有のログ ストリームを作成する必要があります。

WebSphere MQ オプション用のログ ストリームの定義方法

1. この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。
2. この手順で定義されたログ ストリームの名前を以下の `parmlib` メンバ内で指定します。

MQSDATA

WebSphere MQ データコレクタ機能のデフォルト構成オプションを提供します。

`LOGSTREAM-MQSDATA-NAME logstream.name`

ログ機能を使用しないか、またはログ ストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

`LOGSTREAM-MQSDATA-NAME NONE`

LGLOOKUP

このメンバ内で定義されているログ名をログ ストリーム名と関連付けます。

`Sysname Logname.....LogStream-Name`
`Sysname MQSDATA.MQHR logstream.name`

3. INST0046 ジョブをサブミットします。

WebSphere MQ オプション用のログ ストリームが定義され、収集されたデータがオンラインで表示できます。

例: MQHR ログ ストリームの定義

MQ ログ ストリームの例を示します。

```
//MQS      EXEC PGM=IXCMIAPU,REGION=0M
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN    DD *
      DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)

      DEFINE LOGSTREAM
          NAME(GSVX130.MQSDATA.MQHR.smfi)
          AUTODELETE(YES)
          DASDONLY(YES)
          DESCRIPTION(MQS_MQHR)
          DIAG(NO)
          EHLQ(LOGGER)
          HIGHOFFLOAD(70)
          LOWOFFLOAD(0)
          LS_SIZE(1000)
          MAXBUFSIZE(32767)
          MODEL(NO)
          OFFLOADRECALL(YES)
          RETPD(5)
          STG_SIZE(750)
```

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ のログ ストリームのオンライン表示

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ データコレクタ によって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します。

MQRLOG

MQR ログを表示します。

ログ ストリームが表示されます。

セキュリティデータセットの変換(INST0050)

CA SYSVIEW の初回インストール時は、この手順を省略してください。CA SYSVIEW がすでにインストールされている場合は、この手順を実行して既存のセキュリティデータセットを本リリースの新しい形式に変換してください。

セキュリティデータセットの変換方法

1. INST0050 メンバ内の JCL を変更します。このメンバは `sysview.SAMPJCL` データセット内にあります。
2. SYSUT1 DD ステートメントを編集して既存のセキュリティデータセットを指定します。
3. INST0050 ジョブをサブミットします。
4. CA SYSVIEW 製品を初期化した後、すべての新しいコマンドおよびディスプレイのフィールドのセキュリティ許可を更新してください。

注: 詳細については、「*Security Guide*」を参照してください。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、セキュリティデータセットは、新しい形式に正常に変換されています。

重要: このジョブを実行して既存のセキュリティファイルを変換した場合、このリリースで導入された新しいコマンドについては、セキュリティ認可が FAILED と表示されます。

JCL ステートメント(INST0050)

以下は、GSVXCNVS プログラム用の JCL 内の DD 名およびその説明です。

STEPLIB

新しい CA SYSVIEW ロードライブラリを示します。

SYSPRINT

変換処理によって作成されたメッセージを表示します。

SYSUT1

前リリースの CA SYSVIEW で使用されていたセキュリティデータセットを示します。このデータセットは変換処理への入力用であり、変更はされません。

SYSUT2

新しいリリースの CA SYSVIEW で使用されるセキュリティ データ セットを示します。このデータ セットは変換処理の出力結果であり、変更の対象になります。このデータ セット名は、GEN モジュールの SECDSN パラメータで指定されたデータ セット名と一致する必要があります。このパラメータは、GEN モジュールのアセンブルおよびリンク時に指定されています。

条件コード

INST0050 および INST0051 は既存のデータ セットを新しい形式に変換します。ジョブ INST0050 はセキュリティ データ セットを変換し、ジョブ INST0051 はプロファイル データ セットを変換します。以下はいずれかのジョブが返す条件コードです。

0

変換処理が正常に完了しました。

4

初期作業領域用の GETMAIN が失敗しました。ジョブの領域サイズを増やしてください。

8

GSVXCOMM モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

12

GSVXNUC モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

16

初期化処理中にエラーが発生しました。SYSPRINT DD ステートメントの出力結果を参照し、初期化が失敗した理由を確認してください。

20

SYSUT1 DD ステートメントの Open が失敗しました。SYSUT1 DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

24

SYSPRINT DD ステートメントへの Write が失敗しました。SYSPRINT DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

28

プロファイル データ セットのリリースがサポートされていません。SYSUT1 DD ステートメントで指定されたデータ セットは、サポートされなくなったリリース用のものです。テクニカル サポート(<http://www.ca.com/jp/support/>)にお問い合わせください。

プロファイル データ セットの変換(INST0051)

CA SYSVIEW がすでにインストールされている場合は、この手順を完了して既存のプロファイル データ セットを新しい形式に変換します。

CA SYSVIEW の初回インストール時は、この手順を省略してください。

注: プロファイル変換処理中に、いずれかのユーザが CA SYSVIEW の新規リリースを使用している場合、そのユーザのプロファイルが変換されない場合があります。

プロファイル データ セットの変換方法

1. INST0051 メンバ 内の JCL を変更します。このメンバは *sysview.SAMPJCL* データ セット内にあります。
2. 前のリリースの SET OLD= パラメータで使用された既存のプロファイル データ セットを提供して、SYSUT1 DD ステートメントを編集します。
SET NEW= パラメータには、この新規リリースで使用される新しいプロファイル データ セットが入力されます。この値は変更できます。

例: データ セット変数名

```
SET OLD='old.profile.dataset'
SET NEW='new.profile.dataset'
```

OLD

変換する既存のプロファイルのデータ セット名を指定します。

NEW

新規リリースで配布された新しいプロファイル データ セットのデータ セット名を指定します。

3. INST0051 メンバをサブミットします。

このジョブでは、以下の 2 つの手順で、既存のプロファイル データ セットを現在のリリースに変換します。

- a. 新規または出力プロファイル データ セットを配布プロファイルのメンバで初期化します。
- b. 前のリリースのプロファイル データ セットを新規プロファイル データ セットに変換します。

プロファイル データ セットが変換されます。

詳細情報

[JCL ステートメント\(INST0051\)](#) (P. 180)

JCL ステートメント(INST0051)

以下は、GSVXPROC プログラム用の JCL 内の DD 名およびその説明です。

STEPLIB

新しい CA SYSVIEW ロードライブラリを示します。

SYSPRINT

変換処理によって作成されたメッセージを表示します。

SYSUT1

前リリースの CA SYSVIEW で使用されていたプロファイル データ セットを示します。このデータ セットは変換処理への入力用であり、変更はされません。

SYSUT2

新しいリリースの CA SYSVIEW で使用されるプロファイル データ セットを示します。このデータ セットは変換処理の出力結果であり、変更の対象になります。GEN モジュールの PROFDSN パラメータ上で指定されたデータ セット名と一致する必要があります。このパラメータは、GEN モジュールのアセンブルおよびリンクの実行時に指定されています。

条件コード

INST0050 および INST0051 は既存のデータ セットを新しい形式に変換します。ジョブ INST0050 はセキュリティ データ セットを変換し、ジョブ INST0051 はプロファイル データ セットを変換します。以下はいずれかのジョブが返す条件コードです。

0

変換処理が正常に完了しました。

4

初期作業領域用の GETMAIN が失敗しました。ジョブの領域サイズを増やしてください。

8

GSVXCOMM モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

12

GSVXNUC モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

16

初期化処理中にエラーが発生しました。SYSPRINT DD ステートメントの出力結果を参照し、初期化が失敗した理由を確認してください。

20

SYSUT1 DD ステートメントの Open が失敗しました。SYSUT1 DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

24

SYSPRINT DD ステートメントへの Write が失敗しました。SYSPRINT DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

28

プロファイルデータセットのリリースがサポートされていません。SYSUT1 DD ステートメントで指定されたデータセットは、サポートされなくなったリリース用のものです。テクニカルサポート(<http://www.ca.com/jp/support/>)にお問い合わせください。

CICS テーブルの更新(INST0060)

以下の手順を完了させて、CICS テーブルを更新します。

- 手順 1: プログラムおよびトランザクションエントリの定義
- 手順 2: PLTPI へのエントリの追加
- 手順 3: (オプション) PLTSD へのエントリの追加
- 手順 4: CICS データコレクタの自動開始

手順 1: プログラム、トランザクション、およびライブラリ エントリの定義

CICS テーブルを更新して、プログラムおよびトランザクション エントリを定義します。

プログラムおよびトランザクション エントリの定義を開始する前に、以下で指定されている値が使用しているサイトの要件を満たしていることを確認してください。

- CICS システム定義ファイル ユーティリティプログラム、DFHCSDUP へのステートメントの入力。
`sysview.CNM4BSAM (CICSCSD)`
- SAMPLIB の CSDUTIL メンバで提供されるシステム定義ファイル ユーティリティプログラム用のサンプル JCL（「サンプルライブラリへのインストール メンバのコピー」手順を含んだ INST0110 の実行後）。

プログラムおよびトランザクション エントリの定義方法

1. `sysview.SAMPJCL` データ セット内の INST0060 メンバをユーザのサイトの基準に合わせて変更します。
2. INST0060 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、以下の CICS トランザクションの定義が完了しています。

| トランザクション | 用途 |
|----------|---|
| GSVS | CICS データコレクタを手動で開始します。 このトランザクションは、CA SYSVIEW Option for CICS を必要とします。 |
| GSVT | CICS データコレクタを手動で終了します。 このトランザクションは、CA SYSVIEW Option for CICS を必要とします。 |
| GSVI | 機能リクエストへの内部トランザクションとしてこのトランザクションを使用する CICS データコレクタを特定します。このトランザクションを直接実行することはできません。 GSVS トランザクションによって内部的に開始されます。 このトランザクションは、CA SYSVIEW Option for CICS を必要とします。 |
| SYSV | CA SYSVIEW オンライン インターフェースを特定します。 このトランザクションは、CA SYSVIEW Option for CICS を必要としません。 |

注: CICS システム定義ファイル ユーティリティプログラムの詳細については、IBM の「*CICS Resource Definition Guide*」、または IBM の「*CICS Operations and Utilities Guide*」を参照してください。

CICS ダイナミックライブラリ定義

CICS TS 3.2 以降、CICS ではダイナミックライブラリ定義が使用できます。ダイナミックライブラリ定義では、DD 名 DFHRPL へのロードライブラリデータセットの動的な割り当ておよび連結が行われます。

ユーザは CICS DFHCSDUP ユーティリティを使用して、CICS CSD ファイルへ定義を動的に追加することができます。

サンプルライブラリ(CNM4BSAM)データセットの CICSCSD メンバにある以下のサンプル定義は、CA SYSVIEW loadlib データセットを定義します。

```
DEFINE LIBRARY(SYSVIEW)
  RANKING(50)
  CRITICAL(NO)
  STATUS(ENABLED)
  DSNAME01(sysview.CNM4BLOD)
  GROUP(SYSVIEW)
```

CA SYSVIEW では、CICS ジョブストリームへの JCL 更新は必要なくなりました。アクティブな CICS 領域に対してインストールおよび保守を実行できます。

データセット割り当てはすべて動的に実行されます。CA SYSVIEW loadlib (sysview.CNM4BLOD) は、STEPLIB またはリンクリストからアクセス可能である必要があります。loadlib がリンクリストにある場合は、JCL の変更は必要ありません。

手順 2: PLTPIへのエントリの追加

PLTPIへのエントリを追加し、CICS テーブルを更新します。

PLTPIへのエントリの追加方法

注: PLTPI テーブルを使用しない場合は、この手順は省略してください。

1. 監視対象の各 CICS システムの PLTPI を変更します。
2. PLTPI テーブルを使用している場合は、以下のエントリをテーブルに追加します。

DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=GSVCGSVS

エントリが PLTPI に追加されます。

例: PLTPI(初期化)モジュール

```
DFHPLT TYPE=INITIAL,SUFFIX=PI  
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=DFHDELIM  
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=GSVCGSVS  
DFHPLT TYPE=FINAL  
END DFHPLTBA
```

手順 3: (オプション) PLTSD へのエントリの追加

終了は、CICS PLTSD シャットダウン モジュール内の CA SYSVIEW for CICS GSVCGSVT 終了プログラムの配置によって制御されます。

PLTSD への GSVCGSVT エントリの追加はオプションです。デフォルトでは、CA SYSVIEW for CICS データコレクタは、CICS 正常シャットダウンのステージ 2 の部分で終了します。

PLTSD へのエントリの追加方法

PLTSD に追加するエントリのオプションを以下のサンプルに示します。

- ステージ 1 シャットダウンのリクエストの場合
DFHDELIM エントリの前に GSVCGSVT を追加します。
- ステージ 2 シャットダウンのリクエストの場合
DFHDELIM エントリの後に GSVCGSVT を追加します。
選択されたエントリが、PLTSD に追加されます。

例: PLT - ステージ 2 シャットダウン

```
PRINT GEN
DFHPLT TYPE=INITIAL,SUFFIX=SD
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=DFHDELIM
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=GSVCGSVT
DFHPLT TYPE=FINAL
END DFHPLTBA
```

手順 4: CICS データコレクタの自動開始

CICS の初期化中に CICS データコレクタを自動開始するには、デフォルトのシステム初期化テーブル(SIT)をオーバーライドするポスト初期化テーブルが必要です。ポスト初期化テーブル名は DFHPLTxx です。xx は SIT の PLTPI パラメータで指定されたサフィックスです。

ポスト初期化の処理中に、CICS が DFHPLTPI テーブルを使用するようにするには、SIT で PLTPI=PI を指定します。DFHPLTPI 用のコードは、SAMPLIB の CICSPLT メンバで提供されています。

注: 現在 PLTPI テーブルを使用していない場合でも、SIT のオーバーライドで PLTPI=PI を指定することで PLTPI テーブルを取得することができます。

CICS データ収集開始モード

CA SYSVIEW for CICS データコレクタは初期化中に構成情報を必要とします。オリジナルまたは初期の構成定義は、さまざまな PARMLIB メンバに格納されています。

CICS データコレクタの終了中に、構成情報が保存されます。構成情報は持続的に維持されます。

初期またはスタートアップ時の構成は、常に PARMLIB の CICSOPTS メンバから取得されます。

以下の開始モードを指定することができます。

COLD

PARMLIB のメンバから構成情報を取得します。前のセッションからの構成データはリストアされません。

WARM

永続データストアから構成情報を取得します。前のセッションからの構成データがリストアされます。

オブジェクトが存在しない場合、データは関連する PARMLIB のメンバから取得されます。

開始モードの指定方法

2通りの方式を使用して、開始モードが指定できます。以下のマトリクスを使用すると、複数のメソッドを同時に使用した結果どのモードになるかを理解するのに役立ちます。

- 以下の SIT パラメータを追加して、GSVCGSVS プログラム用の CICS System Initialization Table (SIT) の INITPARM を定義します。

INITPARM=(GSVCGSVS='GSVI=tran,USERID=userid,START=start,SSID=ssid')

tran

初期プログラム GSVCGSVI で定義されたトランザクションを指定します。デフォルトでは、トランザクション ID は GSVI です。アスタリスク (*) を指定すると、トランザクション ID GSVI が使用されます。

userid

GSVI トランザクションに関連付けるユーザ ID を指定します。アスタリスク (*) を指定すると、トランザクション ID GSVI は特定のユーザ ID なしで開始されます。

start

CICS データコレクタの開始タイプを指定します。

有効な値は以下の通りです。

- アスタリスク(*) - WARM 開始モードを示します。
- WARM - WARM 開始モードを示します。
- COLD - COLD 開始モードを示します。

ssid

初期プログラム GSVCGSVI が接続するサブシステム ID を指定します。

アスタリスク(*)を指定すると、モジュール GSVBSSID で定義されているデフォルトのサブシステム ID が使用されます。

- 開始トランザクション GSVS へのパラメータとして、以下のように手動で開始モードを入力します。

構文:

GSVS <START=*mode*>

mode

* | WARM | COLD

開始モードマトリクス テーブル

以下のテーブルでは、CICS SIT INITPARM および GSVS START= を使用して開始モードを指定した場合、結果的にどの開始モードになるかを示します。

| CICS SIT INITPARM | GSVS START= | 開始モード |
|-------------------|-------------|-------|
| none | none | WARM |
| none | * | WARM |
| none | COLD | COLD |
| none | WARM | WARM |
| * | none | WARM |
| * | * | WARM |
| * | COLD | COLD |
| ** | WARM | WARM |
| COLD | none | COLD |
| COLD | * | WARM |
| COLD | COLD | COLD |
| COLD | WARM | WARM |

| | | |
|------|------|------|
| WARM | none | WARM |
| WARM | * | WARM |
| WARM | COLD | COLD |
| WARM | WARM | WARM |

CICS オブジェクト メンバ のリンク エディット(INST0061)

この手順では、CICS オブジェクト メンバのリンク エディットを実行し、CTRACE コマンドによって表示される CICS 内部トレース テーブル エントリをフォーマットするために使用するロード モジュールを作成します。

注: CICS の複数リリースを使用している場合は、その中で最新の CICS リリースを使用しているライブラリを指定してください。

CICS 内部トレース テーブル エントリをフォーマットする CICS オブジェクト メンバをリンク エディットする方法

1. sysview.SAMPJCL データ セットの INST0061 メンバ内の SYSLIB DD ステートメントを変更して、正しい CICS ライブラリを使用するようにします。

サンプルの SYSLIB DD ステートメントは以下の通りです。

```
//SYSLIB DD DSN=cics.ADFHMOD
```

2. INST0061 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、CICS オブジェクト メンバはリンク エディットされています。

CICS JCL の更新

CICS データコレクタおよびオンライン インターフェースを有効にするために、CICS JCL を更新します。サンプル JCL は *sysview.SAMPJCL* (CICSJCL) にあります。監視対象の各 CICS システムについてこの手順を実行します。

CICS JCL の更新方法

1. CICS ジョブストリーム DFHRPL および STEPLIB DD ステートメントに、以下のようなロードライブラリ用の DD ステートメントを追加します。

```
//STEPLIB DD DSN=...
//          DD DSN=sysview.CNM4BLOD
//DFHRPL DD DSN=...
//          DD DSN=sysview.CNM4BLOD
```

注: 高レベル修飾子を CA SYSVIEW ロードライブラリへ割り当てたものに置き換えてください。

2. STEPLIB DD 名、LPA または linklist によって、CNM4BLOD データ セットをアクセス可能にします。

CICS TS 3.2 以降、CICS では動的プログラムライブラリ管理が提供されます。CNM4BLOD データ セットを CICS に動的に追加し、LIBRARY リソース定義を使用してアクセス可能にすることができます。これはデータ セット DFHRPL DD 名を追加する方法に変わるものです。

これで監視対象の各 CICS システムについて、CICS JCL が更新されます。

動的なインストール ユーティリティを実行します(INST0100)

動的インストール ユーティリティは、システムに一時的に CA SYSVIEW をインストールします。

以下の手順に従います。

1. `sysview.SAMPJCL` データ セット内の `INST0100` メンバを確認します。
2. `INST0100` メンバをサブミットします。

動的なインストール プログラムは、以下の条件コードを返します。

0

すべての機能が正常に実行されたことを示します。

4

事前に完了済みの機能があったため、機能がすべて実行されてはいないということを示します。メッセージがないかどうかジョブ ログを確認します。

8

エラーが発生したことを示します。メッセージがないかどうかジョブ ログを確認します。さらにサポート情報が必要な場合は、テクニカル サポート(<http://www.ca.com/jp/support/>)にお問い合わせください。

3. ジョブが条件コード 0 または 4 で終了していることを確認します。

CA SYSVIEW がシステムに一時的にインストールされます。

動的なインストール ユーティリティの仕組み

動的インストール ユーティリティは、システムに一時的に CA SYSVIEW をインストールします。このユーティリティは以下のタスクを実行します。

- `SYSLIB DD` ステートメントに割り当てられたデータ セットを APF 許可します。スター ティッド プロセッサー `SYSVIEW` で `DD` 名 `STEPLIB` に連結されたすべてのデータ セットが APF 許可されていることを確認します。
- サブシステム名を追加します。インストールの `GSVIINST` マクロの `SUBSYS` パラメータはサブシステム名を指定します。`SUBSYS` パラメータのデフォルト値は `GSVX` です。
- インストールの `GSVIINST` マクロの `SVC` パラメータに指定された数値を使用して、CA SYSVIEW SVC を追加します。
- 必要な LPA モジュールをロードします。

サンプル ライブラリへのインストール メンバのコピー(INST0110)

インストール中に作成および使用されるジョブは、*sysview.CNM4BSAM* データセットにコピーされます。これらのジョブのうちのいずれかを今後実行する必要がある場合は、オリジナルのインストール ジョブを壊したり、変更したりしてしまわないように、SAMPLIB データセットに置かれたコピーを使用してください。

サンプル ライブラリへインストール メンバをコピーする方法

1. *sysview.CNM4BSAM* データセット内の INST0110 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0110 メンバをサブミットします。

ジョブが 条件コード 0 で終了した場合は、メンバはサンプル ライブラリに配置されています。

デフォルト SSID のアセンブルおよびリンク(USRM0001)

システム PARMLIB のどのシステム環境設定オプション メンバを使用するか決定するには、CA SYSVIEW にサブシステム識別子 (SSID) が必要です。ユーザが GSVX のデフォルト SSID を使用している場合、USERMOD は必要ありません。

GSVX のデフォルト SSID を使用していない場合は、これらの手順を確認します。

以下の手順に従います。

1. USRM0001 内のサンプル JCL を確認します。
2. メンバ USRM0001 をサブミットします。
 - a. このサンプル JCL によって、SMP/E USERMOD を作成します。
 - b. SMP/E USERMOD はデフォルトの SSID をアセンブルおよびリンクして、ロード モジュール GSVBSSID へ格納します。

製品の開始準備

以下の手順が完了すると、SVC、サブシステム、および APF ロード ライブラリがインストールされます。IPL の完了後に、CA SYSVIEW がユーザのシステムにインストールされます。

ASID の増加(オプション)

CA SYSVIEW のメイン アドレス空間が複数回停止し、ASID 再利用を使用していない場合

- アドレス空間識別子 (ASID) を使い果たす場合があります。
- 追加の ASID を取得するために、システムに対して IPL の実行が必要な場合があります。

システムの IPL を実行しなくてもいいようにするには、以下の手順を行って ASID の数を増加させます。

以下の手順に従います。

1. SYS1.PARMLIB のメンバ IEASYSxx 内の RSVNONR にアクセスします。
2. RSVNONR のサイズを大きくして、IPL の実行中にシステム リンケージイン デックス(システム LX)を定義するアドレス空間の開始と停止の回数が収まるようにします。

注: ASID を使い果たすと、アドレス空間作成の失敗を警告し、追加の ASID の取得を促すメッセージが表示されます。

システム リンケージ インデックスおよび ASID 再利用

システム リンケージ インデックス

「ASN および LX 再利用」機能がインストールされている場合、リンケージ インデックスは再利用可能な System LX として予約されます。

「ASN および LX 再利用」機能がインストールされている場合、再利用可能な System LX を予約できます。SYSVIEW メインアドレス空間が停止されると、システムで System LX を再利用できます。

「ASN および LX 再利用」機能がインストールされていない場合、SYSVIEW メインアドレス空間が停止されると、System LX は休止します。SYSVIEW メインアドレス空間が再起動されると、CA SYSVIEW は以前使用されていた System LX を再利用します。

注: パラメータ NSYSLX は、予約する追加のリンケージ インデックス(LX)の数を指定します。ただし、製品はシステム LX を再利用するので、この数を増加させる必要はありません。

再利用可能な ASID

SYSVIEW メインアドレス空間を終了すると、ASID が利用不能になる場合があります。これは System LX が予約されていることが原因です。以下がすべて真の場合、ASID を再利用できます。

1. ASN および LX の再利用機能がインストールされている。
2. REUSASID (YES) は DIAGxx SYS1.PARMLIB メンバ内に指定する必要がある。
3. SYSVIEW メインアドレス空間開始タスクは、REUSASID=YES パラメータを使用して開始される必要がある。

S SYSVIEW,REUSASID=YES

SVC および LPA モジュールのシステムへの追加(オプション)

スーパーバイザーコール(SVC)およびリンクパックエリア(LPA)モジュールをシステムに追加できます。

注: この手順がオプションなのは、CA SYSVIEW の起動中に、動的インストールによって SVC および LPA モジュールが追加されるためです。

以下の手順に従います。

1. SYS1.PARMLIB の IEASVC n メンバで CA SYSVIEW SVC を定義します。このエントリでは、「[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)」の手順で SVC パラメータに指定した値と同じ値を SVCPARM キーワードの後に指定します。

例: IEASVC n エントリの定義

```
SVCPARM 238,REPLACE,TYPE(3),APF(NO),EPNAME(GSVXSVC)
```

注: IEALPAn n で新しいエントリを作成する代わりに、GSVXSVC モジュールを任意の既存の LPA ライブラリにコピーすることができます。

2. SVC の場所を定義し、SYS1.PARMLIB の IEALPAn n メンバを更新することで LPA モジュールを定義します。

注: sysview.CNM4BLOD データセット全体を LPA に追加することはできません。すべてのモジュールが再入可能であるわけではありません。ライブラリがマスタカタログ内にある必要があります。

- 以下のサンプル IEALPAn n エントリは、SVC の場所を定義します。

```
INCLUDE LIBRARY(sysview.CNM4BLOD)
MODULES(GSVXSVC)
```

- 以下のサンプル IEALPAn n エントリは LPA モジュールを定義します。

```
INCLUDE LIBRARY(sysview.CNM4BLOD)
MODULES(GSVXAEST,CAIXNM4$)
```

注: SVC モジュール GSVXSVC は、CA SYSVIEW の複数のリリースをサポート可能です。SVC モジュールは利用可能な最新のリリースである必要があります。

SVC と LPA のモジュールがシステムに追加されます。

ロードライブラリに対する APF 許可

ロードライブラリを許可して、利用可能にします。

以下の手順に従います。

SYS1.PARMLIB の PROGxx メンバに以下のコマンドを追加します。

```
APF ADD DSNAME(sysview.CNM4BL0D) VOLUME(volume)
```

PROGxx メンバへの DSNAME および VOLUME の追加後、ロードライブラリが APF 認可されます。ランタイムロードライブラリが SMS によって管理されている場合は、ボリュームに 'xxxxxx' を使用します。

LOGR EXIT および Linklist のセットアップ

提供された LOGR サブシステム EXIT は、任意の z/OS ログストリームをバッチプログラムへの入力ファイルとして使用可能にします。LOGR サブシステム EXIT は linklist データセットに存在している必要があります。

以下の手順に従います。

- データセット sysview.CNM4BL0D を linklist に定義している場合は、他の手順は必要ありません。
- データセット sysview.CNM4BL0D を linklist に定義していない場合は、以下のモジュールを既存の linklist データセットにコピーします。
 - GSVXLGEX
 - GSVXLGXG (GSVXLGEX の別名)

モジュールのコピー後、LOGR サブシステム EXIT が linklist データセット内に置かれます。

システム プロシージャ ライブラリへのスタートアップ手順の追加

注: MSM を使用して CA SYSVIEW を設定している場合、システム プロシージャは設定中に指定されたライブラリにすでにコピーされています。

スタートアップ プロシージャを更新し、システム プロシージャ ライブラリのうちの 1 つへ追加します。CA SYSVIEW メイン アドレス空間は、z/OS、JES2、CICS、IMS、WebSphere MQ および TCP/IP のデータ収集を実行します。

CICS と VTAM のインターフェースは、以下から開始できます。

- CA SYSVIEW ユーザ インターフェース アドレス空間。
- デフォルトのスタートアップ オプションが含まれる SYSVUSER パラメータライブラリ メンバー。

この手順に従って、スタートアップ プロシージャをシステム プロシージャ ライブラリへ追加します。

以下の手順に従います。

1. PROC をデータセット sysview.SAMPJCL からユーザのシステム プロシージャ ライブラリのいずれかにコピーします。

SYSVIEW PROC メンバ

CA SYSVIEW メイン サービス アドレス空間を開始するのに必要な JCL が含まれています。

MEM キーワードのデフォルト: SYSVIEW

COMMNDxx Member Entry: COM='S SYSVIEW,REUSASID=YES'

SYSVUSER PROC メンバ

初期化中に開始されるデフォルトの CA SYSVIEW 機能およびタスクのリストを提供します。

MEM キーワードのデフォルト: SYSVUSER

COMMNDxx メンバ エントリ: COM='S SYSVUSER'

2. PROC ステートメントの MEM キーワードが、アドレス空間の初期化パラメータを含む sysview.CNM4BPRM データセット内のメンバを参照するようにします。

注: CA SYSVIEW アドレス空間の詳細については、「Administration Guide」を参照してください。

3. アドレス空間を開始する前に、初期化パラメータを確認します。
4. IPL 実行時にアドレス空間を自動的に開始する場合は、SYS1.PARMLIB 内の COMMNDxx メンバに START コマンドを追加します。
注: SYS1.PARMLIB 内の COMMNDxx メンバの詳細については、適切な IBM ガイドを参照してください。

初期化(スタートアップ)プロシージャがシステム プロシージャライブラリに追加されます。

製品の起動

CA SYSVIEW を使用するには、メイン アドレス空間を開始します。

以下の手順に従います。

1. CA LMP のコードが仕様に従って定義されていることを確認します。
2. SYSVIEW を開始し、メイン サービス アドレス空間を初期化します。
SYSVUSER を開始し、ユーザ アドレス空間を開始します。

LMP コードが正しく定義され、これらのプロシージャが実行された後、メイン アドレス空間が開始されます。

インストール後の考慮事項

インストールが終了し、CA SYSVIEW が開始したら、インストール検証プログラム (IVP) を実行できます。IVP を任意のタイミングで実行して、インストールの検証を行うことも可能です。

IVP では、以下のプログラムが提供されます。

- GSVCUTIL
インストール パラメータの設定を確認する機能を提供します。
- GSVXBAT
任意の有効な CA SYSVIEW コマンドをバッチで実行し、CA SYSVIEW のコンポーネントを実行できるようにします。

プログラム GSVCUTIL を使用したインストールの検証方法

1. メンバ IVP00001 をサブミットします。

出力される IVP レポートには、以下の機能に関するインストール設定が含まれます。

- z/OS システム
- サブシステム
- スーパーバイザ コール(SVC)テーブル
- APF(許可プログラム機能)リスト
- SYSVIEW LMP キー

2. レポートを確認し、設定を検証します。

プログラム GSVXBAT を使用したインストールの検証方法

1. メンバ IVP00002 をサブミットします。

CA SYSVIEW コマンドの出力は SYSPRINT DD 名に返され、そこで設定を検証できます。

2. SYSPRINT 出力でメッセージを確認します。

コマンドがデータを返すかどうかは、インストール済みのコンポーネントまたはアクティブなコンポーネントによって決まります。

たとえば、IMS が非アクティブである場合、IMSLIST コマンド表示は空です。

注: サンプルジョブについては、SAMPLIB の EXECBAT メンバを参照してください。GSVXBAT プログラムの詳細については、「Administration Guide」を参照してください。

第7章：データ移行の情報

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[製品システム設定オプション](#) (P. 199)

[SYSVIEW サブシステム](#) (P. 200)

[サーバアドレス空間](#) (P. 200)

[テンプレートデータセット](#) (P. 201)

[ユーザ異常終了および理由コード](#) (P. 201)

[WTO コンソール メッセージ](#) (P. 202)

[外部セキュリティ SAF EXIT](#) (P. 204)

[MQSERIES Parmlib](#) (P. 204)

[時間またはインターバルの値の形式](#) (P. 205)

製品システム設定オプション

GEN モジュールは、CA SYSVIEW の旧リリースで行われていたシステム環境設定オプションの指定には使用されなくなりました。

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に設定オプションを設定するようになりました。

以下のガイドラインを使用します。

- システム環境設定オプション メンバをシステム parmlib データセットの連結に入れます。

SYS1.PARMLIB

- サブシステム ID を、z/OS システムまたは LPAR 内の CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールへ割り当てます。
- 4 文字の SYSVIEW サブシステム ID (SSID) を使用して、システム環境設定オプションシステム parmlib メンバを割り当てます。

Member name = GSVXssid

SYSVIEW サブシステム

CA SYSVIEW では、MVS サブシステム エントリを定義する必要はなくなりました。また、MVS サブシステム エントリは使用されず、動的に作成されることもあります。

SYSVIEW サブシステム ID によって、CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールが関連付けられ、システム環境設定パラメータが定義または決定されるようになりました。

以下のガイドラインを使用します。

- 4 文字の SYSVIEW サブシステム ID を使用して、CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールと関連付けます。このサブシステム ID によって、システム環境設定パラメータを定義または決定します。
デフォルトの SYSVIEW サブシステム ID は GSVX です。
注: 同じシステム上で CA SYSVIEW の複数のインスタンスを使用しなければ、GSVX のデフォルトを使用することをお勧めします。
- CA SYSVIEW の各呼び出し上で、パラメータとして SYSVIEW サブシステム ID を指定します。呼び出しのタイプに応じて、パラメータの指定を変更することができます。
- ユーザ代替可能モジュール GSVBSSID を使用するのは、SYSVIEW の呼び出し上でサブシステム ID がパラメータとして提供されない場合のみです。
GSVBSSID にはデフォルトの SYSVIEW サブシステム名が含まれています。

サーバ アドレス空間

GSVXMAIN プログラム エイリアスは削除されました。

旧リリースで、サーバ アドレス空間に対して実行したプログラムは GSVXMAIN として指定されました。GSVXMAIN はプログラム GSVXASCT のエイリアスでした。エイリアス GSVXMAIN は定義されなくなりました。

以下の SYSVIEW スターティッド タスクプロシージャは、実行するプログラムとして GSVXASCT を指定します。

SYSVIEW - メイン サービス アドレス空間
SYSVUSER - ユーザ インターフェース アドレス空間
SYSVAUX - 補助サービス アドレス空間
SYSVIEW EXEC PGM=GSVXASCT

テンプレートデータセット

新しいテンプレートデータセットが CA SYSVIEW 設定に追加されています。CA SYSVIEW は、テンプレートまたはスケルトン情報が含まれるテンプレートメンバを使用します。

CA SYSVIEW の旧リリースで、以下の名前は parmlib データセットのメンバでした。メンバはテンプレートデータセットに移動されました。

メンバ MAILFOOT は名前が変更され、2 つのメンバへ分割されました。

- FOOTHTML - HTML メッセージのメールフッタ。
- FOOTTEXT - テキストメッセージのメールフッタ。

コマンド FTPCA に関するメンバはテンプレートデータセットに移動されました。

- FTCPAPOS
- FTCPAPRE
- FTPCASTD
- FTPCATRS
- FTPCAVAR
- FTPCAXMI

ユーザ異常終了および理由コード

旧リリースでは、CA SYSVIEW はさまざまなユーザ異常終了コードおよび理由コードを使用して、ユーザに異常条件を通知しました。

SYSVIEW では、共通のユーザ異常終了コード番号を使用するようになりました。理由コードには特定の異常終了理由が含まれます。

System Configuration Options メンバ GSVXGSVX で以下のオプションを使用して、ユーザ異常終了コード番号を指定します。

| オプション | 値 |
|------------|------|
| ユーザ異常終了コード | 2999 |

WTO コンソール メッセージ

CA SYSVIEW は、WTO を使用してコンソールまたはジョブ ログへメッセージを書き込みます。ほとんどのメッセージは、事前定義済みメッセージテンプレートに挿入されるデータで、ランタイムに動的に作成されます。ほとんどの場合、余分なブランクは WTO によってログへのメッセージを書き込む前にメッセージから削除されます。

WTO の 1 行の最大メッセージ長は 126 文字です。動的に作成されたメッセージの長さの合計が 126 文字より大きい場合、複数行 WTO を使用してログに書き込まれています。

複数行 WTO は 1 行当たり 71 文字に制限されています。元のメッセージテキストは、メッセージテキスト内のブランク文字に基づいて複数のメッセージ行へ動的に分割されます。

メッセージの以下の行が、複数行 WTO として書き込まれます。

```
GSVC100W <type> <group> <metric> <rsce1> <rsce2> <oldstat> <newstat> V= <value> W= <warning> P= <problem> <rulertype> <elapsed> <jobname> <tran> <task#> <term> <user> Desc='<description>'
```

WTO 発行タスクの識別子が、すべての GSVC_{nnn} メッセージの先頭に挿入されます。

GSVC_{nnn}I (*task*) メッセージ テキスト

task

XDIS - CA SYSVIEW 外部データ インタフェース

SDCS - CA SYSVIEW システム データコレクタ

SCHT - CA SYSVIEW スケジューラ

LOGT - CA SYSVIEW メッセージ ログ記録

TPPT - CA SYSVIEW トランザクション後処理

GSVI - CA SYSVIEW for CICS 初期化トランザクション

タスク - CICS トランザクション

例: リリース 13.5 メッセージ

以下の CA SYSVIEW リリース 13.5 サンプル メッセージにはタスク識別子が含まれます。

```
GSVC101I (XDIS) USR1234 has issued a CANCEL for the transaction CEMT.
```

```
GSVC102I (XDIS) CANCEL Tran CEMT Task 124 WaitType ZC1OWAIT  
GSVC150W (GSVI) Function NORMAL_CANCEL Response 02 EXCEPTION
```

CA SYSVIEW は、コンソールまたはジョブ ログへメッセージを書き込むために WTO のブランチ入力フォームの使用を開始しました。そのため、発行済みの メッセージに関連付けられているジョブ名は現在、メッセージを発行したジョブ名ではなく、**CONSOLE** になっています。この変更は、メッセージのジョブ名に焦点を絞るあらゆる自動化に影響を及ぼします。たとえば、CA OPS/MVS System State Manager (SSM) は、メッセージ変数 message variable *msg.jobname* を参照する STATEMAN.RULES(SSMSYSV) にサンプル メッセージ ルールを配布しました。このサンプル ルールを更新して、メッセージ変数 *msg.ojobname* を使用します。この変数には、メッセージの元のジョブ名が含まれています。

外部セキュリティ SAF EXIT

SAF EXIT およびエントリに対して、以下の変更が行われました。

- サンプル SAF EXIT である **SAFSECX** および **JSPLSECX** はサポートされなくなりました。
 - エンティティクラス名をコーディングする以外の変更を行わなかった場合は、以下のタスクを実行します。
内部セキュリティで、**GLOBAL** グループの **External Security** セクションで **SAF Entity Class Name** を指定します。
 - サンプル EXIT を変更した場合は、以下のタスクを実行します。
SAF の前に、**CNM4BSAM SMP/E** ターゲットライブラリ EXIT のメンバ **SAFSAMPX** で提供されている新規サンプル EXIT シェルを呼び出します。
- エンティティ **SV.SAF** へのアクセスによって、SAF がアクティブかどうか決定されなくなりました。
SAF がアクティブかどうか決定するには、**RACROUTE REQUEST=STAT** コールを内部で実行します。SAF が利用可能でない場合、アクセスが許可されるのは **ADMIN** グループのユーザのみです。
- **SV.AET** および **SV.AETLIMIT** エンティティは、アクセステーブルの使用を決定するためには確認されなくなりました。
Access Entity Table Size によって、アクセステーブルの使用が確認されるようになりました。Access Entity Table Size エンティティは、ユーザ内部セキュリティグループの **External Security** セクションにあります。
- **SV.SCC** エンティティは、ユーザ セッションの終了時に SAF 統計が WTO を実行するかどうかを決定するために検証されなくなりました。
SAF 統計は、ユーザ **SESSION_LOGOFF** 監査レコードに表示されるようになりました。

MQSERIES Parmlib

WebSphere MQ オプションが有効な場合、MQSERIES parmlib メンバで MQ Interface ロードライブラリの名前の指定が必要になりました。

時間またはインターバルの値の形式

r13.5 より前のリリースでは、時間またはインターバル値の形式は以下のとおりでした。

ddxhhym

dd

日数を示します。

x

日付区切り記号文字を指定します。

hh

時間を示します。

y

時間区切り記号文字を指定します。

mm

分数を示します。

ユーザ プロファイルで指定された *x* 位置の日付区切り記号は削除され、常にスラッシュ (/) を使用するようになりました。以下に例を示します。

旧: 5.02:30 - 5 日、2 時間、30 分

新: 5/02:30 - 5 日、2 時間、30 分

付録 A: CCS for z/OS コンポーネントの要件

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[FMID \(P. 207\)](#)

FMID

このセクションでは、CA Common Services for z/OS コンポーネントおよびそれに 対応する FMID について説明します。これらは、CA SYSVIEW を使用して、さまざまな機能を実行するために必要になります。すべての情報または最新の情報については、「CA Common Services for z/OS 導入ガイド」の「システム要件」の章 のインストールの依存関係を参照してください。

以下の 2 つの FMID セットが提供されます。

- FMID の最初のセットは、CCS for z/OS r11 Service Pack 8 をベースにしています。
- 2 番目のセットは CCS for z/OS r12 をベースにしています。

CA LMP(ライセンス管理プログラム)

CA SYSVIEW のベース製品ライセンスを検証するには、以下の CCS for z/OS コンポーネントが必要です。

- CCS for z/OS r11 SP8 をベースとする FMID

| FMID | コンポーネント |
|----------------------------------|---------|
| CS91000 | CAIRIM |
| ■ CCS for z/OS r12 をベースとする FMIDs | |

| FMID | コンポーネント |
|---------|------------------|
| CAS9C00 | CAIRIM |
| CBYS280 | CA GSS |
| CAW4C00 | CAICCI (SSL を使用) |

- CCS for z/OS r14 をベースとする FMID

| | |
|---------|---------|
| FMID | コンポーネント |
| CAS9E00 | CAIRIM |

IBM Health Checkerへのインターフェース

IBM Health Checkerに対する CA SYSVIEW のインターフェースでは、以下の CCS for z/OS コンポーネントが必要です。

CCS for z/OS r11 SP8 および r12 をベースにした FMID:

| | |
|---------|----------------------------------|
| FMID | コンポーネント |
| CEF5C00 | CA Health Checker Common Service |

注: 完了しておかなければならぬその他のセットアップおよび設定の手順の詳細については、「*CCS for z/OS 管理ガイド*」を参照してください。

CA zIIP 有効化サービス

CA zIIP 有効化サービスに対する CA SYSVIEW インターフェースでは、以下の CCS for z/OS コンポーネントが必要です。

- CCS for z/OS r11 SP8 をベースとする FMID

| | |
|---------|---------|
| FMID | コンポーネント |
| CS91000 | CAIRIM |

注: CCS for z/OS r11 には、PTF RO27636 が必要です。

- CCS for z/OS r12 をベースとする FMID

| | |
|---------|---------|
| FMID | コンポーネント |
| CAS9C00 | CAIRIM |

注: CCS for z/OS r12 には、PTF RO27110 が必要です。

- CCS for z/OS r14 をベースとする FMID

| FMID | コンポーネント |
|---------|---------|
| CAS9E00 | CAIRIM |

付録 B: インターフェース オプション

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[TSO および CA Roscoe/ETSO インターフェースのサポート \(P. 211\)](#)

[ISPF インターフェースのサポート \(P. 212\)](#)

[VTAM インターフェースのサポート \(P. 214\)](#)

[CICS インターフェースのサポート \(P. 215\)](#)

[コンソール インターフェースのサポート \(P. 217\)](#)

[ローカル 3270 デバイス インターフェースのサポート \(P. 219\)](#)

[バッチ インターフェースのサポート \(P. 219\)](#)

TSO および CA Roscoe/ETSO インターフェースのサポート

TSO(タイムシェアリング オプション) および (CA Roscoe/ETSO (CA Roscoe/拡張タイムシェアリング オプション) インターフェースによって、TSO または CA Roscoe/ETSO 経由で CA SYSVIEW にアクセスできます。

CA SYSVIEW TSO インターフェースまたは CA Roscoe/ETSO インターフェースを使用でき、追加のインストール手順を実行する必要はありません。

注: *sysview.CNM4BLOD* データ セットが *linklist* でない場合に、*STEPLIB* または *JOBLIB* の DD ステートメントを追加します。これを追加することで、CA SYSVIEW へのアクセスに TSO インターフェースを使用できるようになります。

CA SYSVIEW 用の TSO コマンド モジュールは **SYSV** という名前です。

CA Roscoe/ETSO からの CA SYSVIEW へのアクセス

CA Roscoe/ETSO インターフェースのインストール後は、CA Roscoe/ETSO から CA SYSVIEW にアクセスできます。

以下の手順に従います。

1. SYSV プログラム名のエントリを EPL (Eligible Program List) に追加します。

MODESET 許可フラグ

フラグを Y (yes) に設定すると、MODESET 許可フラグが設定されます。

コマンド プロセッサ フラグ

フラグを CP (command processor) に設定すると、コマンド プロセッサ フラグが設定されます。

2. ROSCOE JCL 内の ETSOLIB DD ステートメントに、*sysview.CNM4BLOD* データ セットを追加します。
3. CA Roscoe/ETSO コマンド ラインで以下を入力します。

CALL SYSV

CA SYSVIEW が CA Roscoe/ETSO 環境で開始されます。

注: CA Roscoe/ETSO へのアプリケーション定義の詳細については、CA Roscoe のマニュアルを参照してください。

ISPF インターフェースのサポート

ISPF インターフェースを使用すると、ISPF 環境で CA SYSVIEW を実行して、ISPF の画面分割機能を利用することができます。

ISPF サポートのインストールは、データ セット *sysview.CNM4BISP* から TSO ログオン PROC の適切な ISPF DD ステートメントへメンバをコピーすることで行います。

注: ISPF インターフェース サポートを再インストールする場合は、新規 ISPF パネルおよび GSVXCMDS メンバもインストールします。

ISPF サポートの永続的なインストール

ISPF サポートを永続的にインストールして、ISPF の画面分割機能を使用することができます。

以下の手順に従います。

1. データ セット *sysview.CNM4BISP* 内のメンバを、TSO ログオン PROC 内の ISPTLIB DD ステートメントで指定されているデータ セットにコピーします。

注: 可能な限り、ユーザ定義のデータ セットを指定してください。

2. データセット *sysview.CNM4BISP* から TSO ログオン PROC 内の ISPPLIB DD ステートメントで指定されているデータセットへ、以下のメンバをコピーします。

- GSVX000M
- GSVX000J
- GSVX000D
- GSVX00KM
- GSVX000P
- GSVX00KP

注: 可能な限り、ユーザ定義のデータセットを指定してください。

3. *sysview.CNM4BISP* (SAM@PRIM) メンバの SYSV または GSVX を含むステートメントを使用して、ISPF Primary Option Menu メンバ ISR@PRIM を更新します。ISR@PRIM メンバは、TSO ログオン PROC 内の ISPPLIB DD ステートメントで指定されているデータセット内にあります。

CA SYSVIEW が ISPF のメインメニューで選択オプションとして表示されます。

注: *sysview.CNM4BLOD* データセットが linklist でない場合に、STEPLIB または JOBLIB の DD ステートメントを追加します。これを追加することで、CA SYSVIEW へのアクセスに ISPF インターフェースを使用できるようになります。

ISPF サポートの動的なインストール

ISPF サポートを動的にインストールして、ISPF 画面分割機能を使用することもできます。

以下の手順に従います。

1. データセット *sysview.CNM4BSAM* の SYSVCLST メンバまたは SYSVREXX メンバを使用して、ISPF LIBDEF 機能へアクセスします。
これらのメンバは ISPF LIBDEF 機能を使用します。
2. CA SYSVIEW を呼び出すのに必要なパネル、テーブルおよびモジュールを一時的に割り当てます。

ISPF サポートの動的なインストールは完了しています。

VTAM インターフェースのサポート

VTAM インターフェースを使用して、CA SYSVIEW を VTAM 環境で実行できます。IBM ACF/VTAM Programmed Operator Interface を使用することにより、VTAM コマンドを入力し、CA SYSVIEW 内で結果を見ることができます。

VTAM サポートのインストール

VTAM インターフェース サポートのインストール後、VTAM から CA SYSVIEW を使用できます。

以下の手順に従います。

1. データセット *sysview.CNM4BSAM* から SYS1.VTAMLST データセットへ、SYSVAPPL メンバをコピーします。
以下のサポートがデータセット SYS1.VTAMLST から利用可能になりました。
 - VTAM で CA SYSVIEW を使用する際に使用される APPLID。
 - CA SYSVIEW VTAM コマンドが使用する APPL ステートメント。
2. SYSVAPPL メンバの最初の APPL ステートメントで、ACBNAME パラメータを設定します。VTAM インターフェースをから CA SYSVIEW にログインする際に使用する名前を選択します。VTAM インターフェースを開始する際に、その名前を使用します。
CA SYSVIEW VTAM コマンドは残りの APPL ステートメント (SYSVPO03 から SYSVPO00 という名前の) を使用して、ACF/VTAM へコマンドをサブミットします。ユーザがコマンドを同時に使用できるように、4 つの APPL ステートメントが提供されています。この数を増やすには、追加した各 APPL について、SYSVPO_n APPL 名の末尾の数値を 1 づつ増分して、APPL ステートメントを追加します。
3. SYS1.VTAMLST データセット内の ATCCON メンバに SYSVAPPL 名を追加します。
VTAM が開始すると、SYSVAPPL メンバがアクティブになります。
4. データセット *sysview.CNM4BSAM* 内の USSTAB メンバにある CA SYSVIEW USSTAB エントリを、インストール USSTAB メンバへ追加します。
このエントリによって、CA SYSVIEW のログオン手順が簡略化されます。
USSTAB エントリを使用しない場合は、完全 LOGON コマンドを使用して、VTAM から CA SYSVIEW へログインします。

5. USSTAB メンバ内の CMD と DEFAULT のパラメータを、この手順の 2 番目で ACBNAME パラメータに使用した値に設定します。

6. USSTAB テーブルをアセンブルし、VTAMLIB 連結内の適切なデータセットにそれを配置します。

注: ユーザのサイトで適切な USSTAB がすでに利用可能である場合は、この手順をスキップします。

7. MODIFY TABLE コマンドを使用して、VTAM に USSTAB を再ロードします。

CA SYSVIEW の変更がシステムに組み込まれます。VTAM インターフェースサポートのインストールが完了しました。

注: VTAM インターフェースの開始方法については、「*Administration Guide*」を参照してください。

CICS インターフェースのサポート

CICS インターフェース サポートによって、CICS セッションから CA SYSVIEW にログオンし、インターフェースをモニタおよびカスタマイズできます。

CICS インターフェースでは、CICS データ収集オプションがアクティブである必要はありません。

注: CICS インターフェース サポートのインストール後、およびログオン前に、CA SYSVIEW ユーザ アドレス空間で CICS インターフェースを開始します。CICS インターフェースの開始方法および使用方法については、「*Administration Guide*」を参照してください。

CICS ユーザ ID EXIT ルーチン

以下で CICS ユーザ ID EXIT ルーチンについて説明します。

- ユーザ ID EXIT ルーチンは、CICS ユーザのユーザ ID を取得します。このルーチンは、オンラインインターフェースに適切な CA SYSVIEW プロファイルデータセットメンバーを提供します。このユーザ ID は CA SYSVIEW セキュリティでも使用されます。
- CA SYSVIEW ロードライブラリで配布されているデフォルト ユーザ ID EXIT は、CA SYSVIEW にユーザ ID を渡しません。そのため、CA SYSVIEW は、ユーザ ID の入力を促すメッセージをユーザに対して表示します。
- デフォルトの EXIT のソースは *sysview.CNM4BSAM* データセットの GSVXCXT1 メンバに存在します。ユーザがアセンブルを行う必要はありません。

セキュリティシステムを使用するための EXIT の変更

一部の CICS システムには独自の EXIT セキュリティシステムがあります。EXIT を変更して、セキュリティシステムの制御ブロックからユーザ ID を取得できます。

以下の手順に従います。

1. *sysview.CNM4BSAM* データセットから GSVXCXT1 メンバを取得します。
2. セキュリティ要件を満たすように GSVXCXT1 メンバを変更します。
3. GSVXCXT1 メンバをアセンブルし、それを GSVXCXT1 という名前でデータセット *sysview.CNM4BLOD* にリンクします。

ユーザのセキュリティシステムが CA SYSVIEW に定義されます。

CICS トランザクション終了 EXIT ルーチン

以下で CICS トランザクション終了 EXIT ルーチンについて説明します。

- このルーチンは、CA SYSVIEW オンラインインターフェーストランザクションの終了時に、別のトランザクションにコントロールを渡すことができます。
- デフォルトの EXIT のソースは、*sysview.CNM4BSAM* データセット内の GSVXCXT2 メンバに存在します。ユーザがアセンブルを行う必要はありません。

トランザクション終了 EXIT の変更

トランザクション終了 EXIT を変更して、コントロールを渡すトランザクションを指定することができます。

以下の手順に従います。

1. データセット *sysview.CNM4BSAM* から *GSVXCXT2* メンバを取得します。
2. 必要に応じて *GSVXCXT2* メンバを変更します。
3. *GSVXCXT2* メンバをアセンブルし、それを *GSVXCXT2* という名前でデータセット *sysview.CNM4BLOD* にリンクします。

コントロールが、指定したトランザクションに渡されます。

コンソール インターフェースのサポート

CA SYSVIEW コンソール インターフェースによって、CA SYSVIEW コマンドとの通信、コマンドの実行をコンソールから行うことができます。インターフェースは CA GSS 製品を使用して実装されます。CA GSS は CA Common Services for z/OS と共にインストールされる製品で、CA SYSVIEW のライセンシングに必要です。

CA GSS が CA SYSVIEW と通信を行う仕組み

CA GSS は提供されたアプリケーション プログラム インターフェイス *GSVXAPIE* を使用して CA SYSVIEW と通信します。

初期化処理中、CA GSS は以下のように通信を行います。

- CA SYSVIEW の長期実行セッションを開始するサーバを開始します。デフォルトのサーバ名は *SYSVCNS* です。CA SYSVIEW に向けたコンソールコマンドはすべてこのサーバ経由でルーティングされます。
- *IMOD\$SYSVIEWE_INIT* を実行します。この IMOD は CA SYSVIEW サービスを開始します。

終了処理中、CA GSS は *IMOD\$SYSVIEWE_TERM* を実行します。この IMOD は CA SYSVIEW サービスを終了します。

コンソール インターフェースの有効化

コンソール インターフェースを有効にするには、以下の条件を満たす必要があります。

- CA SYSVIEW がインストールされている必要があります。
- CA GSS がインストールされアクティブである必要があります。
- CA GSS ランタイム パラメータ メンバ RUNPARM に、以下のステートメントが存在している必要があります。

```
COMMAND VERB SYSV IMOD SYSVIEW_CONSOLE  
PRODUCT SYSVIEWE  
ADDRESS SYSVIEWE GSvxAPIE 15 DETACH TYPE 0  
ISET     SYSVIEWE DSN sysview.CNM4BIMD SSID ISRV LOAD
```

注: RUNPARM メンバは、上述のステートメントの一部またはすべてをすでに含んでいる場合があります。SAMPLIB メンバ GSS はこれらのステートメントを含んでいます。

コンソール インターフェースのカスタマイズ

ユーザ サイトの要件を満たすように、コンソール インターフェースをカスタマイズできます。

以下の手順に従います。

1. IMOD SYSVIEW_CONSOLE 内の以下のオプションのいずれかまたはすべてを選択します。
 - すべての出力メッセージにプレフィックスを添付します。
 - WTO ルートコードを指定します。
 - WTO 記述子コードを指定します。
 - メッセージの最大長を指定します。
 - データ行の末尾を表示します。
 - データ行の最大数を指定します。
2. 各オプションをカスタマイズし保存します。

これらの操作を完了すると、ユーザのコンソール インターフェースがカスタマイズされます。

ローカル 3270 デバイス インターフェースのサポート

CA SYSVIEW ローカル 3270 デバイス インターフェースを使用すると、ローカルで接続された任意の 3270 デバイスから専用モードで製品を実行できます。

`sysview.SAMPJCL` データセットの `SYSVLCL PROC` をシステム プロシージャ ライブ リーのいずれかにコピーして、インターフェースをインストールします。

このインターフェースは以下の場合に使用します。

- TSO と VTAM がアクティブでない場合でも、CA SYSVIEW でセッションを開始する場合。
- JES がアクティブでない場合。
- `SYSVLCL PROC` が `SYS1.PROCLIB` に配置され、プロシージャの開始時に `SUB=MSTR` を指定する場合。

注: `SYSVLCL` ローカル 3270 デバイス インターフェース プロシージャの開始方法については、「*Administration Guide*」を参照します。

バッチ インターフェースのサポート

バッチ インターフェースを使用すると、CA SYSVIEW でバッチ処理を実行することができます。バッチ インターフェースを使用するためのインストール プロシージャは必要ありません。

注: 詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。

索引

3

3270 デバイス サポート - 219
 JES 制御ブロック マップ - 151
 オプション、学習 - 23
3270 のデバイス サポート - 219

C

CA Health Checker - 25, 28
CA LMP - 29
CICS
 JCL - 189
 インターフェース サポート - 215
 トランザクション終了 EXIT - 216
 内部トレース テーブル エントリのフォーマット - 188

E

ESD (電子ソフトウェア配布) - 15

F

FMID - 207

G

GIMUNZIP ユーティリティ - 59
GSVIIINST インストール パラメータ - 65, 91, 116

H

HOLDDATA - 84

I

ICSF (Integrated Cryptographic Services Facility) - 59

J

Java バージョン サポート - 59
JES
 構成名 テーブル - 146

命名規則 - 148

P

pax ESD プロシージャ
 USS ディレクトリの設定 - 49
 製品ディレクトリの作成 - 58
 製品ファイルのコピー - 52
 ファイルのダウンロード - 45
pax ファイル
 USS ディレクトリへのファイルのコピー - 52, 53, 56

R

read me - 43, 59

S

SMP/E
 GIMUNZIP ユーティリティ - 59

U

UNZIPJCL - 59
USS (UNIX System Services)
 アクセス要件 - 43, 49
 ディレクトリ クリーンアップ - 82
 ディレクトリ構造 - 49
 USS ディレクトリへのファイルのコピー - 52, 53, 56

あ

空きスペース - 49
アクセス
 ログイン - 41
アセンブル
 JES 制御ブロック マップ - 151
 制御ブロック マップ - 145
アップグレード情報 - 199
インストール
 Pax-Enhanced ESD から - 43

-
- テープから - 87
 - インストール ジョブ、実行および変更 - 63
 - インターフェース サポート、インストール
 - CA Roscoe/ETSO - 211
 - CICS - 215
 - ISPF - 212
 - VTAM - 214
 - オプション、学習 - 23
- か**
- 外部 HOLDDATA - 84
 - カスタマ サポート、問い合わせ - 4
 - キー証明書 - 32
 - キャプチャイベントのカタログ化 - 152
 - 許可
 - APF - 63
 - CA LMP - 30
 - 高レベル修飾子 - 59
 - コンソール インターフェース - 217
 - コンポーネント
 - CCS for z/OS の要件 - 207
 - 指定 - 65, 91, 116
 - 情報の取得 - 25
- さ**
- サポート、問い合わせ - 4
 - サンプル ジョブ - 53, 58
 - CAtoMainframe.txt - 53
 - Unpackage.txt - 58
 - 処理の概要 - 43
 - 制御ブロック マップ モジュール - 145
 - 製品
 - 取得 - 15
 - 製品ダウンロード ウィンドウ - 46
 - 製品の取得 - 15
 - 製品レベル ディレクトリ - 58
 - セキュリティ要件 - 20
 - ソフトウェア
 - 配布 - 15
- た**
- ダウンロード
- ESD を使用したファイル - 45
 - PC 経由でメインフレームへ - 56
 - オプション - 52
 - 概要 - 43
 - バッチ JCL の使用 - 53
 - テープ、インストールに使用 - 87
 - テクニカル サポート、問い合わせ - 4
 - テクニカル サポートへの問い合わせ - 4
 - 動的インストール ユーティリティ - 190
- な**
- 内部 HOLDDATA - 84
- は**
- 配布
 - テープ - 15
 - 配布、製品の取得 - 15
 - ハッシュ設定 - 59
 - バッチ インターフェース - 219
 - 変換
 - セキュリティデータ セットの変換 - 176
 - プロファイルデータ セットの変換 - 179
- ま**
- 命名規則
 - JES 構成モジュール - 148
- ら**
- ライブラリの割り当て - 78
 - 履歴データの収集 - 153
 - ローカル 3270 デバイスのサポート - 219
 - ログ
 - セキュリティ要件 - 20
 - 定義 - 153
 - 命名規則 - 156
- わ**
- 割り当ておよびマウント - 50